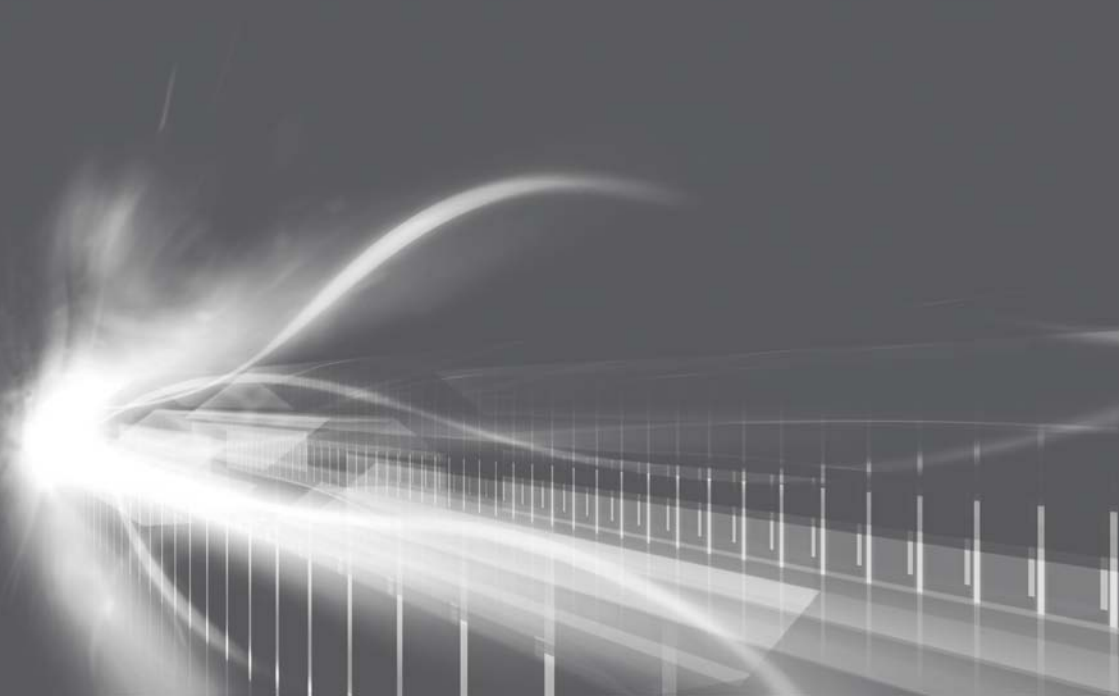


取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AQUA

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 5
本書の見方 9
検索のしかた 10
イラスト目次 11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 20
安全なドライブのために 21
シートベルト 23
SRS エアバッグ 27
排気ガスに対する注意 33

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 34
チャイルドシート 35

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 49
ハイブリッドシステムの注意 53

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 58
オートアラーム 59

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 62
計器類 65
マルチインフォメーションディスプレイ 69
ヘッドアップディスプレイ 75
エネルギーモニター／燃費画面 79

3 運転する前に

3-1. キー
キー 86

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 89
バックドア 93
スマートエントリー&スタートシステム 96

3-3. シートの調整
フロントシート 102
ターンチルトシート 104
リヤシート 111
ヘッドレスト 112

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 115
インナーミラー 116
ドアミラー 117

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 119

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 124
荷物を積むときの注意 131

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ（プッシュボタンスタートシステム装着車） 132
パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車） 139
EV ドライブモード 143
トランスミッション 145
方向指示レバー 150
パーキングブレーキ 151

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ 152
AHB（オートマチックハイビーム） 156
フォグランプスイッチ 158
ワイパー&ウォッシャー（フロント） 160
ワイパー&ウォッシャー（リヤ） 162

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方 164

4-5. 運転支援装置について
Toyota Safety Sense 166
PCS（プリクラッシュセーフティ） 171
LTA（レーントレーシングアシスト） 181
RSA（ロードサインアシスト） 190
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 193
先行車発進告知機能 202
BSM（ブラインドスポットモニター） 204
クリアランスソナー 211
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 220
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 225
ドライブモードセレクトスイッチ 236
Toyota Teammate Advanced Park 237
運転を補助する装置 258
プラスサポート（販売店装着オプション） 264
専用パワーステアリング 267

4-6. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス 268
寒冷時の運転 270

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方
オートエアコン（10.5 インチマルチメディア非装着車） 274
オートエアコン（10.5 インチマルチメディア装着車） 280
ステアリングヒーター／シートヒーター 286

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 288

5-3. 収納装備
収納装備一覧 290
ラゲージルーム内装備 295

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 298
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 302
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 310

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 314
内装の手入れ 317

6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 320
ガレージジャッキ 321
ウォッシャー液の補充 323
タイヤについて 323
タイヤ空気圧について 326
エアコンフィルターの交換 327
駆動用電池冷却用吸入口 329
電子キーの電池交換 332
ヒューズの点検・交換 334
電球（バルブ）の交換 336

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 342
非常点滅灯（ハザードランプ） 343
発炎筒 343
車両を緊急停止するには 344
水没・冠水したときは 345

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 347
警告灯がついたときは 352
警告メッセージが表示されたときは 358
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 362
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 372
ハイブリッドシステムが始動できないときは 379
キーをなくしたときは 380
電子キーが正常に働かないときは 381
補機バッテリーがあがったときは 383
オーバーヒートしたときは 388
スタックしたときは 391
助手席ターンチルトシートが車外に出た状態で回転できないときは .. 392

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 396

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 401

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 411

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 414
車から音が鳴ったときは（音さくいん） 416
アルファベット順さくいん 418
五十音順さくいん 419

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をするおそれがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

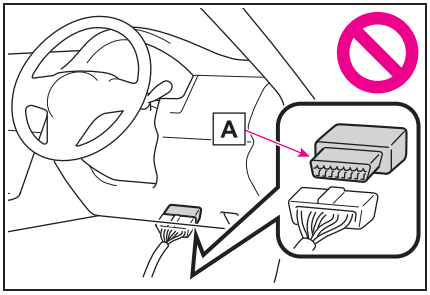
RF 送信機の取り付けについては、P.7 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数／電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報
  車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム
● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読み

ください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.264）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

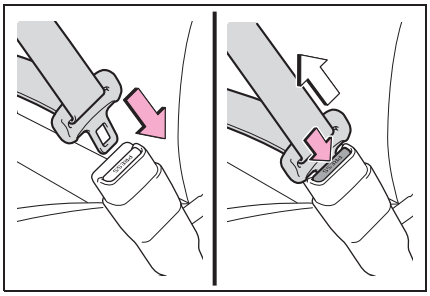
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

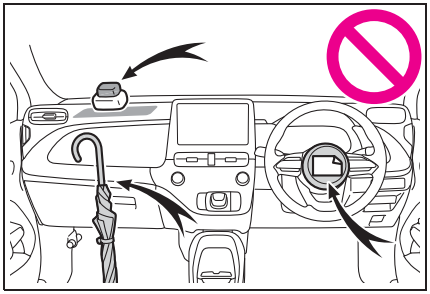
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

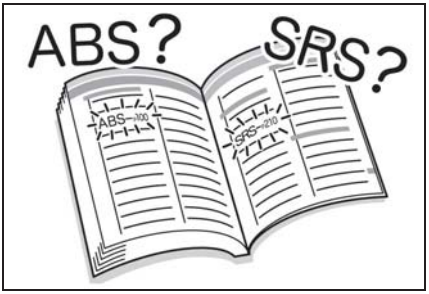


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

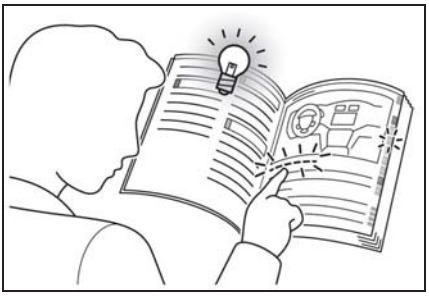
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.419
●アルファベット順さくいん：P.418



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.11

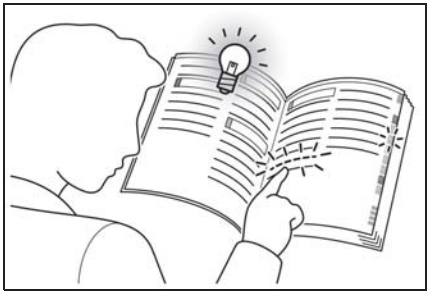


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.414
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.416

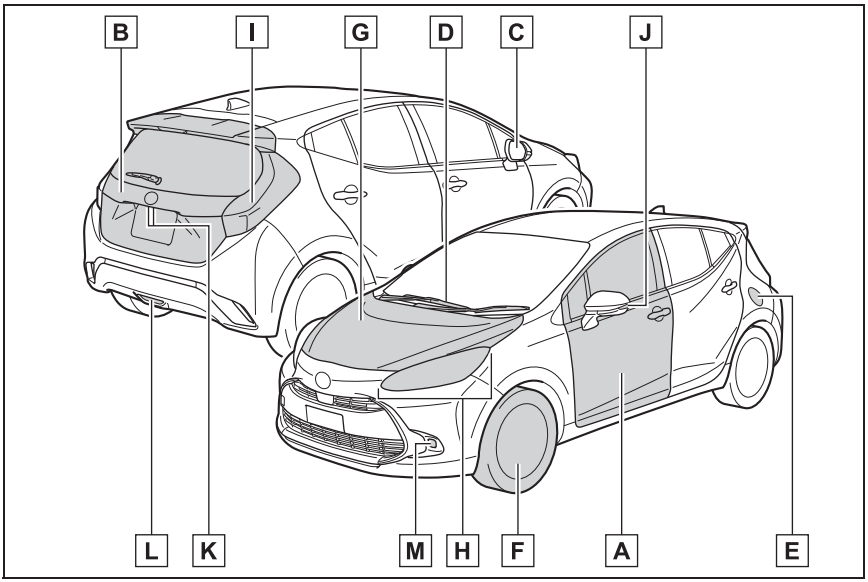
■ タイトルから探す

●目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A ドア P.89

施錠／解錠 P.89

ドアガラスの開閉 P.119

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.381

警告メッセージ P.92

B バックドア P.93

施錠／解錠 P.94

警告メッセージ P.95

C ドアミラー P.117

鏡面の角度調整 P.117

ミラーの格納 P.118

曇りを取る（ミラーヒーター） P.275, 282

D ワイパー P.160

冬季の注意 P.270

凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ P.278

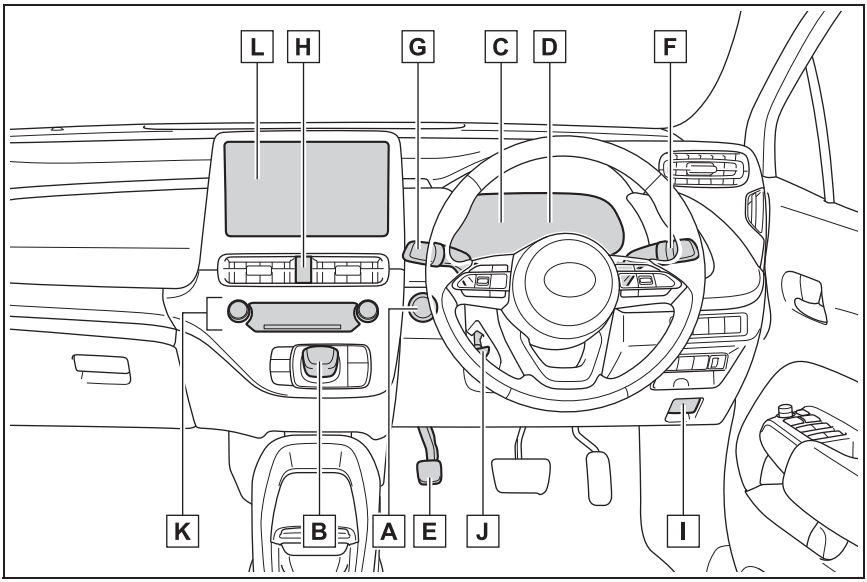
E 給油口 P.164
給油方法 P.165
燃料の種類・燃料タンク容量 P.396
F タイヤ P.323
サイズ・空気圧 P.399
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.270
点検・ローテーション P.323
パンク時の対処 P.362, 372
G ボンネット P.320
開け方 P.320
エンジンオイル P.396
オーバーヒート時の対処 P.388

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.336, ワット数：P.400）

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★
・方向指示灯 P.150, 152
I 尾灯・制動灯・方向指示灯 P.150, 152
J 方向指示灯 P.150
K 番号灯 P.152
L リヤフォグランプ★ P.152, 158
後退灯
シフトポジションを R にする P.145
M フロントフォグランプ★ P.158

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



A パワースイッチ P.132

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.132

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.344

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.379

警告メッセージ P.358

B シフトレバー P.145

シフトポジションの切りかえ P.145

けん引時の注意 P.347

C メーター P.65

見方・明るさの調整 P.65

警告灯／表示灯 P.62

警告灯点灯時の対処 P.352

D マルチインフォメーションディスプレイ P.69

表示内容 P.69

エネルギーモニター P.79

警告メッセージ表示時の対処 P.358

E パーキングブレーキ P.151

かける・解除する P.151

冬季の注意 P.270

警告ブザー P.151

F 方向指示レバー P.150

ランプスイッチ P.152

ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト★・尾灯 P.152

フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ P.158

G ワイパー&ウォッシャースイッチ P.160, 162

使い方 P.160, 162

ウォッシャー液の補充 P.323

H 非常点滅灯スイッチ P.343

I ボンネット解除レバー P.320

J ハンドル位置調整レバー P.115

K エアコン P.274, 280

操作方法 P.274, 280

リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） ... P.275, 282

L オーディオ★※

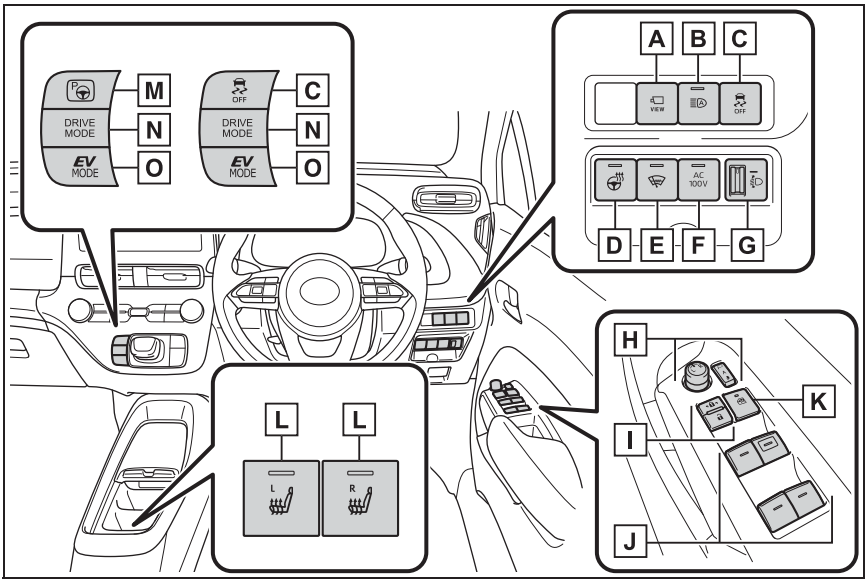
音楽を聴く※

電話をかける・受ける（ハンズフリー）※

※ 別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



A パノラミックビューモニターメインスイッチ★※

B オートマチックハイビームスイッチ P.156

C VSC OFF スイッチ★ P.259

D ステアリングヒータースイッチ★ P.287

E フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.278

F AC100V スイッチ P.302

G 手動光軸調整ダイヤル P.155

H ドアミラースイッチ P.117

I ドアロックスイッチ P.91

J パワーウインドウスイッチ★ P.119

K ウインドウロックスイッチ P.121

L シートヒータースイッチ★ P.287

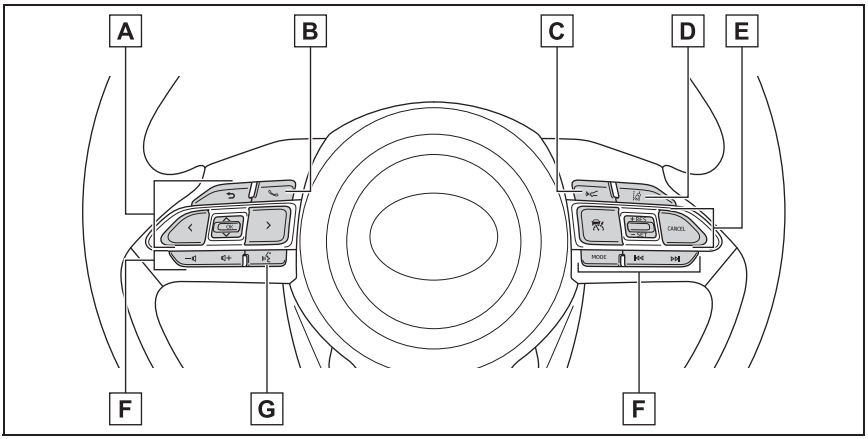
M Advanced Park（駐車支援システム）メインスイッチ★ P.241

N ドライブモードセレクトスイッチ P.236

O EV ドライブモードスイッチ P.143

※ 別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.70

B 電話スイッチ ※

C 車間距離切りかえスイッチ P.198

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.181

E クルーズコントロールスイッチ

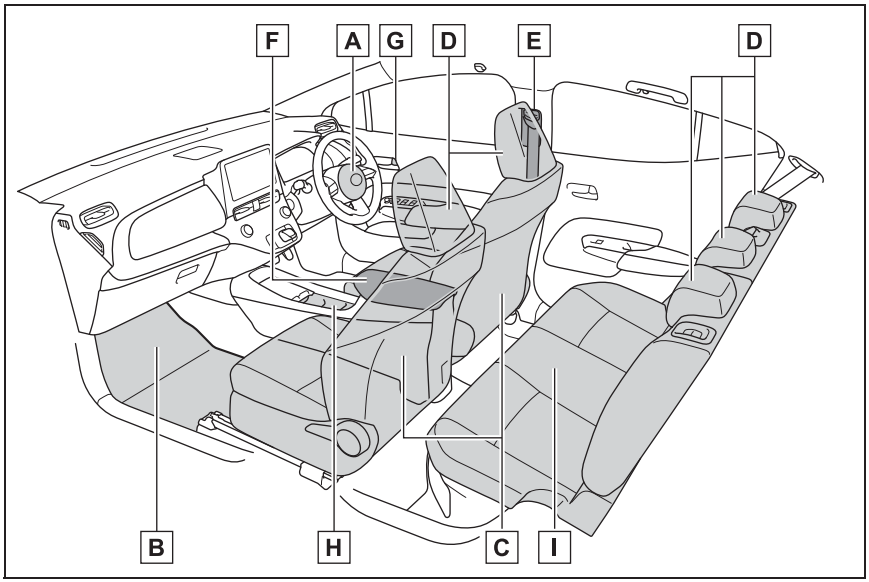
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） P.193

F オーディオスイッチ ※

G トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

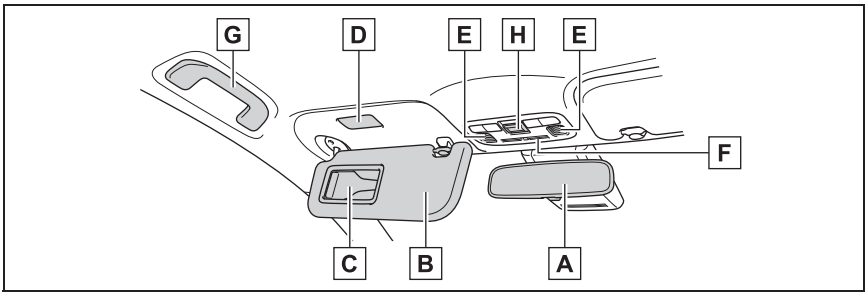
■ 室内



A SRS エアバッグ P.27
B フロアマット P.20
C フロントシート P.102
D ヘッドレスト P.112
E シートベルト P.23
F コンソールボックス★ P.292
G ロックレバー P.92
H カップホルダー P.292
I リヤシート P.111

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■天井



A インナーミラー P.116
B サンバイザー※1 ..... P.301
C バニティミラー★ P.301
D バニティミラーランプ★ P.301
E インテリアランプ／パーソナルランプ P.288
F マイク※2★
G アシストグリップ★ P.300
H ヘルプネットボタン※2★

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.37）

※2別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために
～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 20
安全なドライブのために 21
シートベルト 23
SRS エアバッグ 27
排気ガスに対する注意 33

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 34
チャイルドシート 35

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 49
ハイブリッドシステムの注意 53

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 58
オートアラーム 59

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

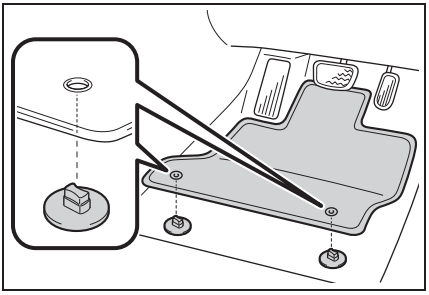
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

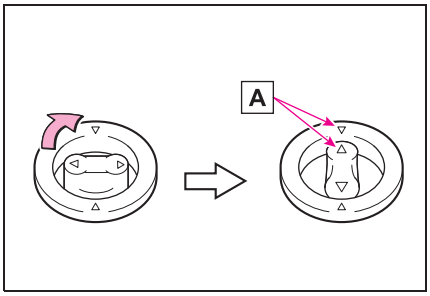
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

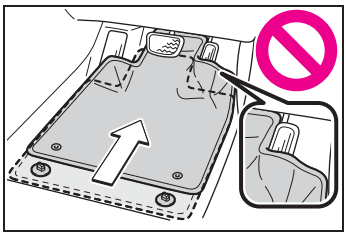
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

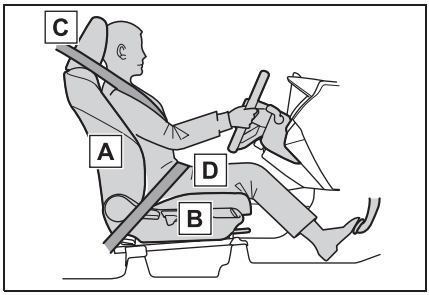


●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.102, P.104）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.102, P.104）

C 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.112）

D シートベルトを正しく着用する（→P.23）

⚠警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.23）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P.35）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
（→P.116, 117）

シートベルト

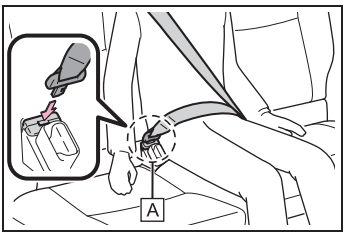
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠警告

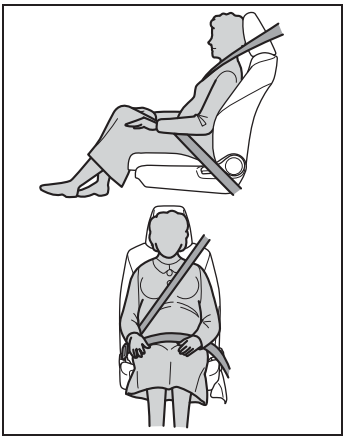
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、図のA部が結合されていることを確認する
  結合されていない場合は結合してから使用する



■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.24)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

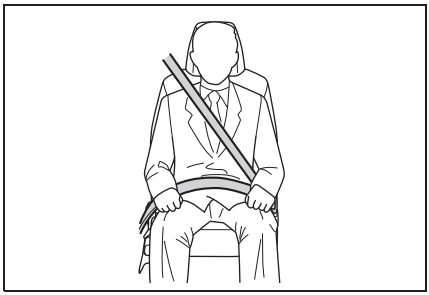
■お子さまを乗せるとき

→P.45

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

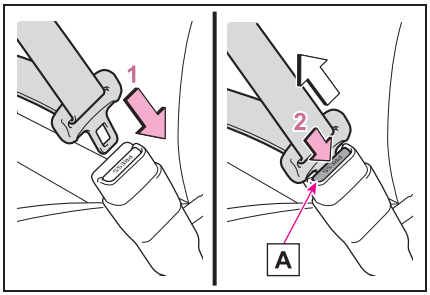
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.35)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

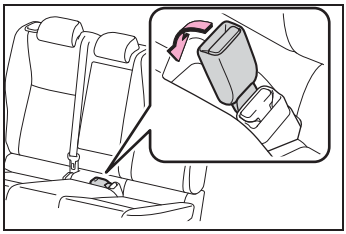
知識

■シートベルトロックの解除方法

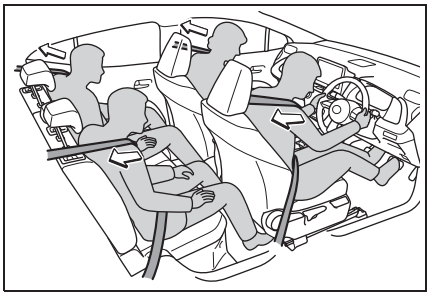
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について（Toyota Safety Sense 装着車）

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

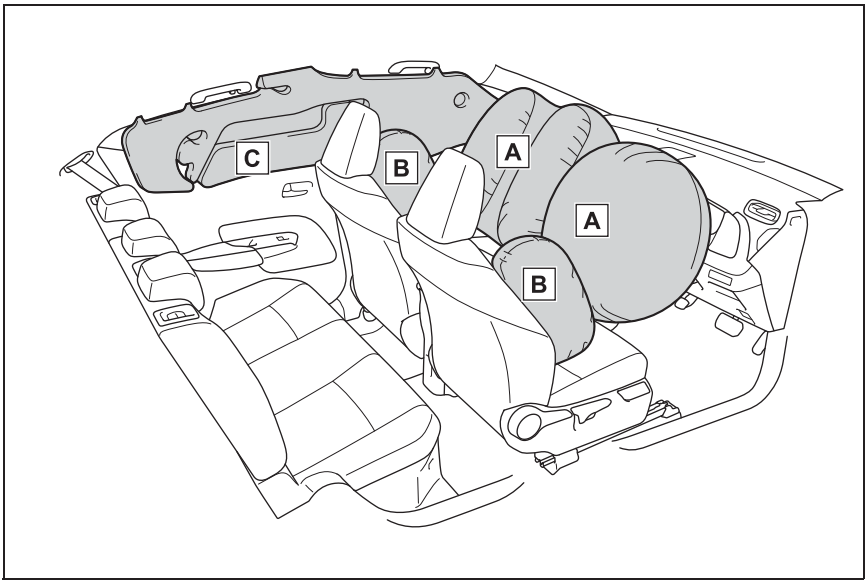
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

B SRS フロントサイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します

C SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和します

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.56）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.259）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.288）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.343）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは「マルチメディア取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

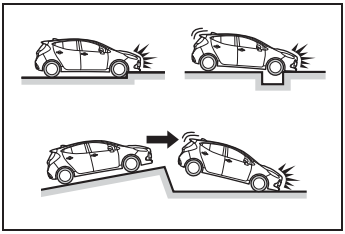
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

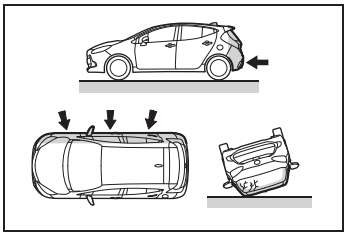
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方

からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロントSRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

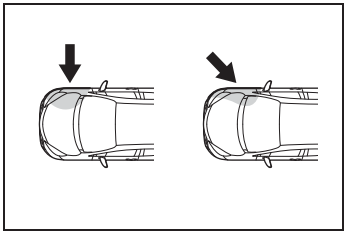


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

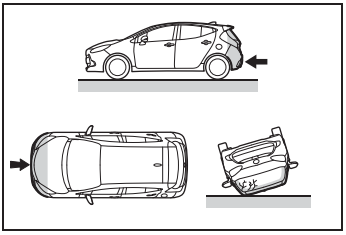


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

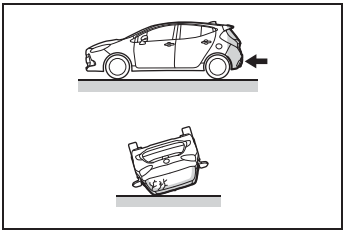
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

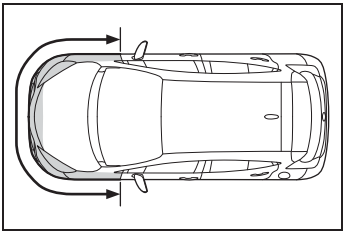


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

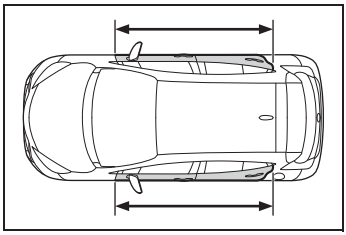
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

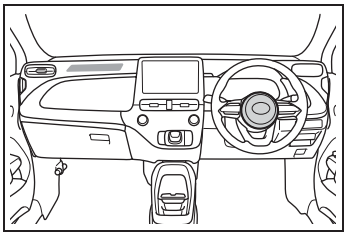


●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したと

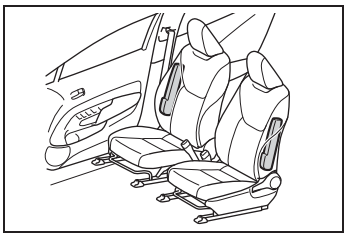
き、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



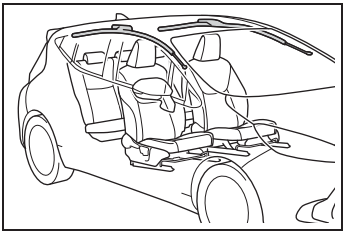
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

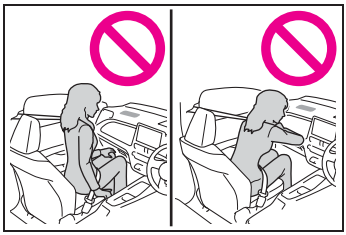
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

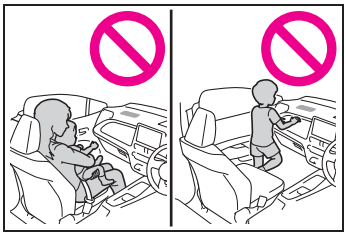
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.35)

⚠ 警告

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

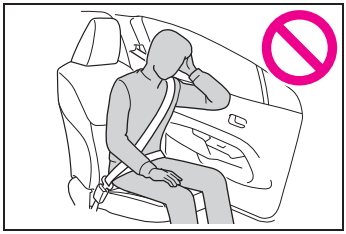


●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

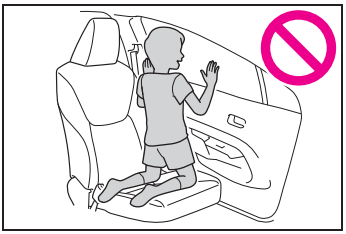


●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

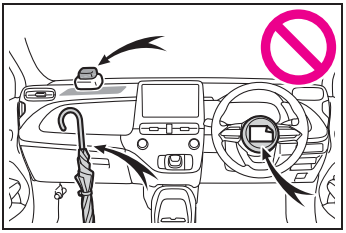
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



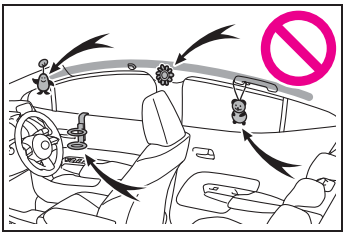
●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P.364）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカー周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.35）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.92）・ウインドウロックスイッチ（→P.121）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.35）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.35
チャイルドシートを使用するときは：P.36
シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.38
チャイルドシートの取り付け方法：P.43
・ シートベルトで固定する：P.44
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.46
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.47

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  (→P.38)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.38）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

▶ 助手席ターンチルトシート装着車

助手席にチャイルドシートを取り付けることはできません。

▶ 助手席ターンチルトシート非装着車

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

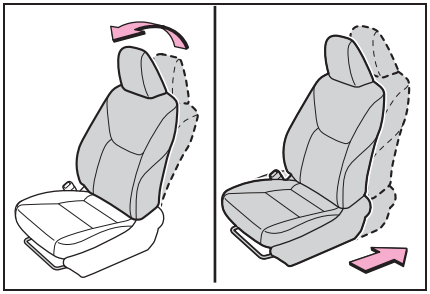
- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- 分割式ヘッドレスト装着車：

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

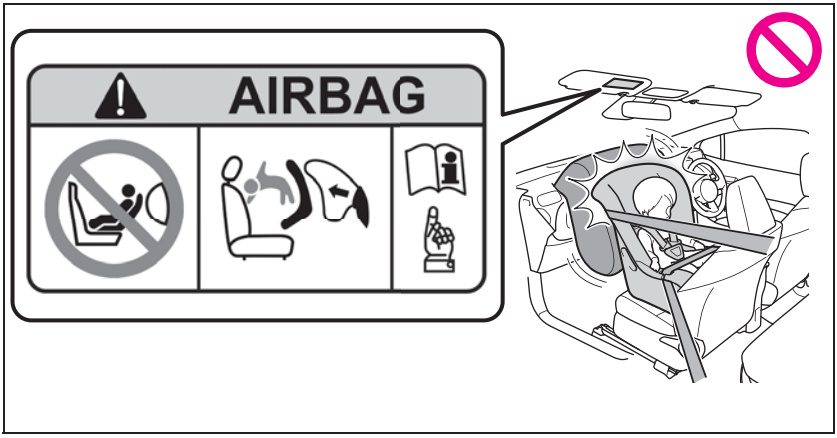
●助手席ターンチルトシート装着車：

助手席にチャイルドシートを装着しないでください。装置の破損や、お子さまが重大な傷害につながるおそれがあります。

●助手席ターンチルトシート非装着車：

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

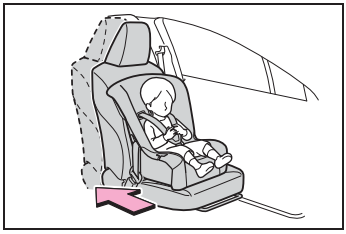
⚠警告



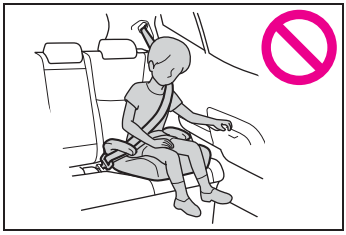
⚠警告

●助手席ターンチルトシート非装着車：

やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



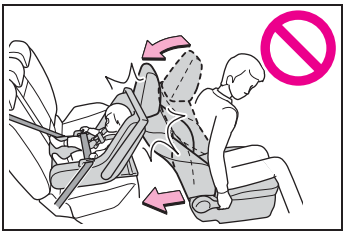
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.40）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.42）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

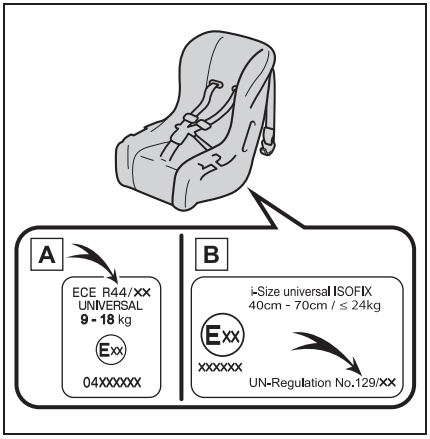
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク※2

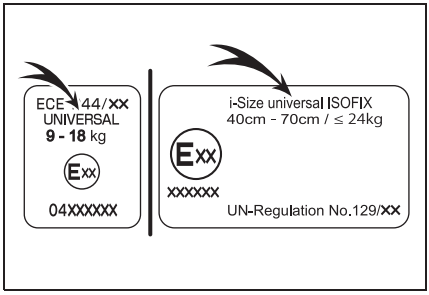
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

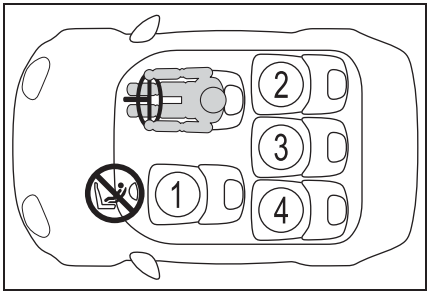


※1 UN(ECE) R44、UN(ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

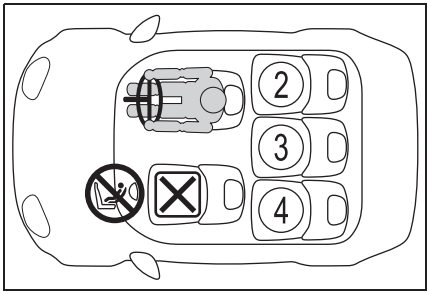
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 助手席ターンチルトシート非装着車



▶ 助手席ターンチルトシート装着車



① ※1, 2, 3	U ※4
② ※3	U L i-Size ISOFIX
③ ※3	U
④ ※3	U L i-Size ISOFIX

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.42）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

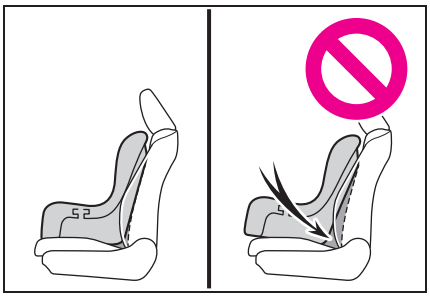
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ **推奨チャイルドシートと適合性一覧表**

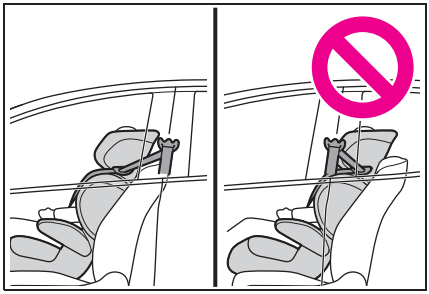
質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	×	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅰ (9 ～ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	×	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅱ、Ⅲ (15 ～ 36kg)	トヨタ純正 ジュニアシート	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイル

ドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

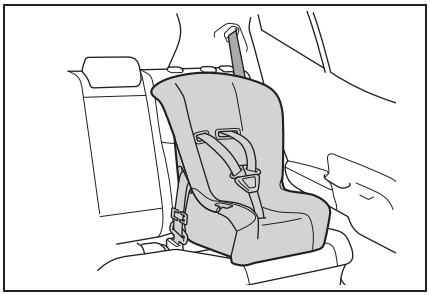
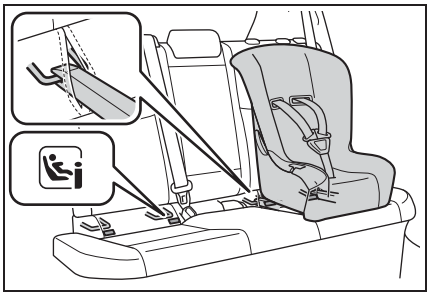
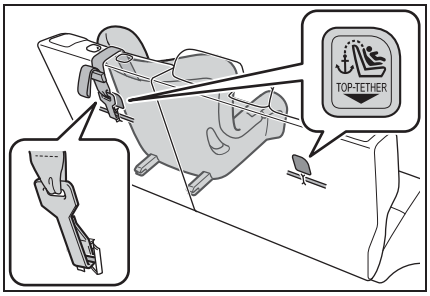
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子さまがかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.44
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.46
テザーベルトを固定する		P.47

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.39, 40）

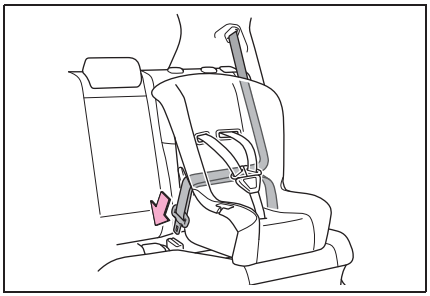
1 助手席ターンチルトシート非装着車：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.36）

2 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストとチャイルドシー

トが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.112)

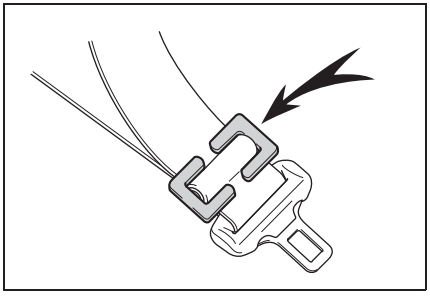
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番:73119-22010)



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.45)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

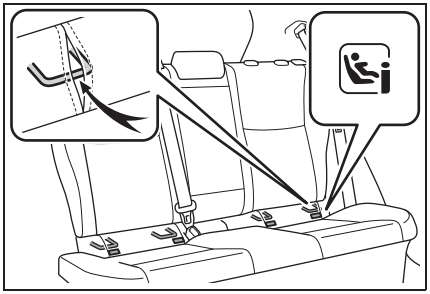
⚠ 警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



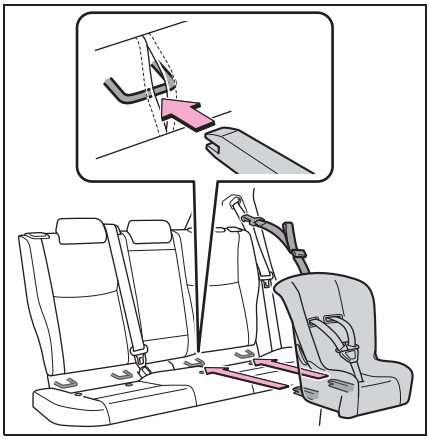
■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.39, 40）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.112）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.45）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

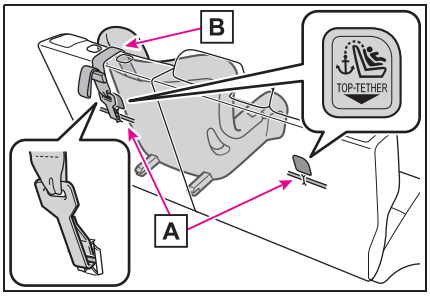
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

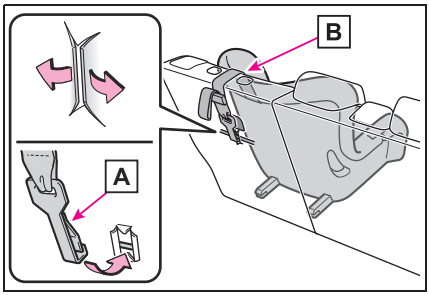
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.112)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.45)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

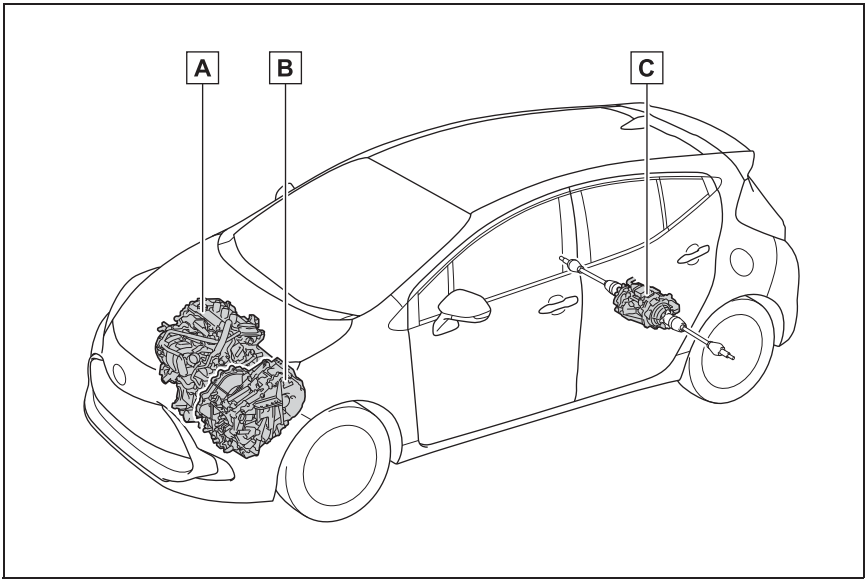
- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。
シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが

自動停止しないことがあります。
(→P.50)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

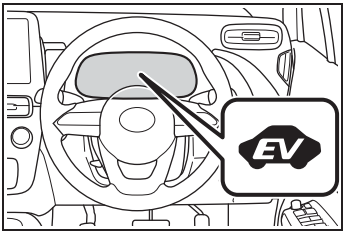
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDまたはBで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.385

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

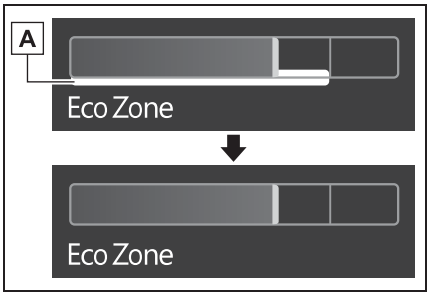
先読みエコドライブ（エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット、またはプレミアムナビキット装着車）

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。先読みエコドライブの詳細については、別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

- ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド P.69 の「ア

クセル操作の目安」Aの表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。



● アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

■ 先読み SOC※ 制御

ナビゲーションシステムでのルート案内中、電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

● 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。

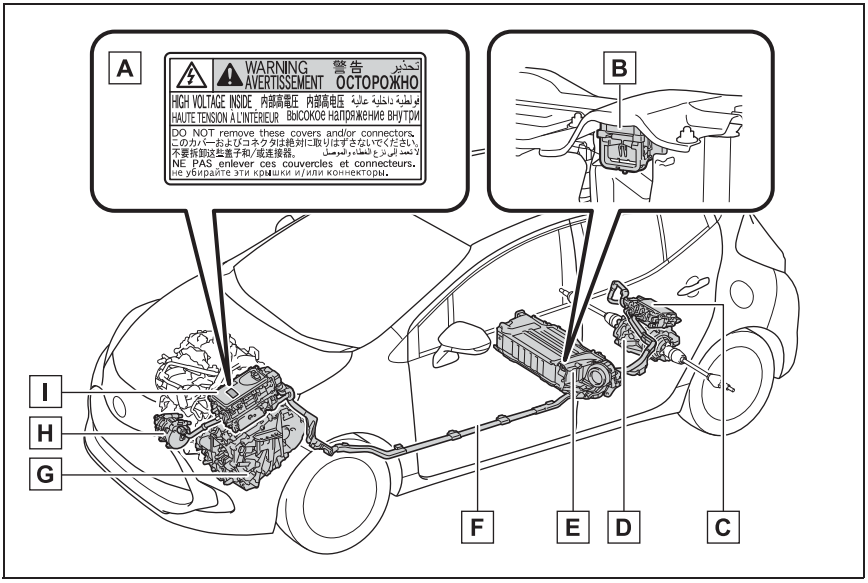
● 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

※ SOC は駆動用電池残量です。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 580V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B サービスプラグ

C リヤインバーター（4WD 車）

D リヤ電気モーター（4WD 車）

E 駆動用電池

F 高電圧ケーブル（オレンジ色）

G フロント電気モーター

H エアコンコンプレッサー

I パワーコントロールユニット

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.354）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 6.3L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

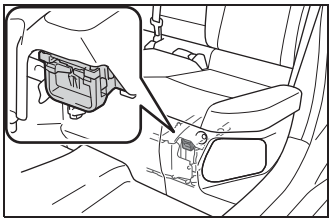
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

⚠警告

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

▶ニッケル水素電池装着車：

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

▶リチウム電池装着車：

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.347）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

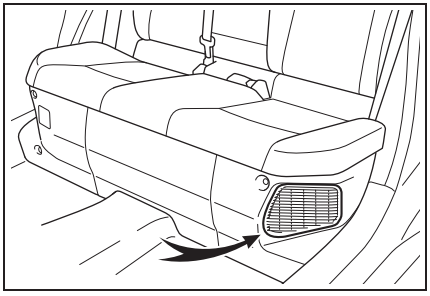
⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

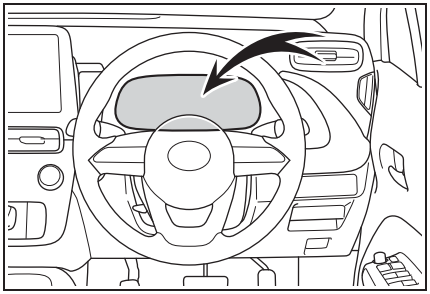
●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃についてはP.329 を参照してください。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

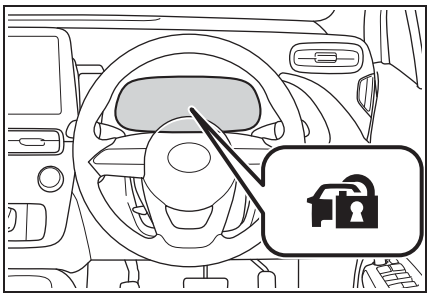
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書／ T-Connect ／マイカーサーチ／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

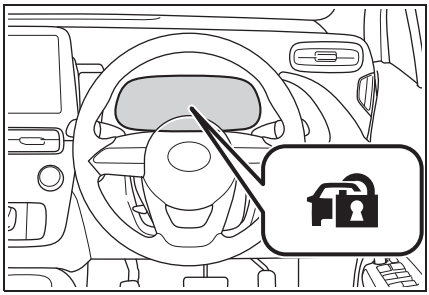
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

ボンネットが開いていても、すべてのドアが閉じていればオートアラームは設定できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

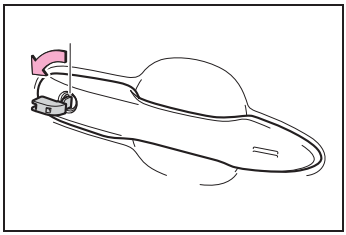
■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■オートアラームの作動について

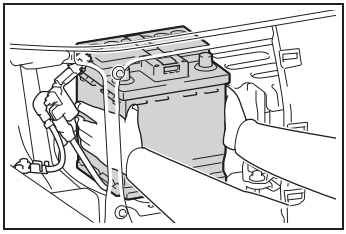
次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.385）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないよう、設定を変更することができます。（→P.401）

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示 2

2-1. 計器の見方

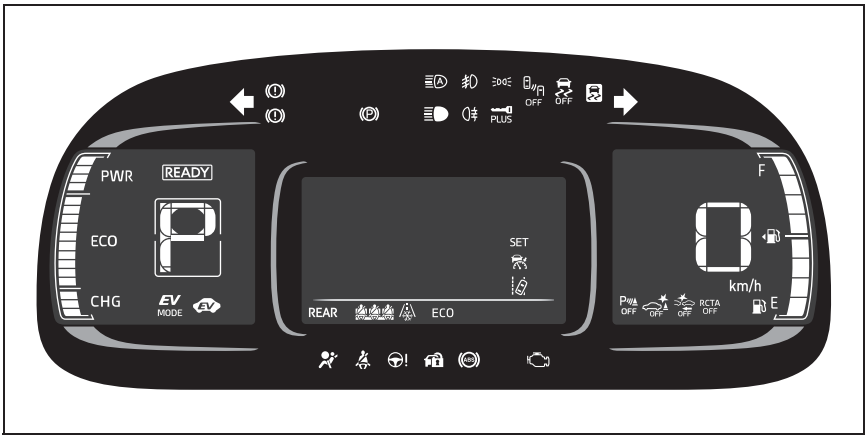
警告灯／表示灯 62
計器類 65
マルチインフォメーションディスプレイ 69
ヘッドアップディスプレイ 75
エネルギーモニター／燃費画面 79

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

- ブレーキ警告灯 ※1（→P.352）（赤色）
- ブレーキ警告灯 ※1（→P.352）（黄色）
- 高水温警告灯 ※2（→P.352）
- ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.352）
- 充電警告灯 ※2（→P.353）
- 油圧警告灯 ※2（→P.353）
- エンジン警告灯 ※1（→P.353）
- SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.353）
- ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.353）
- ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.171, 354）
- パワーステアリング警告灯 ※1（→P.354）（赤色）
- パワーステアリング警告灯 ※1（→P.354）（黄色）
- 燃料残量警告灯（→P.354）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.354）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.355）

（橙色）
LTA 表示灯（→P.355）

クリアランスソナー OFF 表示灯★（→P.355）

RCTA OFF 表示灯★※1（→P.355）

PKSB OFF 表示灯★※1（→P.356）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯※1（→P.356）

スリップ表示灯※1（→P.356）

パーキングブレーキ表示灯（→P.357）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.150）

尾灯表示灯（→P.152）

ハイビーム表示灯（→P.154）

AHB 表示灯（→P.156）

フロントフォグランプ表示灯★（→P.158）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.158）

PCS 警告灯※1, 2（→P.174）

クルーズコントロール表示灯（→P.193）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.193）

クルーズコントロールセット表示灯（→P.193）

（白色）
LTA 表示灯（→P.186）

（緑色）
LTA 表示灯（→P.186,172）

（橙色点滅）
LTA 表示灯（→P.186）

BSM ドアミラーインジケーター★ ※1, 3（→P.204, P.220）

BSM OFF 表示灯★ ※1, 2（→P.204）

クリアランスソナー OFF 表示灯★ ※1, 2（→P.212）

RCTA OFF 表示灯★ ※1, 2（→P.220）

PKSB OFF 表示灯★ ※1, 2（→P.226）

（点滅）
スリップ表示灯 ※1（→P.259）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.259）

スマートエントリー&スタートシステム表示灯★ ※4（→P.139）

プッシュボタンスタートシステム表示灯★ ※4（→P.132）

READY インジケーター（→P.132）

EV ドライブモード表示灯（→P.143）

パーキングブレーキ表示灯（→P.151）

EV インジケーター（→P.50）

低温表示灯 ※5（→P.65）

セキュリティ表示灯（→P.58, 59）

エコドライブモード表示灯（→P.236）

パワーモード表示灯★（→P.236）

パワー＋モード表示灯★（→P.236）

プラスサポート表示灯★（→P.264）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 ドアミラーに表示されます。

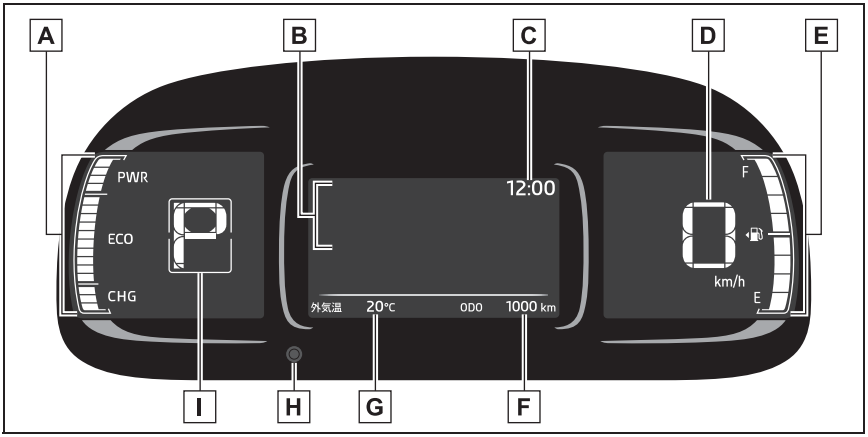
※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5 外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.66)

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.69)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.358)

C 時計 (→P.67)

D スピードメーター

E 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.67)

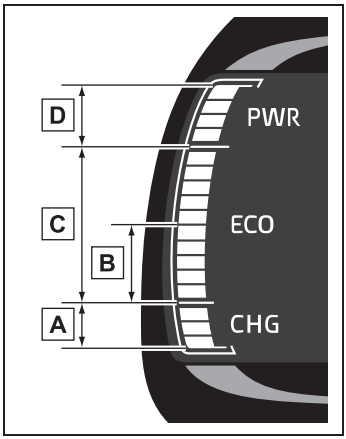
G 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

H 表示切りかえボタン (→P.67)

I シフトポジション表示灯 (→P.145)

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。
回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

知識

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- ●ハイブリッドシステムインジケーターが点灯していないとき。
- ●シフトポジションがDまたはB以外のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1. 車両を平坦な場所に停車させる
2. 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
3. パワースイッチを OFF にする
4. 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチを ON にする
5. そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

- ●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
- ・停車しているときや、低速走行（約

25km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.69

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ で、計器類の表示を変更できます。（→P.73）

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

マルチインフォメーションディスプレイに高水温警告灯が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.388）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

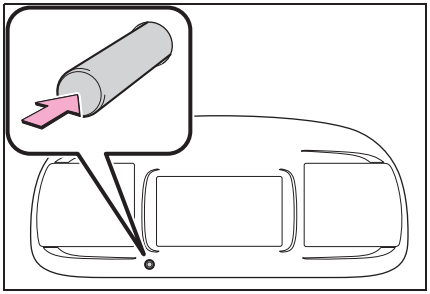
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



時計の調整をするには

▶ マルチメディアシステム非装着車

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して “時計設定” を選択する

メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

● 0 ～ 29 分は切り下げられます。（例えば、1：00 ～ 1：29 は

1：00 になります。）

● 30 ～ 59 分は切り上げられます。
（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります。）

■ 詳細設定

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの〈または〉を押して“時計設定”を選択する

3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して変更したい項目を選択する

5 メーター操作スイッチの〈または〉を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

● 12 時間表示／ 24 時間表示

● 時

● 分

▶ マルチメディアシステム装着車

マルチメディア画面より、時計の設定を変更できます。
設定方法は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

メーター照明の明るさを調整をするには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、メーターの明るさを変更できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの〈または〉を押して“メーター輝度調整”を選択し、OK スイッチを長押し

3 メーター操作スイッチの〈または〉を押して明るさを調整する

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

● 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

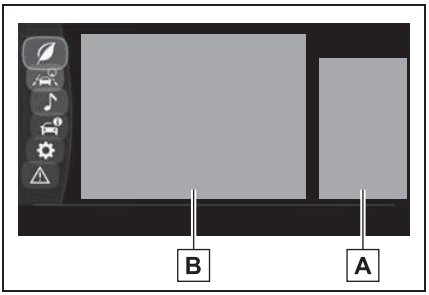
● 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.181）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.193）
- RSA（ロードサインアシスト）（→P.190）

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの∧または∨を押すとメニューアイコンが表示されます。

	走行情報表示（→P.70）
	運転支援機能情報表示（→P.72）
	オーディオシステム連携表示★（→P.72）
	車両情報表示（→P.72）
	設定（→P.73）
	警告メッセージ（→P.358）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

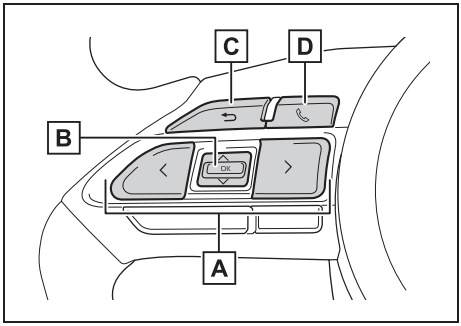
⚠ 警告

■低温時の画面表示について

→P.65

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ∧／∨：メニューの切りかえ
〈／〉：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

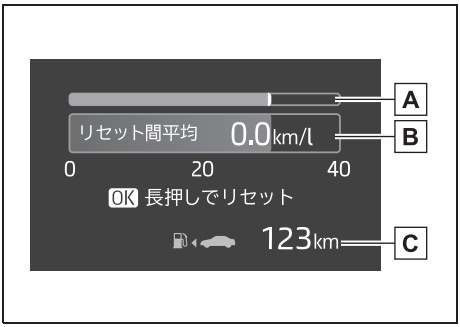
走行情報表示について

■ 表示項目

- 燃費グラフ
- エコアクセルガイド／エコジャッジ

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B リセット間平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

C 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離を表示します。

運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.66）

平均燃費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

- リセット間平均燃費

リセット間の平均燃費を表示します。

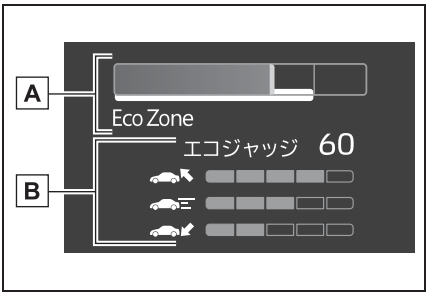
● 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

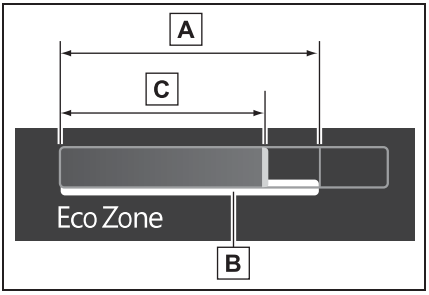
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に白色のバーで表示されます。

この表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

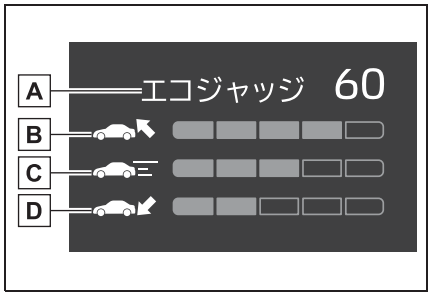
C 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダル操作を示す表示が、白色のバー表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→P.125）

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



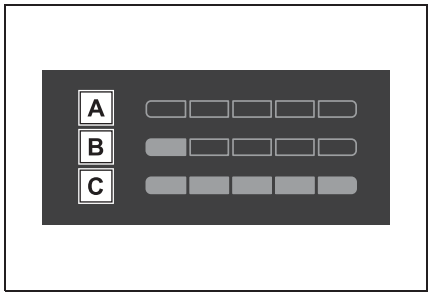
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ停車の状況

● 表示の見方



A 未評価

B 低い

C 高い

・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

・ ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。

知識

■エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

●ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.181）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.193）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■目的地案内について★

ヘッドアップディスプレイ★の目的地案内表示を ON にしている場合、メーター側の目的地案内は非表示になります。（→P.75）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示について★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

メニューアイコンは、⚙ で表示 / 非表示を設定できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両情報表示について

■ 表示項目

● ドライブインフォメーション

● エネルギーモニター（→P.79）

● EV 走行時間表示

● 4WD 作動状態表示 (4WD 車)★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ” の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.73）

表示される数値は参考として利用してください。
表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後 ※

・ 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間 ※

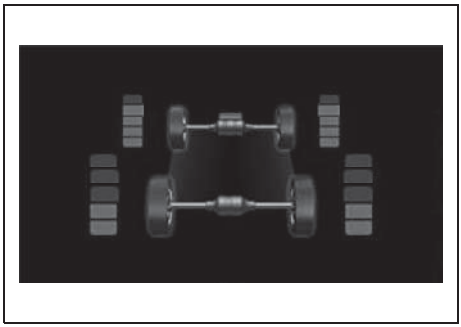
・ 平均車速：リセット間の平均車速を表示
・ 走行距離：リセット間の走行距離を表示
・ 走行時間：リセット間の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ EV 走行時間表示

総走行時間のうち、EV 走行時間の割合を表示します。

■ 4WD作動状態表示 (4WD車)★



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示

0～5の6段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 時刻表示（マルチメディアシステム非装着車）
→P.67

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● 🍃

・ ハイブリッドシステムインジケーター
エコアクセルガイドの表示・非表示を選

択することができます。(→P.71)

・燃費グラフ

平均燃費の表示をリセット間／始動後／給油後から選択することができます。(→P.70)

● ♪★

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

● 🚗ⓘ

・表示コンテンツ

エネルギーモニター／4WD 作動状態表示画面★の表示・非表示を選択することができます。

・ドライブインフォタイプ

始動後／リセット間から選択することができます。

・ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 今回の走行結果表示

ハイブリッドシステムを停止すると、ハイブリッドシステム始動したときからの走行データを表示します。

表示内容は、ドライブインフォメーション／エコジャッジから選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには∧／∨／＜／＞／OK／↩のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ **変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）**

→P.401

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

⚠警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

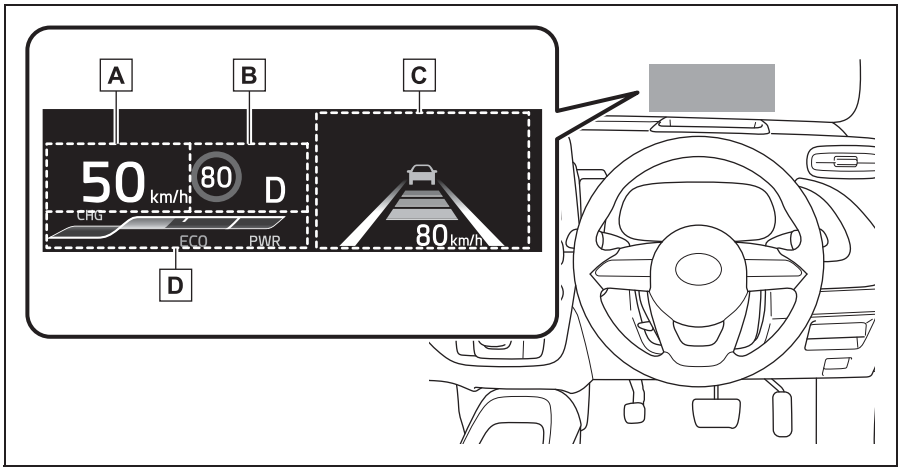
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 車速表示

B シフトポジション／ RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.145, 190）

C 運転支援システム表示エリア／ナビゲーションシステム連携表示エリア★（→P.77）

D ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター／外気温表示エリア（→P.78）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

●ヘッドアップディスプレイの表示が見づらい場合は、次の方法で調整してください。

・ヘッドアップディスプレイの上下調整

(→P.76)
・シートの上下調整（→P.102, P.104）

●サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

⚠警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

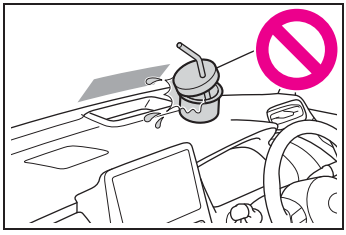
●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から“HUD メイン”を選択します。（→P.401）

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

・表示なし
・ハイブリッドシステムインジケーター表示
・タコメーター表示

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

・目的地案内★
・運転支援システム表示
・オーディオ表示

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

⚠ 警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

■ 運転支援システム状況表示

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.181）
● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.193）
● 先行車発進告知機能（→P.202）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して目的地案内を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■交差点名表示について★

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.171）
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.181）
- 先行車発進告知機能（→P.202）
- パーキングサポートブレーキ★（→P.225）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.125）
- ドライブスタートコントロール（→P.125）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ⚠アイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.358）

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

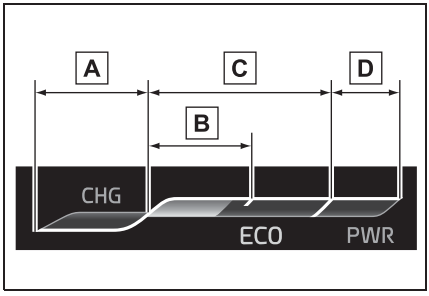
知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター／外気温表示

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

B ハイブリッドエコエリア

C エコエリア

D パワーエリア

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P.71 を参照してください。

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ 外気温表示

パワースイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

知識

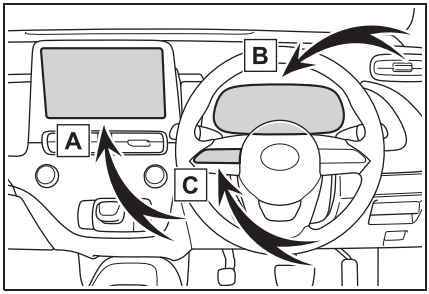
■外気温表示について

- ●外気温が約 3°C 以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。
  外気温が約 5°C 以上になると再度外気温が表示されます。
- ●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
  - ・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- ● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面★に表示します。

エネルギーモニター、燃費画面は、マルチインフォメーションディスプレイの Home 画面にも表示することができます。



A マルチメディア画面★

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの∧または

を∨押して🚗ⓘを選択し、〈または〉を押してエネルギーモニターを表示させる

▶ マルチメディア画面(エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット、またはプレミアムナビキット非装着車)

1「MENU」スイッチを押す

2「情報」を選択する

エネルギーモニター画面以外が表示されたときは、「エネルギー」を選択します。

▶ マルチメディア画面(エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット、またはプレミアムナビキット装着車)

1「MENU」スイッチを押す

2「情報」を選択する

3「情報」画面の「エコ情報」を選択する

エネルギーモニター画面以外が表示されたときは、「エネルギー」を選択します。

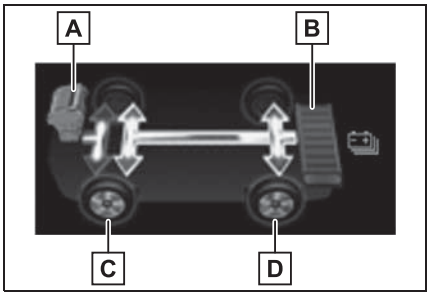
■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき
黄：電気エネルギーを使用しているとき
赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

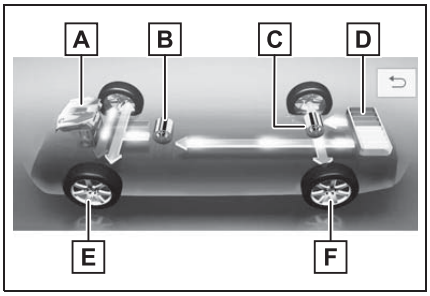
B 駆動用電池

C フロントタイヤ

D リヤタイヤ※

※ FF 車はDへの矢印は表示されません。

▶ マルチメディア画面



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロントモーター

C リヤモーター※

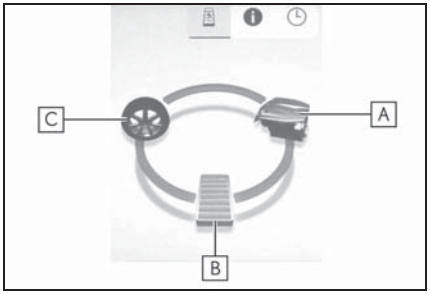
D 駆動用電池

E フロントタイヤ

F リヤタイヤ※

※FF 車はCのマークおよびC・Fへの矢印は表示されません。

▶ マルチメディア画面（Home 画面の表示）



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B 駆動用電池

C タイヤ

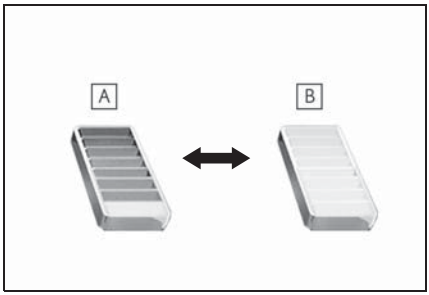
知識

■駆動用電池の残量警告について

●シフトポジションが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

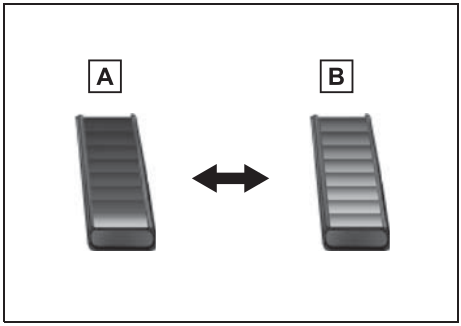
■ 駆動用電池の残量表示（マルチメディア画面）



A 少ない

B 多い

■ 駆動用電池の残量表示（マルチインフォメーションディスプレイ）



A 少ない

B 多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費画面の見方（マルチメディア装着車）

■ 画面を表示させるには

▶ マルチメディア画面（エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット、またはプレミアムナビキット非装着車）

1 「MENU」スイッチを押す

2 「情報」を選択する

▶ マルチメディア画面（エントリーナビキットまたは T-Connect ナビキット、またはプレミアムナビキット装着車）

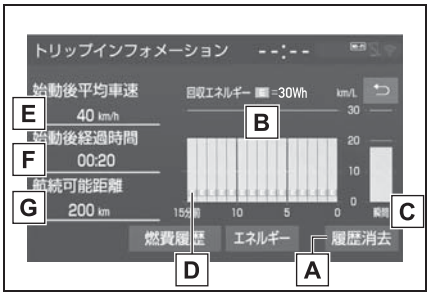
1 「MENU」スイッチを押す

2 「情報」を選択する

3 「情報」画面の「エコ情報」を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 30Wh です。

E ハイブリッドシステム始動後平均車速

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

G 航続可能距離 （→P.83）

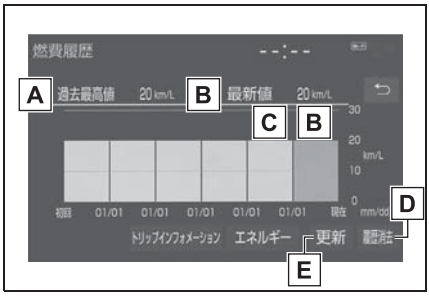
平均燃費はパワースイッチを ON にしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “更新” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴消去” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

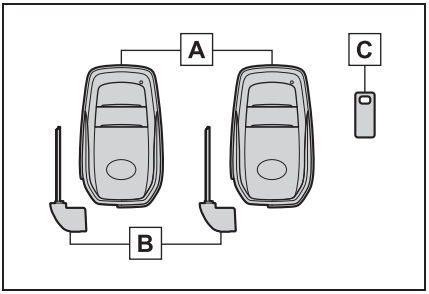
- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
  この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.65）

3-1. キー
キー 86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 89
バックドア 93
スマートエントリー&スタートシステム 96
3-3. シートの調整
フロントシート 102
ターンチルトシート 104
リヤシート 111
ヘッドレスト 112
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 115
インナーミラー 116
ドアミラー 117
3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 119

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- スマートエントリー&スタートシステム★の作動 （→P.96）
- プッシュボタンスタートシステム★の作動 （→P.132）
- ワイヤレス機能の作動 （→P.87）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.97, P.134）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.332）

- スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、またはワイヤレスリモコンが作動しない
- 作動範囲が狭くなった
- 電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。

- TV
- パソコン
- 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- 電気スタンド
- 電磁調理器

●スマートエントリー&スタートシステム★による操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●降車オートロック機能★を利用する場合、電池の消耗が早くなる可能性があります。スタンバイ状態で車両周辺に長時間いる時はキャンセル操作をおすすめします。（→P.89）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電池が切れたとき

→P.332

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.381

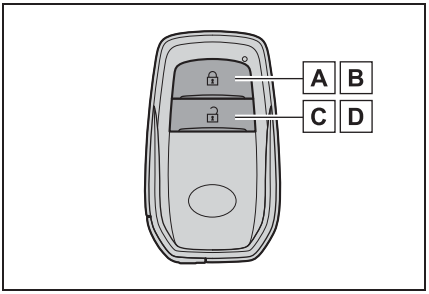
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電子キーを紛失したとき

→P.380

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアを施錠する（→P.89）

B ドアガラスを閉める ※（→P.89）

C ドアを解錠する（→P.89）

D ドアガラスを開く ※（→P.89）

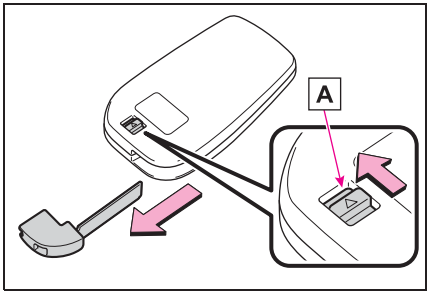
※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーAをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステム★が正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.381）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.380

■不正キーの使用について

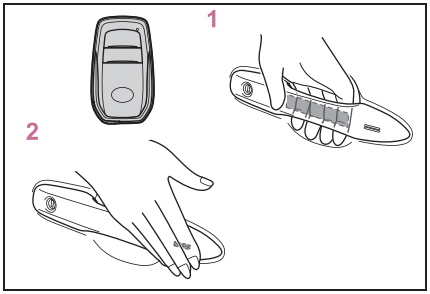
指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステム★を使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

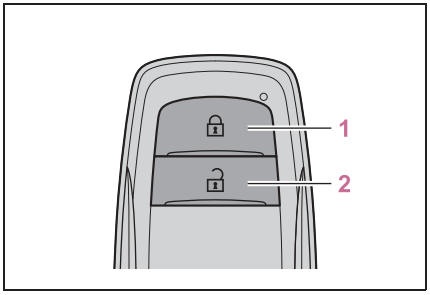
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■降車オートロック機能★, ※

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

2 ブザーが “ピピッ” と鳴り、降車オートロック待機状態になったことを確認する。

3 降車オートロック待機状態で電子キー作動範囲（→P.96）から離れる。

すべてのドアが施錠され、作動の合図（→P.90）でお知らせします。

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

すべてのドアが閉じられ、電子キーが作動範囲内にあると、降車オートロック待機状態になります。

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能★を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー”

と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

●ドアを施錠・解錠する

●ハイブリッドシステムを始動する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動の合図

▶プッシュボタンスタートシステム装着車

ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶プッシュボタンスタートシステム装着車

ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

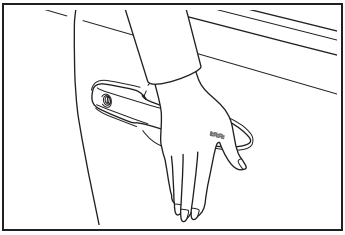
スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知され、再度解錠されることがあります。

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.59）

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶プッシュボタンスタートシステム装着車

→P.134

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P.97

■スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.381)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.332)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.381)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

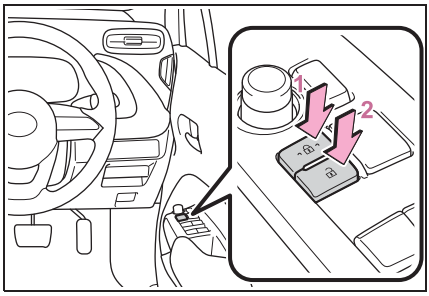
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

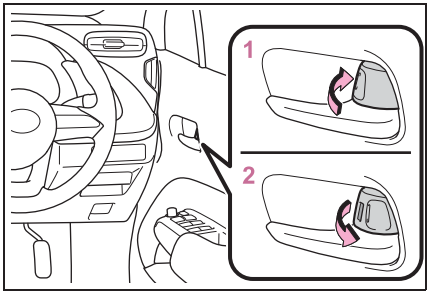
車内から解錠／施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

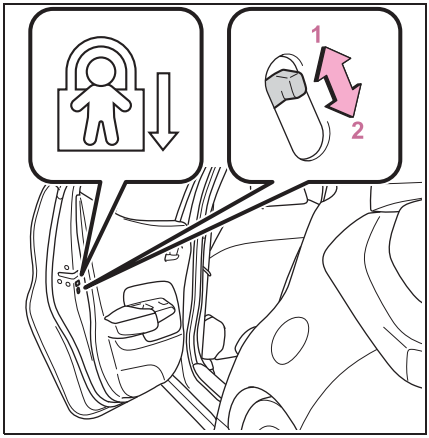
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

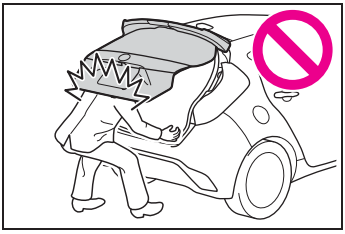
●バックドアを開ける前に、バックドア上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

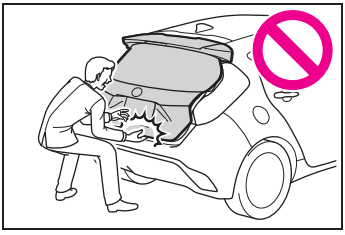
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。
必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



●バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。

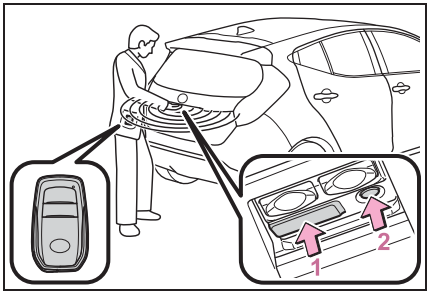


⚠警告

- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステム★を使用する



1 バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスリモコンを使用する

→P.89

知識

■作動の合図

→P.90

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.91

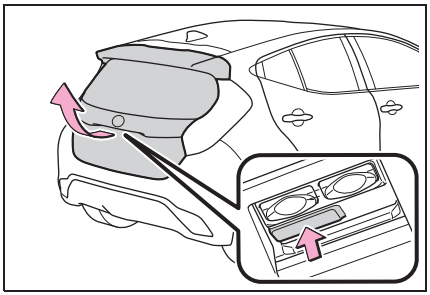
バックドアを開閉するには

■ 開ける

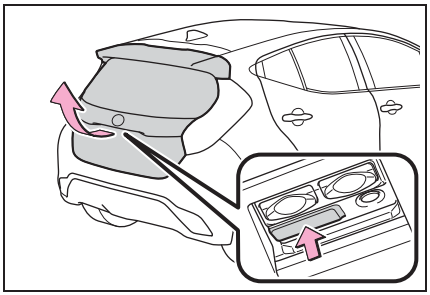
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。

▶ プッシュボタンスタートシステム装着車

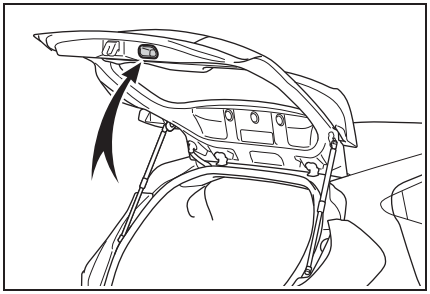


▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■半ドア走行時警告ブザー

→P.92

■ラゲージルームランプ

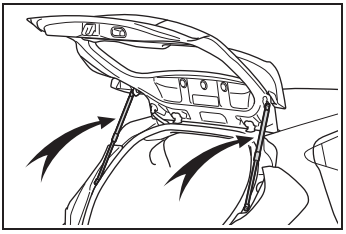
バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

スマートエントリー&スタートシステム★

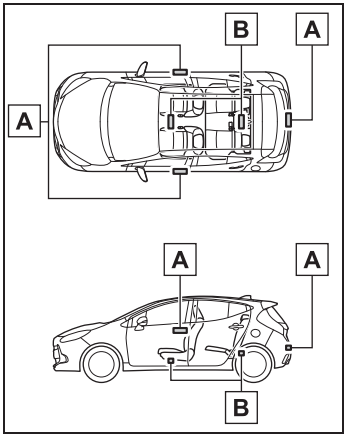
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.89）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.94）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.132）

知識

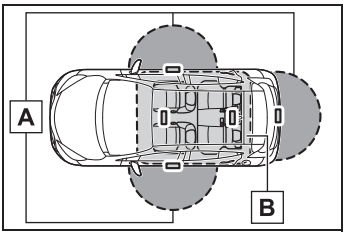
■アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドル／バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P.358）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から警告音が “ポーン、ポーン”

と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約3.5m以内に電子キーを2分以上放置した
・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

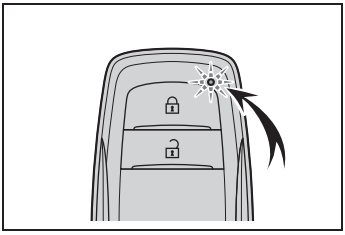
●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの🔒を押しながら、🔓を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CDやDVDなどのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話

などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.381）

また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.382 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で２回まで有効で、３回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.97）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.89）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.89）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.89）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.89）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.401)

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.97)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠：→P.381

●ハイブリッドシステムの始動：→P.382

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.89, P.381)

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.382

●ハイブリッドシステムの停止：→P.137

⚠警告

■電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.96)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠警告

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

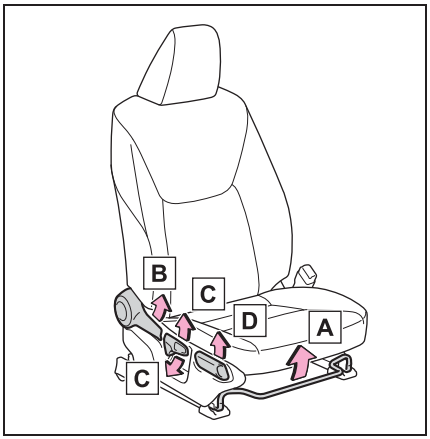
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

調整のしかた

■ マニュアルシート装着車



A 前後位置調整（スライドレバー）

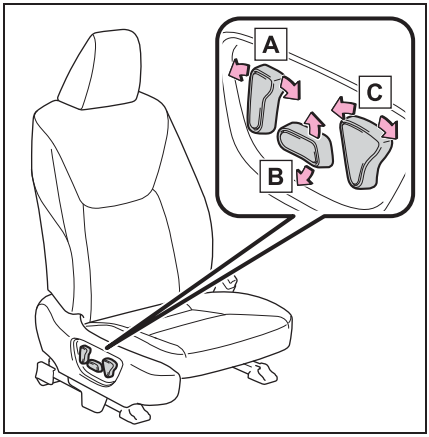
B リクライニング調整

C クッション全体の上下調整★（運転席のみ）

D イージーリターン機能（メモリーレバー）★（運転席のみ）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 運転席パワーシート装着車



A リクライニング調整

B シート全体の上下調整

C 前後位置調整

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●マニュアルシート装着車：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■シートを調整するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

イージーリターン機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

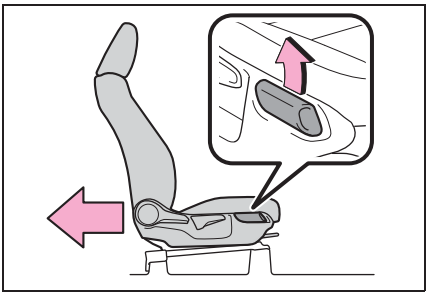
メモリーレバーを使用することで設定したシート位置（メモリー位置）へ容易にもどすことができます。また、降車しやすいシート位置へ容易に調整できます。

■ イージーリターン機能の使い方

1 スライドレバーを使用して、お好みのシート位置に調整する

2 降車するときは、メモリーレバーを引きながら降車しやすい位置までシートをうしろに下げる

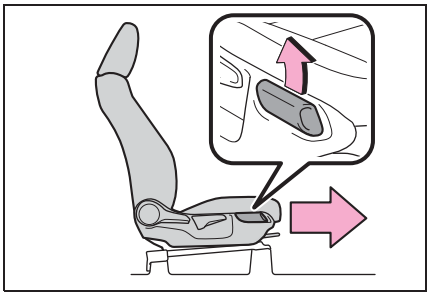
完全にレバーを引いて操作しないと、シート位置のメモリーをしない場合があります。



3 メモリーレバーを放して、シートがロックされていることを確認する

シート位置は、メモリーされた状態になります。

4 乗車するときは、運転席に座りメモリーレバーを引きながらシートがロックする位置（メモリー位置）まで前方に移動する



5 メモリーレバーを放して、シートがロックされていることを確認する

知識

■納車時やメモリー位置がわからないときは

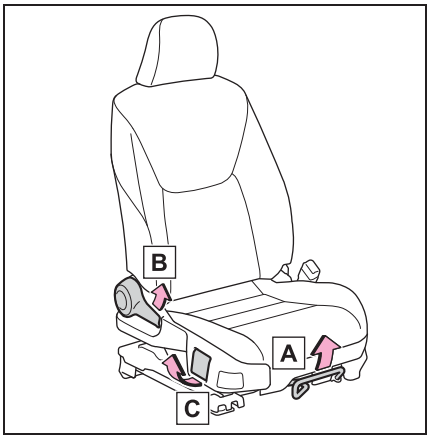
一度、スライドレバーを引きながらシートをいちばん前に移動させてください。その後、スライドレバーでシートの前後位置を調整してください。

ターンチルトシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ターンチルトシートは、シートを車内外に回転させることで、乗降をサポートします。

調整・回転するには



A 前後位置調整（スライドレバー）

B リクライニング調整

C 回転レバー

知識

■シートの前後位置調整について

前後位置調整中に、シートが中間位置で止まりますが故障ではありません。スライドレバーを一度下げて、再度前後位置を調整してください。

■回転レバーについて

回転レバーがポップアップする位置付近で回転レバーが少しポップアップすることがありますが、故障ではありません。回転レバーが完全にポップアップする位置で、回転レバーを操作してください。

⚠警告

■シートを調整・回転するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整・回転後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠注意

■シートを調整するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

ターンチルトシートの操作をする前に

次のことを確認してください。

- グローブボックスのフタが閉まっている
- 助手席アッパーボックスのフタが閉まっている

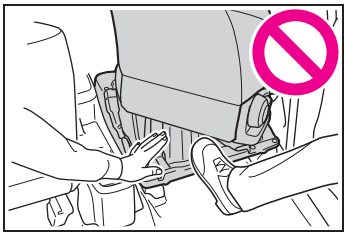
- サンバイザーが格納されている
- 背もたれは前方・後方に必要以上に倒れていない
- ヘッドレストの高さがいちばん低い位置になっている
- シートベルトをはずす

⚠ 警告

■ターンチルトシートを操作する前に

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドア開口部に頭部をあてたりしないように、乗り降りする方の頭上の安全を確認してください。
- ボディーと腕があたらないように、ターンチルトシートを勢いよく操作しないでください。
- ターンチルトシートを操作するときシート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



- ターンチルトシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボディーにあたり、座った状態でのシートの回転が困難になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

■ターンチルトシートを操作する前に

ターンチルトシート可動部に手や衣服（スカート・マフラーなど）を巻き込まないようにご注意ください。

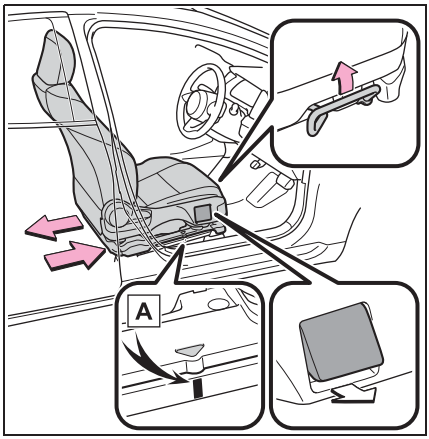
乗降するには

■ 乗車するには

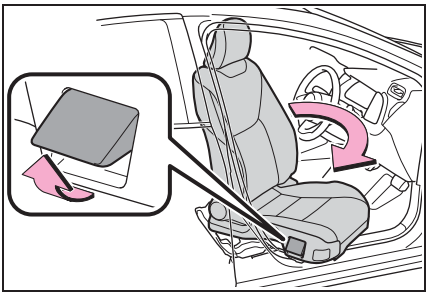
▶ 運転席

1 シートがロック（マーク位置 A ）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

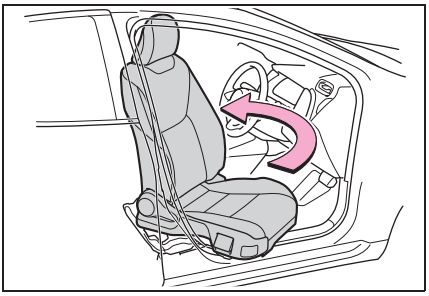
回転レバーがポップアップします。



2 ポップアップした回転レバーを引きながら回転が止まるまでシートを外側へ回転させる



3 シートに座り、内側へ“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

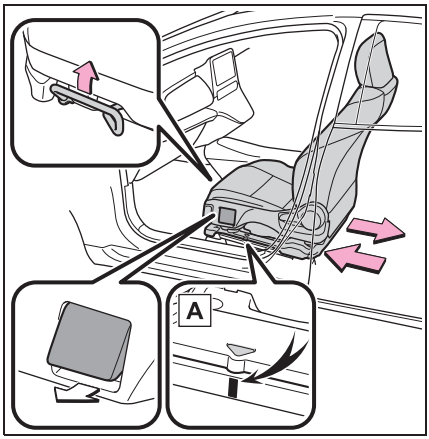


4 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

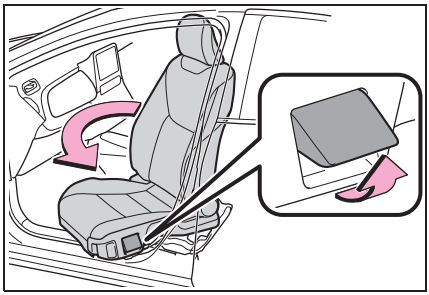
▶ 助手席

1 シートがロック（マーク位置 A）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。



2 ポップアップした回転レバーを引きながら回転が止まるまでシートを外側へ回転させる



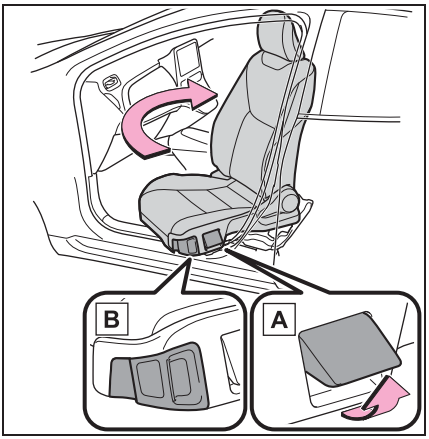
3 シートに座り、回転レバーを引きながらシートを内側へ回転させる

4 シートが回転し始めたら回転レバーAから手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

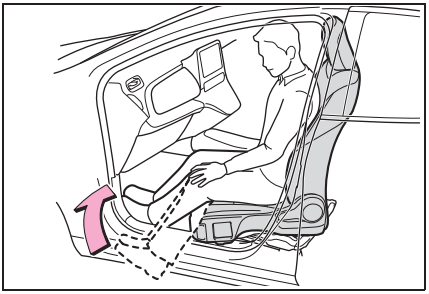
中間ロック位置でロックされます。

介助の方は、必要に応じてグリップBを

使用すると回転しやすくなります。



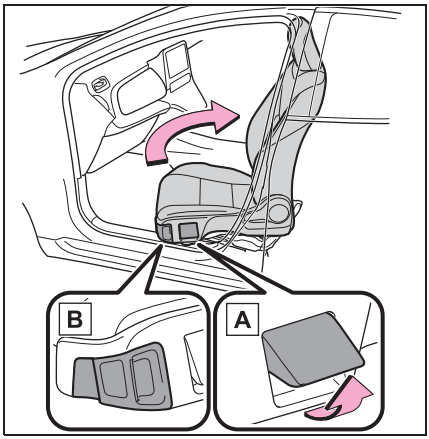
5 中間ロック位置で足を車内に入れる



6 回転レバーを引きながらシートを内側へ回転させる

7 シートが回転し始めたら回転レバー[A]から手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

介助の方は、必要に応じてグリップ[B]を使用すると回転しやすくなります。



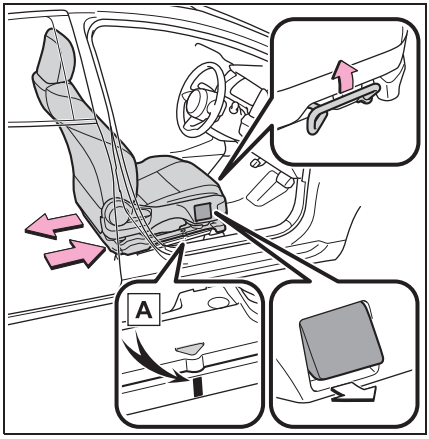
8 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

■ 降車するには

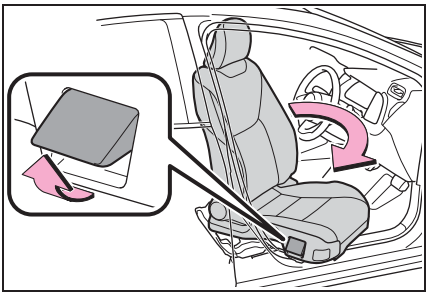
▶ 運転席

1 シートがロック（マーク位置[A]）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。



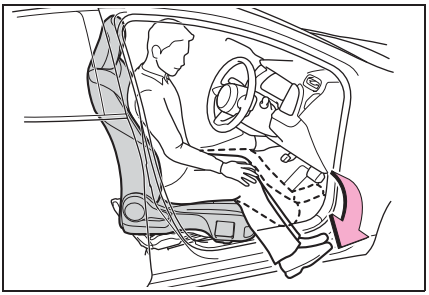
2 ポップアップした回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる



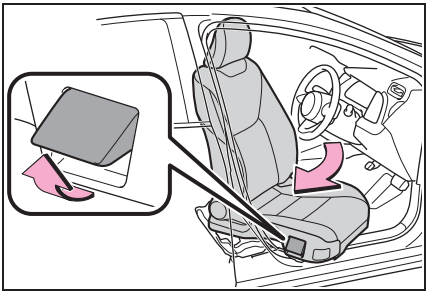
3 シートが回転し始めたら回転レバーから手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

中間ロック位置でロックされます。

4 中間ロック位置で足を車外に出す

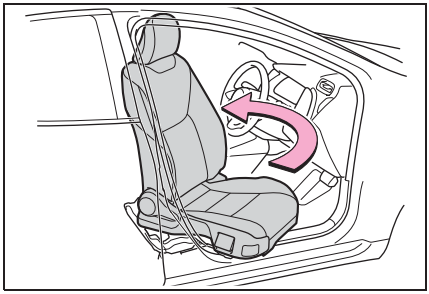


5 回転レバーを引きながら回転が止まるまでシートを外側へ回転させ、降りる



6 シートを格納位置まで回転させる

シートが格納されると“カチッ”と音がします。

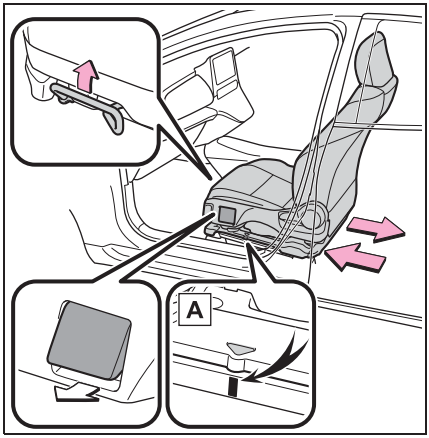


7 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

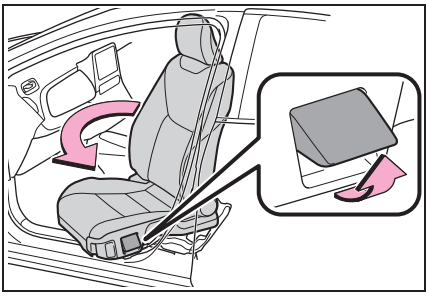
▶ 助手席

1 シートがロック（マーク位置 A）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。



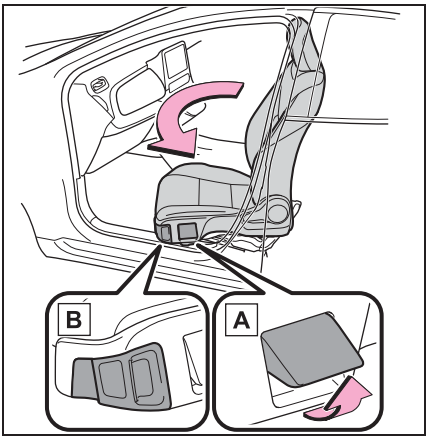
2 ポップアップした回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる



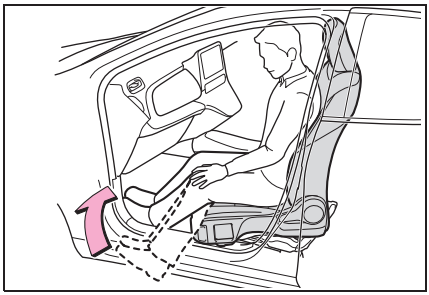
3 シートが回転し始めたら回転レバー[A]から手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

中間ロック位置でロックされます。

介助の方は、必要に応じてグリップ[B]を使用すると回転しやすくなります。



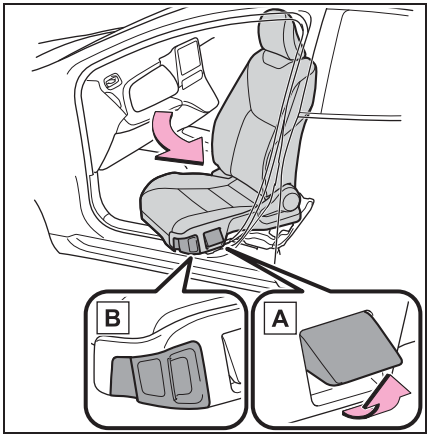
4 中間ロック位置で足を車外に出す



5 回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる

6 シートが回転し始めたら回転レバー[A]から手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させ、降りる

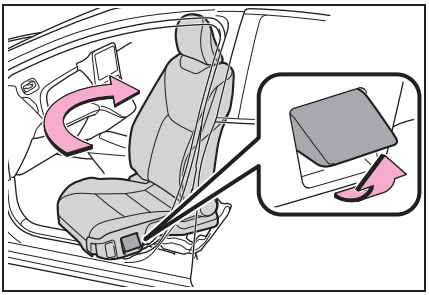
介助の方は、必要に応じてグリップ[B]を使用すると回転しやすくなります。



7 回転レバーを引きながらシートを格納位置まで回転させる

シートが格納されると“カチッ”と音

がします。



8 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

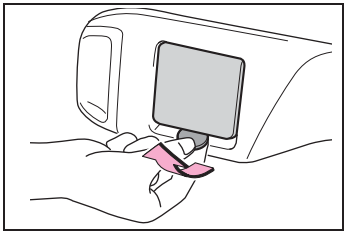
知識

■ターンチルトシートの回転操作について

●ターンチルトシートとレールのマーク位置が合わないと、シートを回転させることはできません。

●回転レバーを引いた状態では、ターンチルトシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転レバーから手を放してください。

●回転レバーがポップアップする位置以外では、回転レバーを操作しないでください。万一、シートが回転できる位置で回転レバーが閉じてしまった場合は、コインなどを使用して回転レバーを引き出してください。



■ターンチルトシートが回転しないとき

●車内から回転できない場合

すみやかにトヨタ販売店または専門業者で点検を受けてください。

●車外に出た状態で回転しない場合（助手席のみ）

→P.392

⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■操作するときは

●走行中やドアが閉じているときは、ターンチルトシートを操作しない

●不整地や傾斜地で操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする

■ターンチルトシートをもとの位置にもどしたあとは

ターンチルトシートを前後左右にゆすり、シートが確実に格納位置で固定されているか確認してください。

⚠注意

■損傷を防ぐために

●回転レバーとスライドレバーを同時に操作しないでください。

正しい位置にシートが移動しなくなるおそれがあります。

●回転レバーがポップアップする位置以外では、回転レバーを操作しないでください。

●ターンチルトシートを確実に格納してからドアを閉じてください。

シートが格納していない状態では、ドアを閉じた際にドアとシートがぶつかるおそれがあります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを倒す・もどす

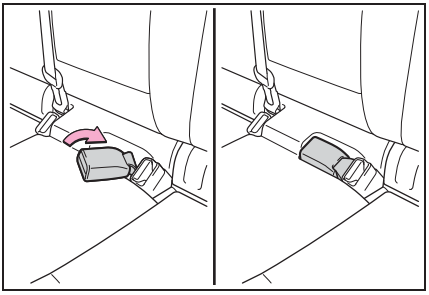
■ **背もたれを倒す**

1 フロントシート★・ターンチルトシート★を前方に移動する（→P.102, P.104）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 リヤアームレストを格納する（→P.299）

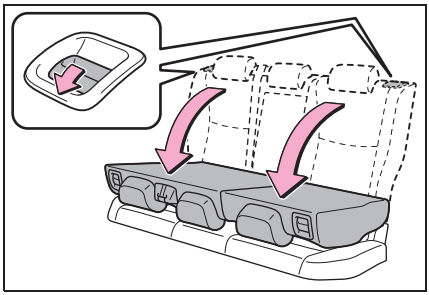
3 リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する



4 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.112）

5 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

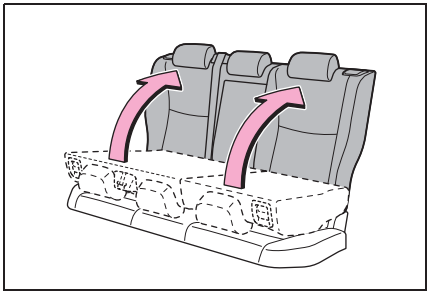
ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



■ **背もたれをもとにもどす**

背もたれを起こして固定する

シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。



⚠警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

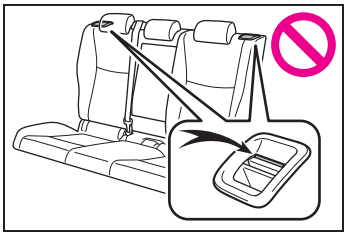
⚠ 警告

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとにもどしたあとは

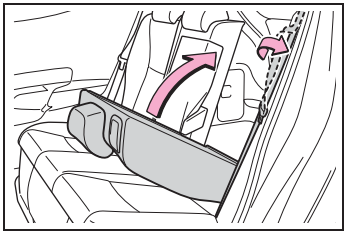
●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



●シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

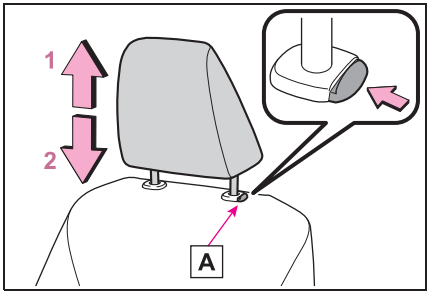
●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

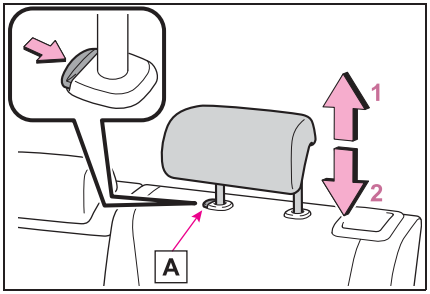
■ フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤ席



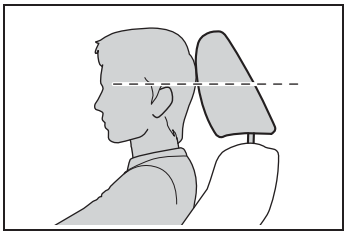
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

知識

■フロント席のヘッドレストの高さについて（分割式ヘッドレスト装着車）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストについて

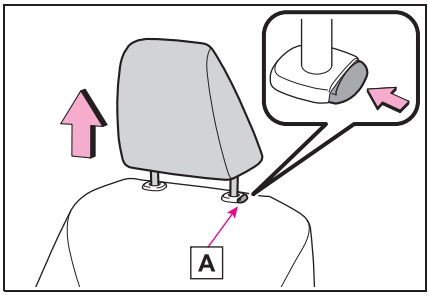
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）

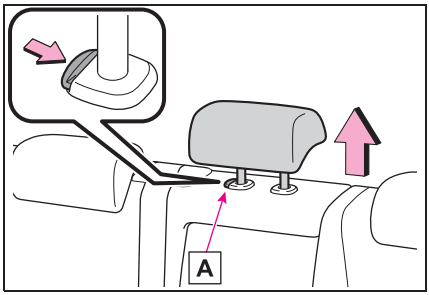
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、背もたれの角度を調整してください。（→P.102, P.104）



■ リヤ中央席

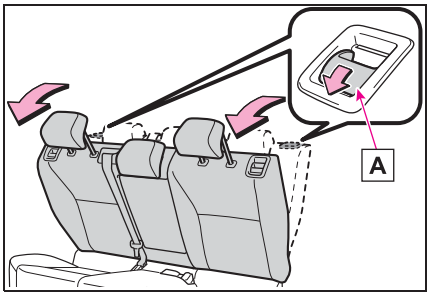
解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。



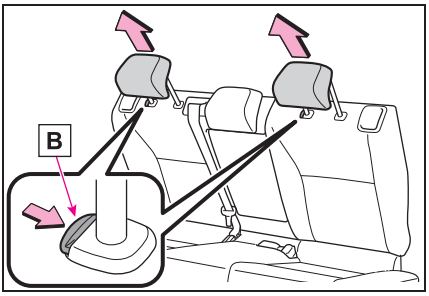
■ リヤ外側席

1 ロック解除レバーAを引きながら、背もたれを前方に倒す。

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンBを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

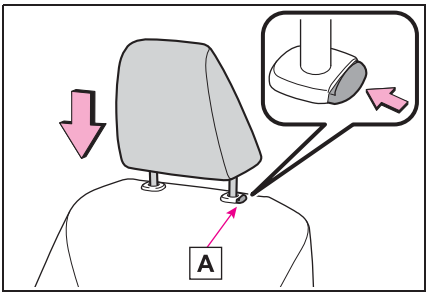


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

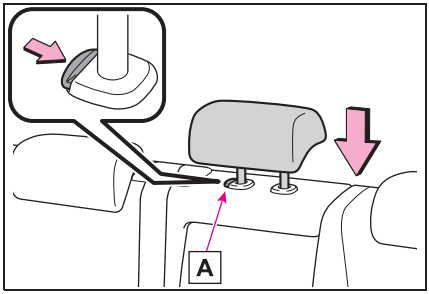
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

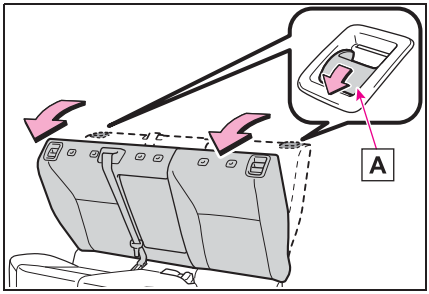
さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。



■ リヤ外側席

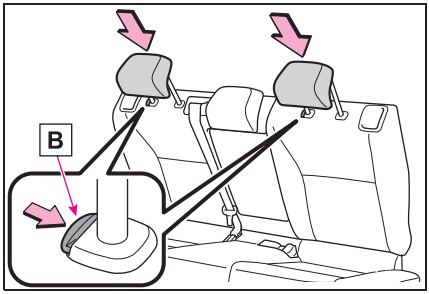
1 ロック解除レバーAを引きながら、背もたれを前方に倒す。

ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

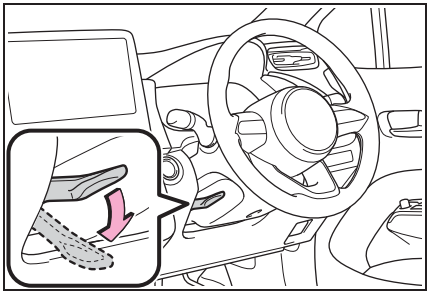
ヘッドレストを挿入するときは、解除ボタンBを押しながら挿入してください。



ハンドル

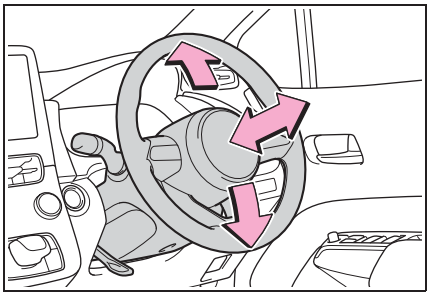
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■走行中の留意事項

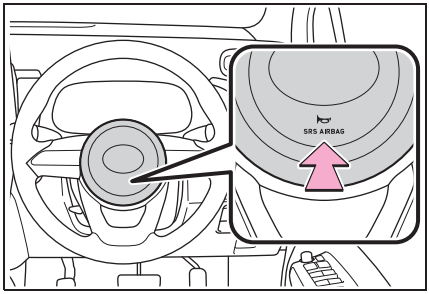
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



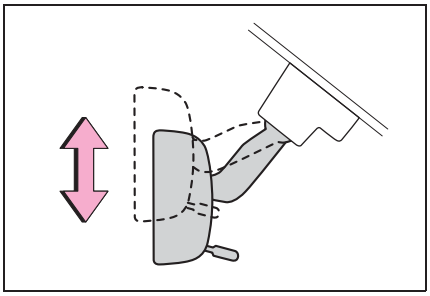
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



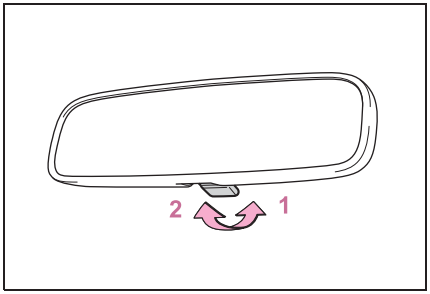
⚠警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



1 通常使用時
2 防眩時

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

⚠警告

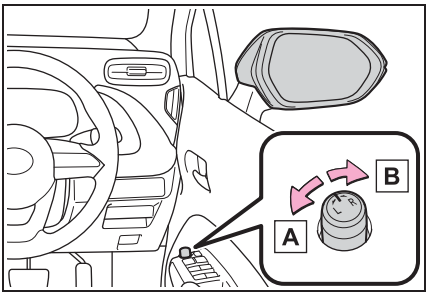
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

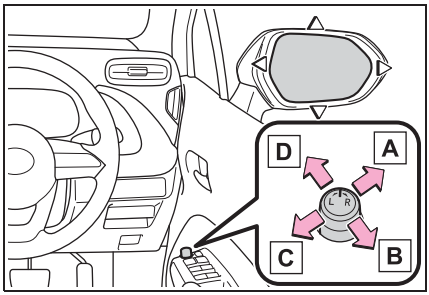
調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左
B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 右
B 下
C 左
D 上

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき

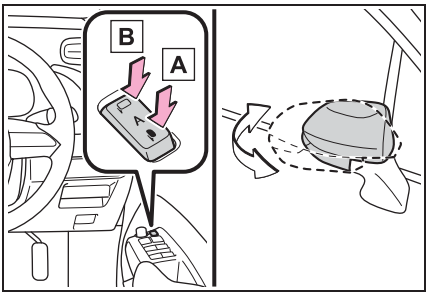
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.275, 282)

⚠警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

⚠警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

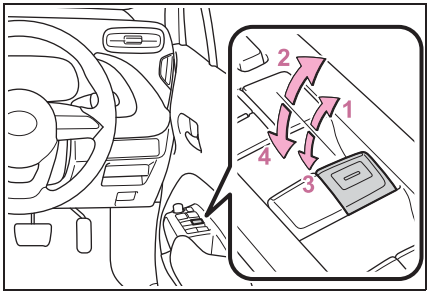
パワーウインドウ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声操作システム★での操作について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声操作システムを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）

音声操作システムについては、別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウ

スイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.381）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.89）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.60）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

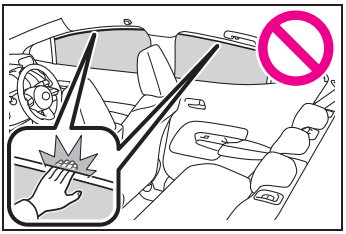
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.121）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

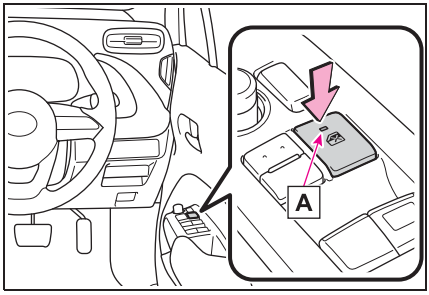
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーターA が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 124

荷物を積むときの注意..... 131

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ（プッシュボタンスタートシステム装着車）..... 132

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）..... 139

EV ドライブモード..... 143

トランスミッション..... 145

方向指示レバー 150

パーキングブレーキ..... 151

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 152

AHB（オートマチックハイビーム）..... 156

フォグランプスイッチ..... 158

ワイパー&ウォッシャー（フロント）..... 160

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）..... 162

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 164

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 166

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 171

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 181

RSA（ロードサインアシスト）..... 190

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 193

先行車発進告知機能 202

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 204

クリアランスソナー 211

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 220

PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 225

ドライブモードセレクトスイッチ 236

Toyota Teammate Advanced Park 237

運転を補助する装置 258

プラスサポート（販売店装着オプション）..... 264

専用パワーステアリング 267

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 268

寒冷時の運転..... 270

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.132

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→P.145）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキを解除する（→P.151）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.145）

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.151）

3 シフトポジションを P にする（→P.145）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押して、ハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.151）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する （→P.151）

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき※
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたと

き※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.268）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→P.71）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.259）すると、急発進の抑制制御も停止※します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.259）

※後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.401）

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.344 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
（→P.145）

⚠ 警告

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作をしないように気を付けてください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

⚠警告

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READYインジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

⚠ 注意

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.362、372 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ（プッシュボタンスタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.151）

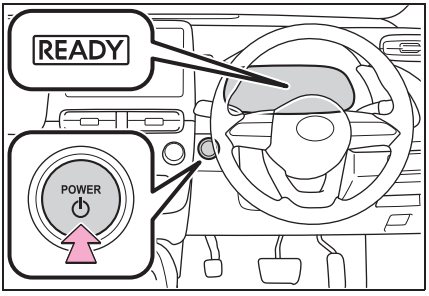
シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.145）



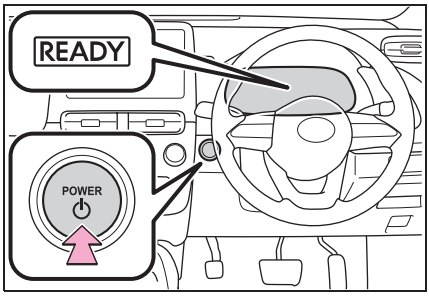
3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

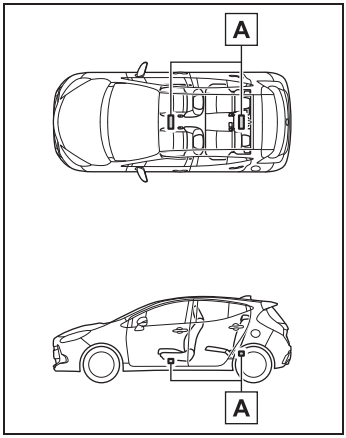
READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

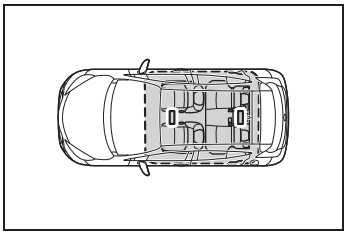
知識

■アンテナの位置



A 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



車内で電子キーを携帯している場合に、ハイブリッドシステムの始動、またはパワースイッチのモードの切りかえ操作が可能になります。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P.358）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをONにした（パワースイッチがONのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

■パワースイッチ文字照明

次のとき、パワースイッチ文字照明が点灯します。

●運転席ドアまたは助手席ドアが開いているとき

●パワースイッチがONのとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

また、次のときはパワースイッチ文字照明が点滅します。

●電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.58）トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■外気温が低いときは

●ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちくだ

さい。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.51

■補機バッテリーがあがったときは

プッシュボタンスタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.383 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

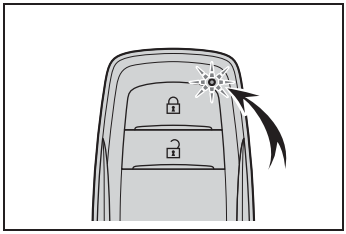
→P.86

■電子キーの節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、プッシュボタンスタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

プッシュボタンスタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、プッシュボタンスタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キー

を置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

また、プッシュボタンスタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.382 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

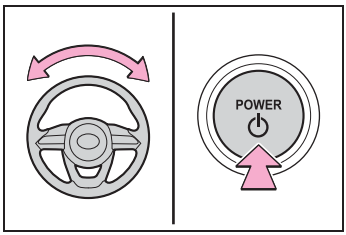
・ハイブリッドシステム始動時やモードの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれている

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

■ステアリングロック機能

●パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください” が表示されます。ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



●短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム※ 故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※この車両には、スマートエントリーシステムは搭載されておりません。このメッセージが表示されたときは、プッシュボタンスタートシステム、またはステアリングロックシステムの異常をお知らせしています。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.56

■電子キーの電池交換

→P.332

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめプッシュボタンスタートシステムを非作動にすることができます。（→P.401）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.134）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■プッシュボタンスタートシステムが正常に働かないとき

→P.382

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でプッシュボタンスタートシステムを非作動にすることができます。（→P.401）

■カスタマイズ機能でプッシュボタンスタートシステムを非作動にしたとき

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.382

●ハイブリッドシステムの停止：→P.137

⚠警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電波がおよぼす影響について（プッシュボタンスタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.133）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告

プッシュボタンスタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P.151）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.147）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

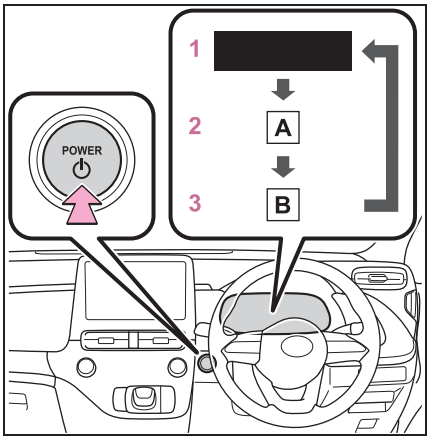
⚠ 警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.344）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッション ON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” が表示されます。

知識

■自動電源 OFF 機能

●シフトポジションが P にあるとき、約２０分以上パワースイッチを ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

●シフトポジションが P およびパワースイッチが ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.151）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.145）

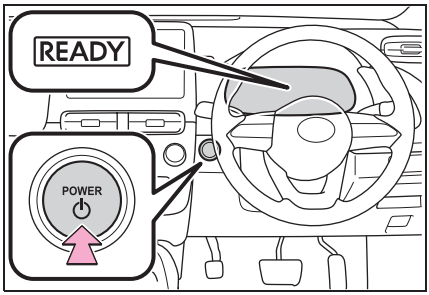
3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

プラスサポートをご使用の方は、P.264 も併せて参照してください。

知識

■パワースイッチ文字照明

次のとき、パワースイッチ文字照明が点灯します。

- 運転席ドアまたは助手席ドアが開いているとき
- パワースイッチが ON のとき
- パワースイッチをONからOFFにしたとき

また、次のときはパワースイッチ文字照明が点滅します。

- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P.58) トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■外気温が低いときは

●ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ−30 ℃以下)、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.51

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.383 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.86

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.97

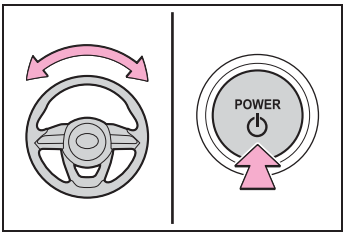
■ご留意いただきたいこと

→P.98

■ステアリングロック機能

●パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください” が表示されます。ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



●短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.56

■電子キーの電池交換

→P.332

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.381 を参照してください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P.151）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.147）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

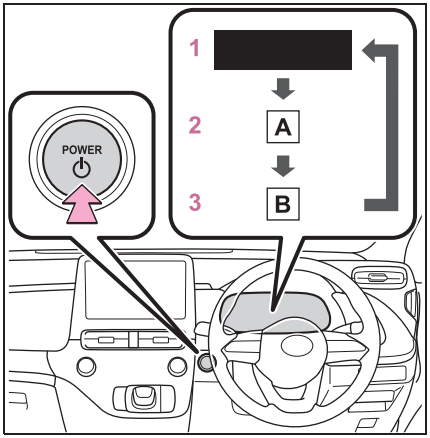
⚠ 警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを２秒以上押し続けるか、素早く３回以上連続で押してください。（→P.344）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッション ON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “イグニッション ON” が表示されます。

知識

■自動電源 OFF 機能

- シフトポジションが P にあるとき、約２０分以上パワースイッチを ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P およびパワースイッチが ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーション

ディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

EV ドライブモード

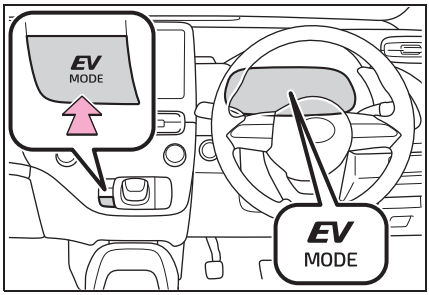
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0°C を下まわるような低温下に長

時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.79）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.79）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに現在切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードが解除されました” と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

⚠警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDを使用してください。

知識

■シフトポジションについて

●パワースイッチがOFFのときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチがONで、READYインジケーターが消灯しているときは、PまたはNに切りかえが可能です。

●READYインジケーターが点灯中は、Pから、D・N・Rを選択できます。

●READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、Pから他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READYインジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

●D以外から直接、Bに切りかえることはできません。また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的にNに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき
・停車中にPまたはNからブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・停車中にPまたはNからアクセルペダルを踏んだままシフトレバーを操作したとき
・PまたはNから、Bを選択したとき
・走行中に、Pポジションスイッチを押したとき※1

●自動的にシフトポジションがNに切りかわるとき
・車両が前進しているときにRを選択したとき※2
・車両が後退しているときにDを選択したとき※3
・RからBを選択したとき

●一定以上の速度で走行中にNを選択した場合は、シフトレバーをNの位置で保持しなくてもNに切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、Nにかわったことを運転者に知らせます。

※1極低速走行時は、Pに切りかわることがあります。

※2低速走行時は、Rに切りかわることがあります。

※3低速走行時は、Dに切りかわることがあります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションをRにするとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●Dポジションで走行中に走行モードをパワーモード★にしたとき（→P.236）

●Dポジションで走行中に走行モードをパワー＋モード★にしたとき（→P.236）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.125

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.383

⚠警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

⚠注意

■駆動用電池の充電について

シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

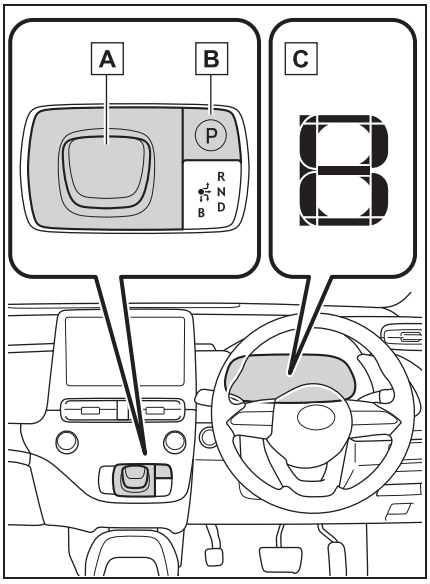
■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.358）

●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトレバーの動かし方



A シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

B への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。
P から N・D・R、および N・D・B・R から P へ、または D・B から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B P ポジションスイッチ

C シフトポジション表示灯

⚠ 警告

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

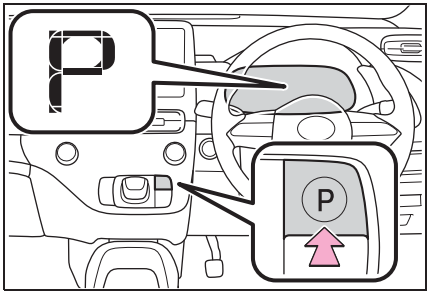
P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえる

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。



■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、

ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

● 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

● P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

知識

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチが ON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の制御停車中に次を検出したときは、自動で P ポジションに切りかわる場合があります。

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.383 を参照してください。

警告

■P ポジションスイッチについて

●車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

注意

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切りかえ機能を作動させずに、シフトポ

ジションをNに保持することができます。

1 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションをNに切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーをNの位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションがNのままハイブリッドシステムが停止します。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“N保持中 解除するにはPスイッチを押してください”が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションをN以外にするには、Pポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションをPに切りかえてください。
- ハイブリッドシステムが停止しているときに、自動Pポジション切りかえ機能を作動させない操作を行うと、自動Pポジション切りかえ機能が作動しない場合がありますが、必ずハイブリッドシステムが始動している状態で行ってください。

※この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります。

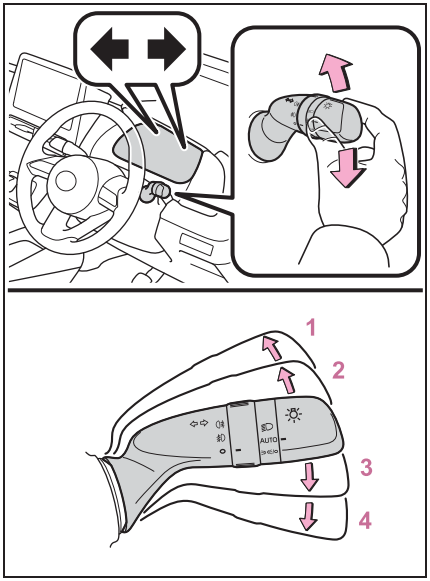
走行モードの選択

→P.236

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

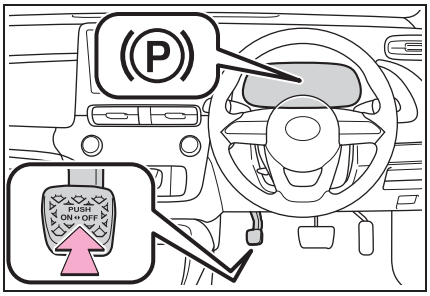
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■駐車するとき

→P.124

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングブレーキを解除してください”と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.270

注意

■走行前の注意

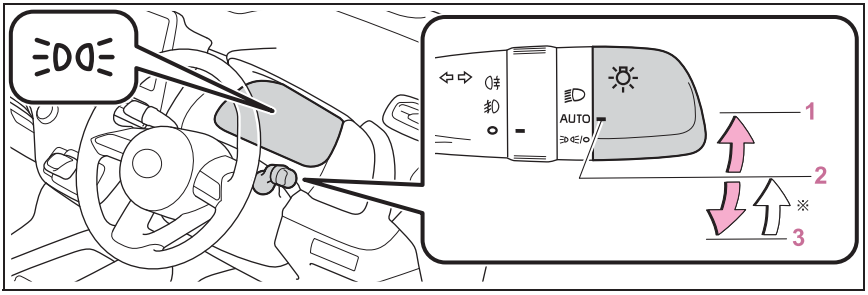
パーキングブレーキを完全に解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように　スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に2 AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※1	LED デイライト★（→P.153）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

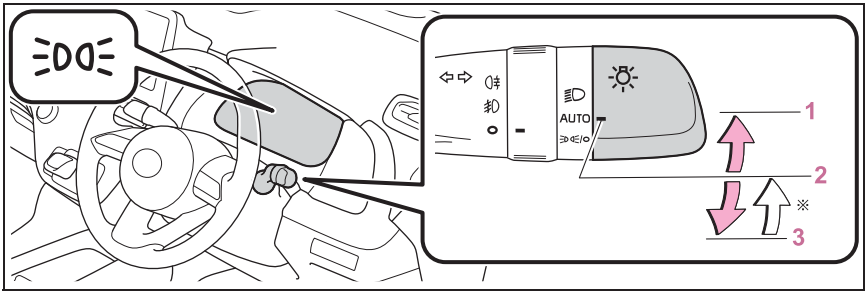
※1 操作するたびに、2 AUTO による点灯状態と3 による点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると2 AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを3 の位置で1秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に1 か3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に2 AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★（→P.153）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

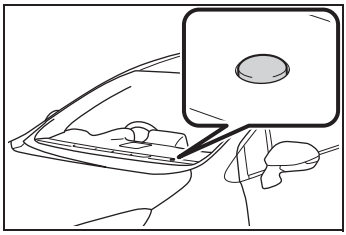
■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの

光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または ON にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから ≡DC/O または ≡D の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが ACC または ON の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはバックドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

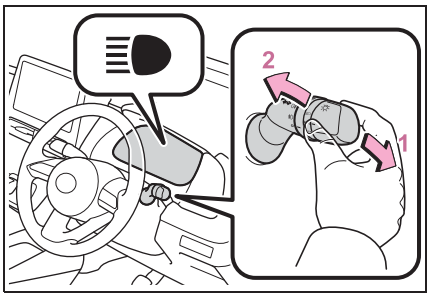
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

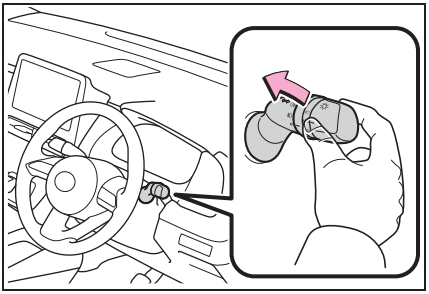
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

ヘッドランプ一時点灯機能

パワースイッチが OFF の状態で、ヘッドランプを 30 秒間点灯させることができます。

パワースイッチを OFF にしたあと、ランプスイッチが AUTO の位置で、レバーを手前に引いて離します。

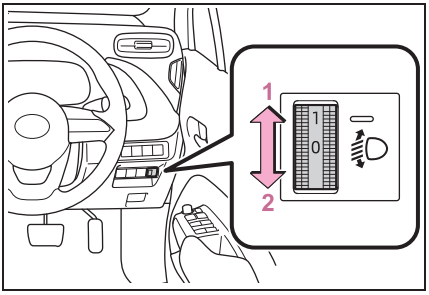


以下の操作でヘッドランプが消灯します。

- パワースイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整
2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

▶ FF 車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5

▶ 4WD

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

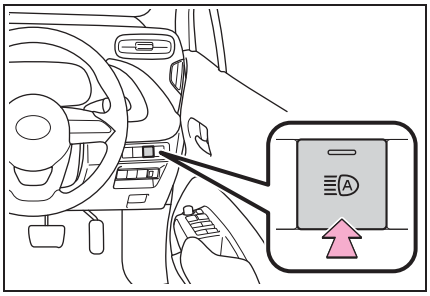
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

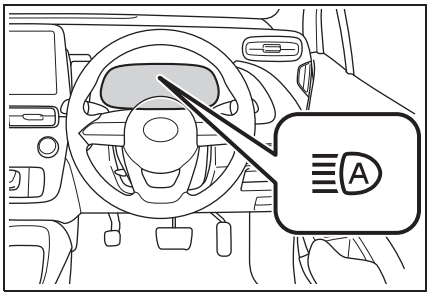
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを≡Dまたは AUTO の位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイ

ビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

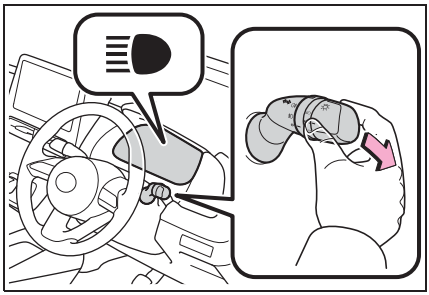
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーをもとの位置にもどします。

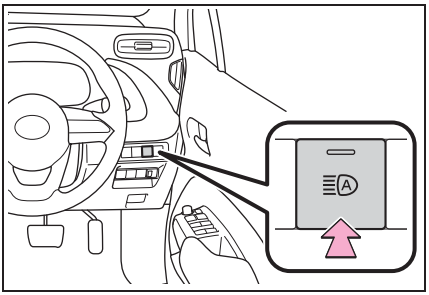


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

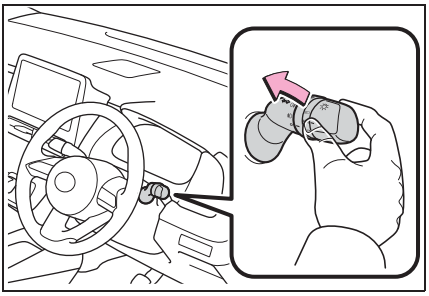
オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

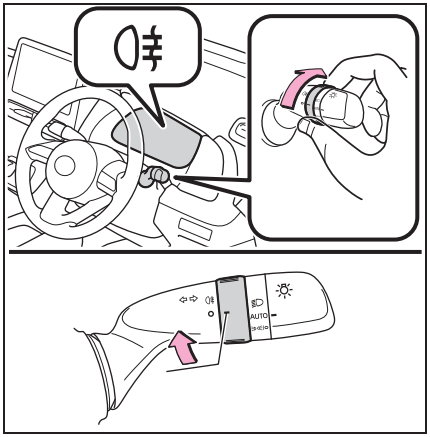
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

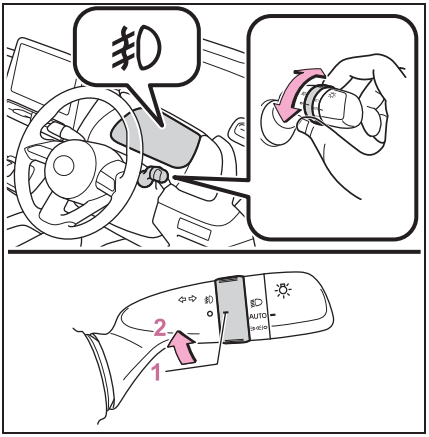
▶ リヤフォグランプ装着車

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ○ の位置までもどります。再度操作すると消灯します。



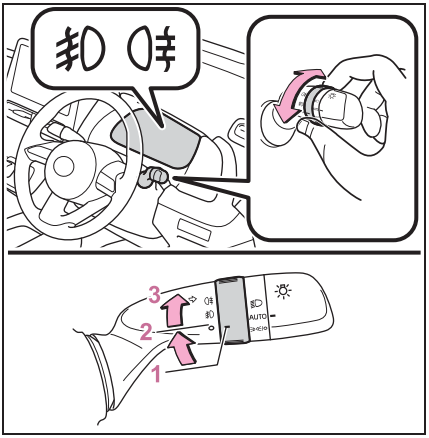
▶ フロントフォグランプ装着車



1 消灯する

2 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



1 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント&リヤフォグランプを点灯する

3 の操作後に手を離すと の位置までもどります。

再度 3 の操作をするとリヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

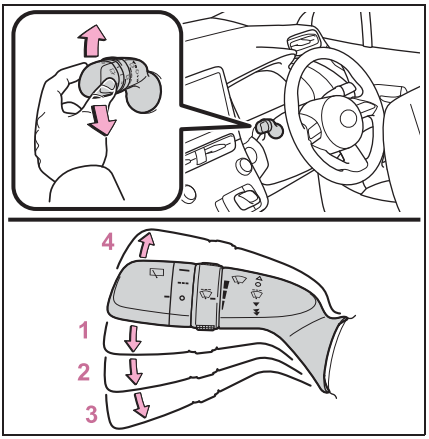
⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



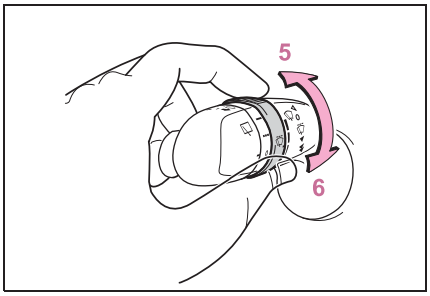
1 間欠作動（INT）

2 ▼ 低速作動（LO）

3 ▼▼ 高速作動（HI）

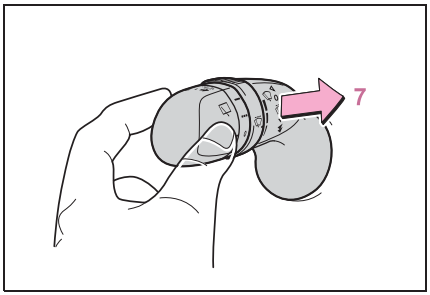
4 △ 一時作動（MIST）

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。（間欠時間調節式ワイパー装着車）



5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 間欠ワイパーの作動頻度（減）



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■音声操作システム★での操作について

音声操作システムを使用して次の操作をすることができます。

- フロントワイパーを 1 回のみ作動
- ウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声操作システムについては、別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

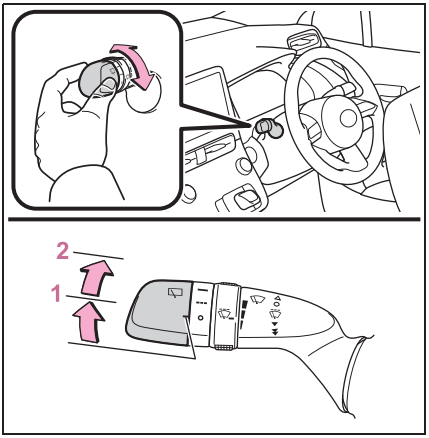
⚠ 注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

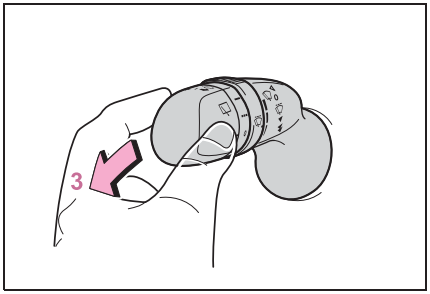
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ▪▪▪ 間欠作動（LO）

2 ▬ 通常作動（HI）



3 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能※

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

⚠注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

⚠警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

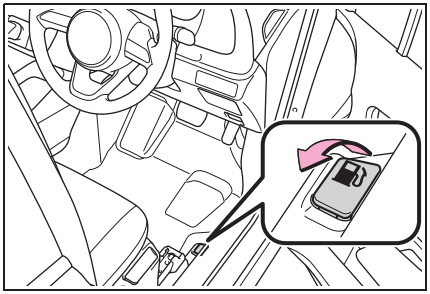
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

⚠ 注意

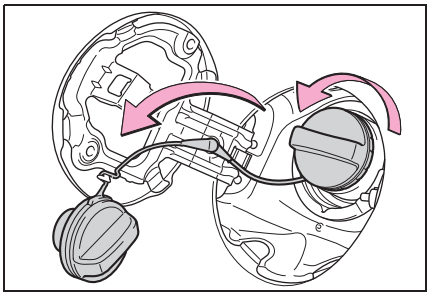
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



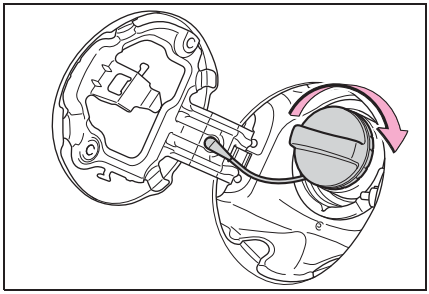
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.171

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.181

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.156

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.190

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.193

■ 先行車発進告知機能

→P.202

⚠ 警告

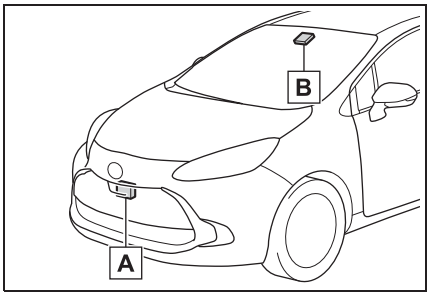
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

⚠ 警告

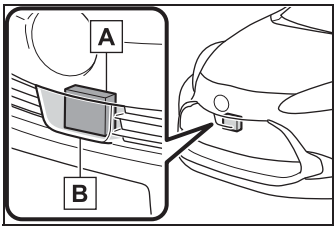
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・ フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

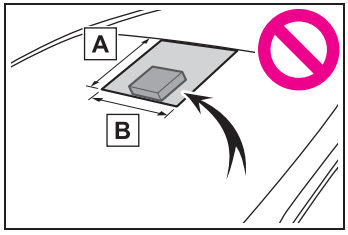
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

⚠ 警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.275, 282）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります)

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.275, P.282）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消え

ます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき

その場合には “プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.171）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.174）

システムの作動対象

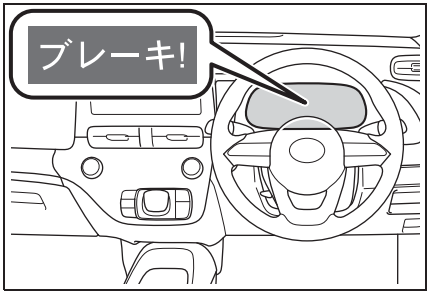
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

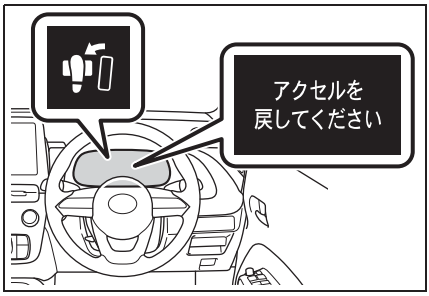
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

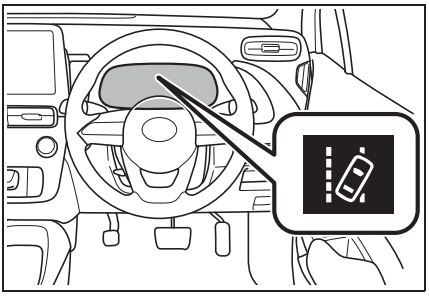
■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ **緊急時操舵支援**

歩行者と衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

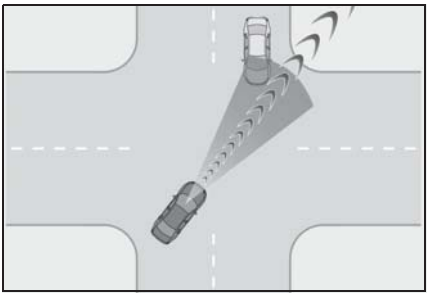


■ **交差点右左折支援**

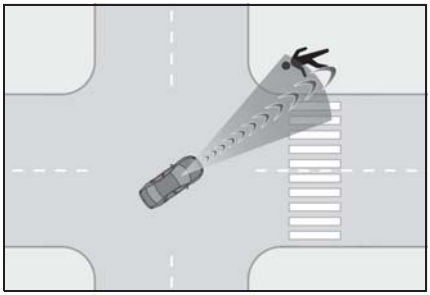
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.177

・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.179

⚠ 警告

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき

⚠ 警告

- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

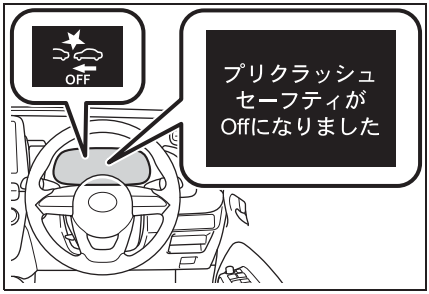
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティのON／OFFを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.401）から、プリクラッシュセーフティのON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチがONモードになるとシステムはONになります。

システムをOFFにすると、PCS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

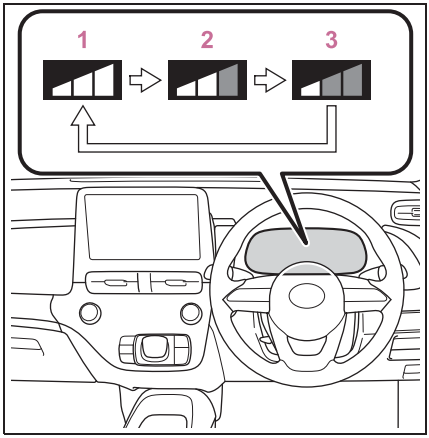


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.401）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



1 早い
2 中間
初期設定
3 遅い

知識

■ プリクラッシュセーフティの各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	-	約 10 ～ 25km/h

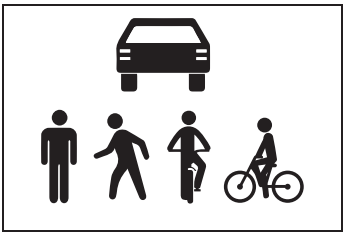
●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	-	約 10 ～ 25km/h

■作動対象の検出

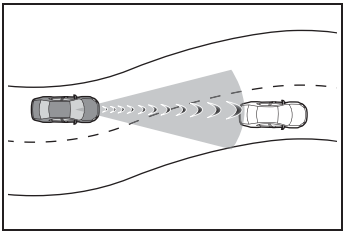
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.179）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



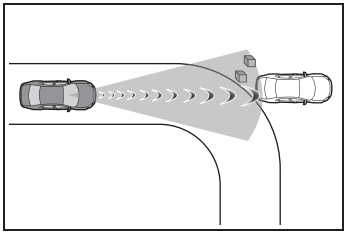
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

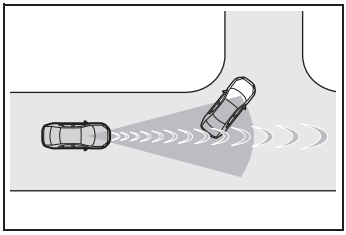
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



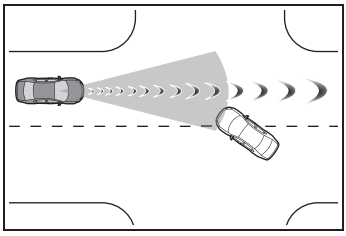
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



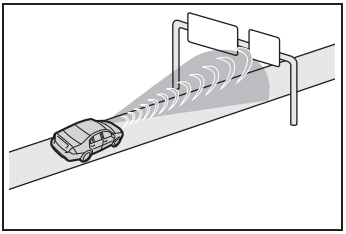
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



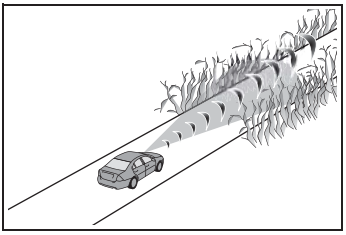
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



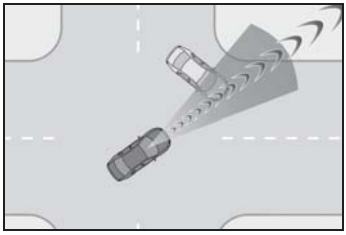
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



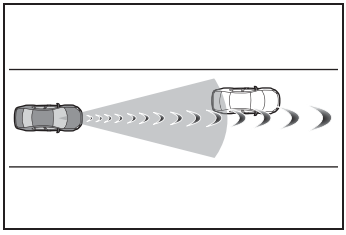
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



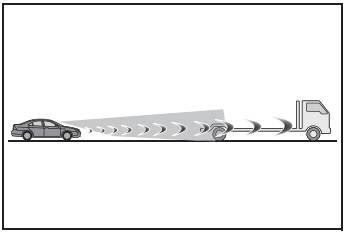
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

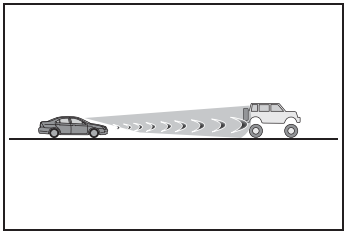
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



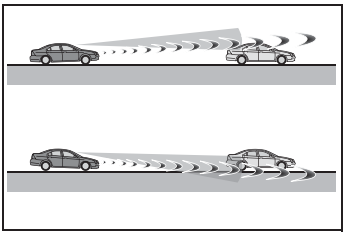
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



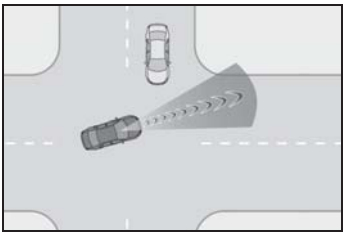
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



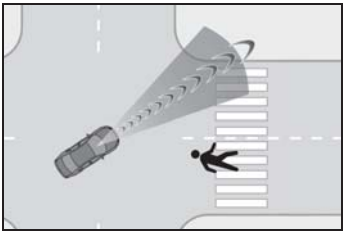
・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

・車線を区切る白 (黄) 線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど) とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・自車の前方中央付近にいる歩行者と衝突するとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.259）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

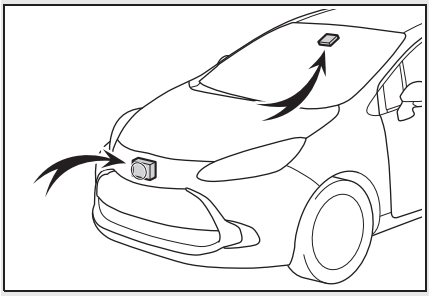
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.193）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

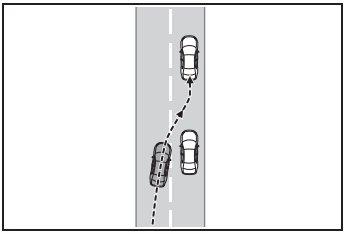
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

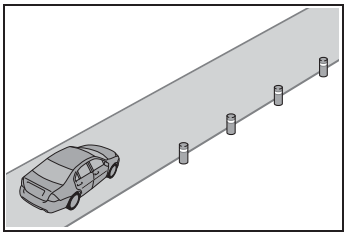
●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

⚠警告

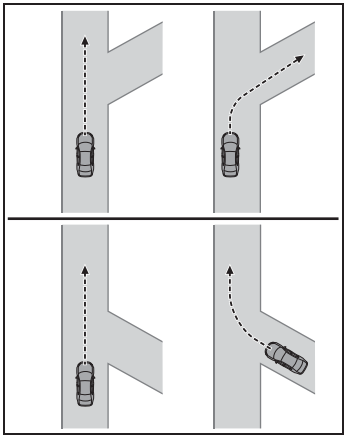
●先行車追従表示中（→P.186）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●急カーブを走行しているとき

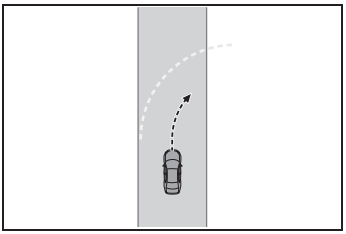
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき

●坂道を走行しているとき

⚠ 警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

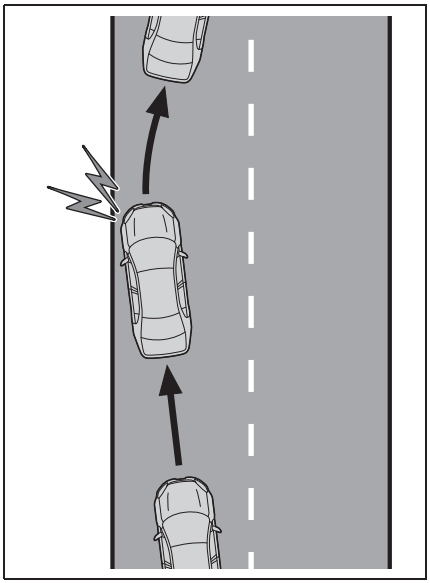
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



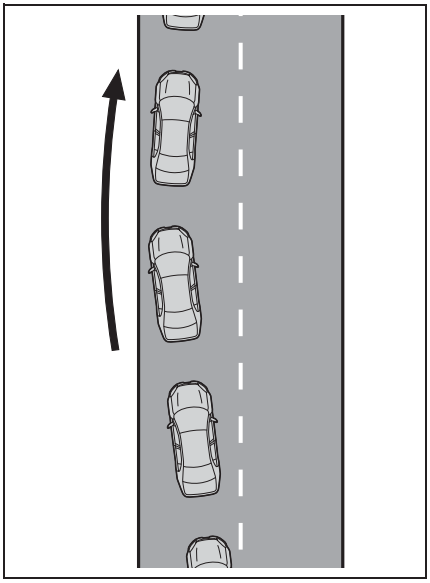
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性

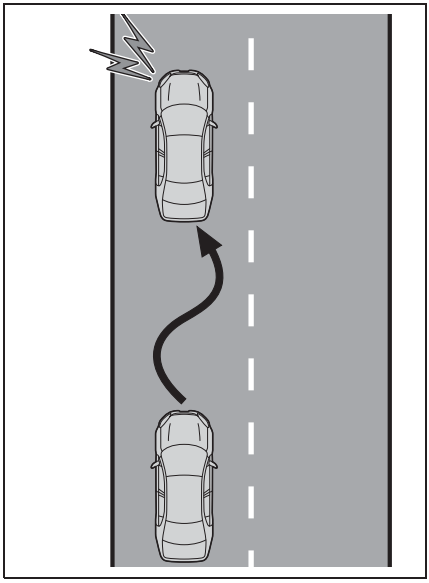
があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

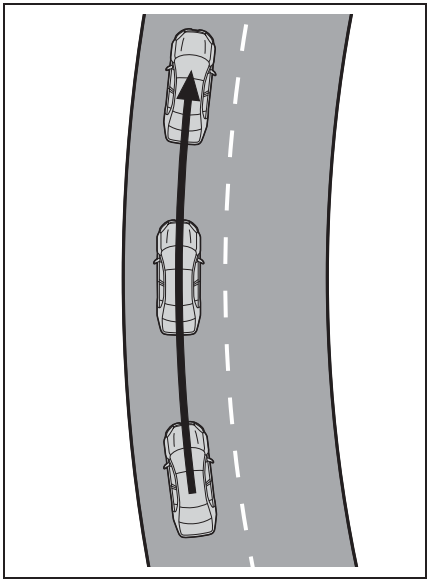


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



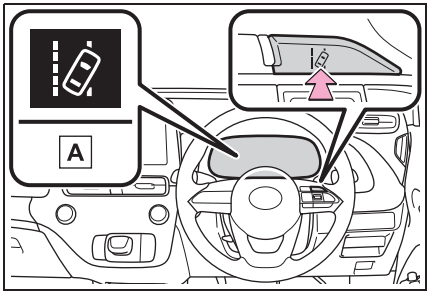
設定のしかた

■ 車線維持支援機能の ON ／ OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON ／ OFF が切りかわります。

現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



▶ 車線維持支援機能 ON

A “LTA　操舵支援　あり　センタートレース　あり”

▶ 車線維持支援機能 OFF

A “LTA　操舵支援　あり”

■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

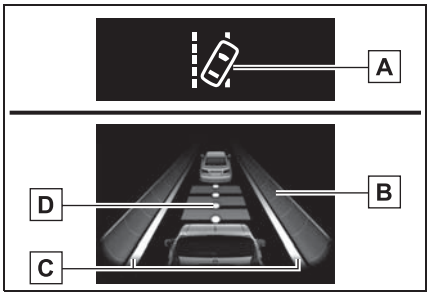
LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援

機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

D 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LTA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき※1
- システムが白（黄）線または走路※2を認識しているとき（白［黄］線または走路※2が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- 急カーブを走行していないとき
- システムの異常が検知されていないとき（→P.189）

※1車線維持支援機能作動中は約 50km/h 以下でも作動します

※2アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動しま

す。
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.189）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・マルチインフォメーションディスプレイの で “ふらつき検知” を “On” に設定しているとき（→P.401）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.189）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの でセントートレース” を “ON” に設定しているとき（→P.401）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.189）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.189）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.187）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.187）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する

警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中に カーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いった

んLTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では使用できません”

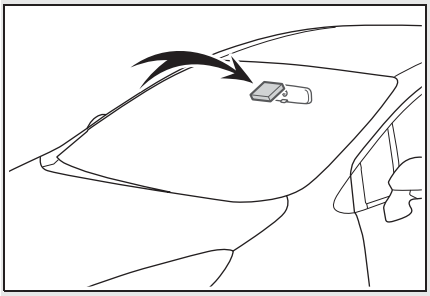
車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.401）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

⚠警告

■RSA をお使いになる前に

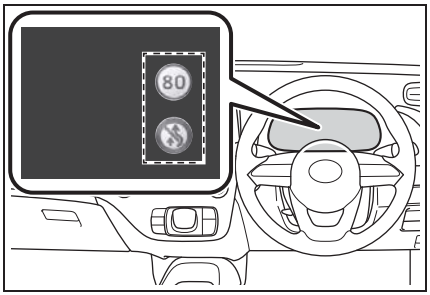
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報を選択したと

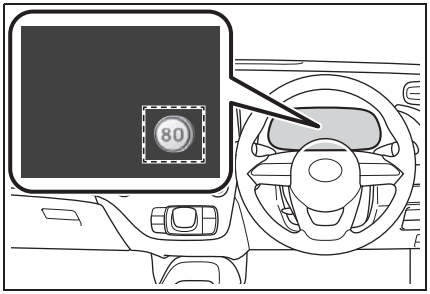
きは、最大2つの標識を表示できます。(→P.69)



● 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。(→P.69)

・ 最高速度標識

・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

● 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。

● システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

● はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレ

イに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して🚗を選択し、OK を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- ●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- ●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- ●終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- ●標識を通過したとシステムが判定したとき
- ●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- ●前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ●汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- ●悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- ●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- ●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- ●電光標識のコントラストが低いとき
- ●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- ●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- ●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- ●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- ●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- ●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- ●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ●重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- ●十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- ●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ●マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.401）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

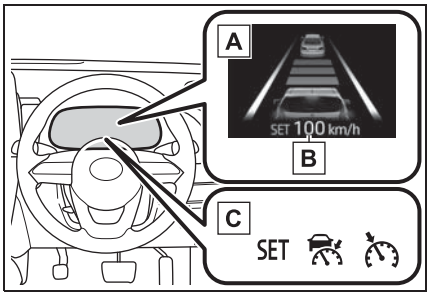
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.196）
- 定速制御モード（→P.199）

システムの構成部品

■ メーター表示

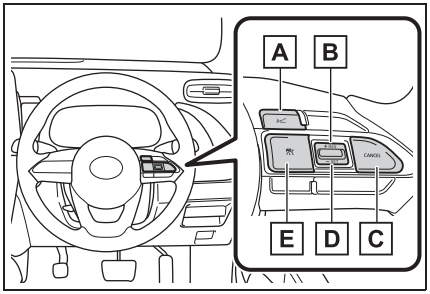


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C キャンセルスイッチ

D “-SET” スイッチ

E クルーズコントロールスイッチ

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.200

・車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.201

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

⚠警告

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

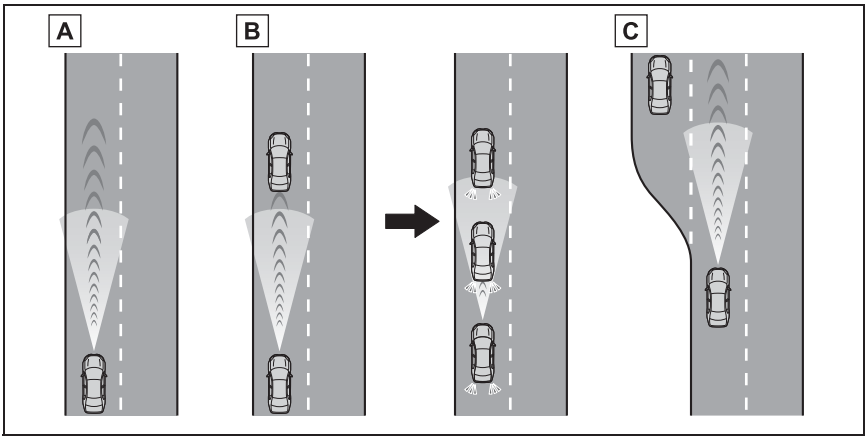
●車両けん引時

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行 — 追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

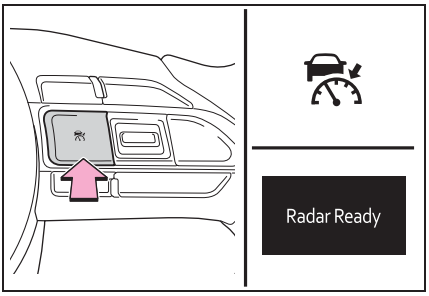
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFFにするには再度スイッチを押します。

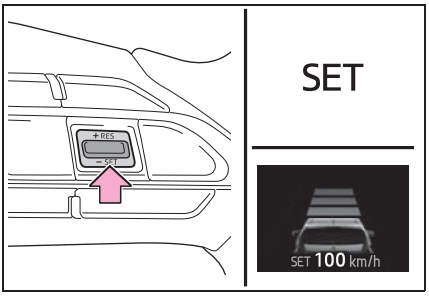
クルーズコントロールメインスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P.199）



2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

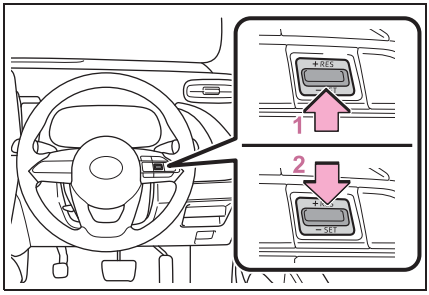
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/hずつ

定速制御モード（→P.199）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

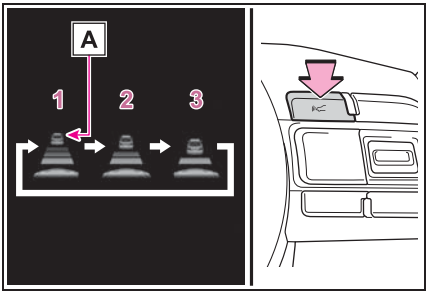
● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “-SET”スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い
2 中間
3 短い

先行車がいる場合、先行車マークAも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

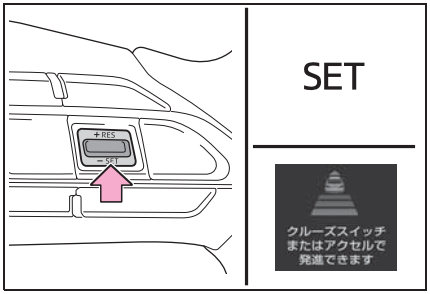
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

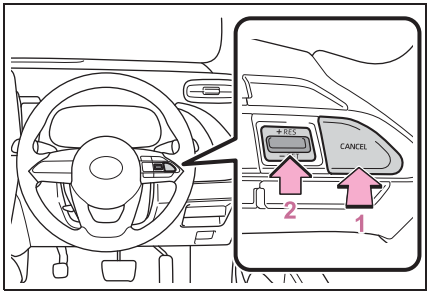
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

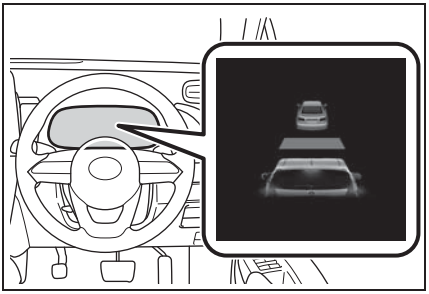
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行

車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

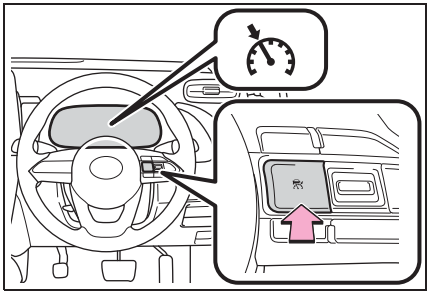
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。
レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



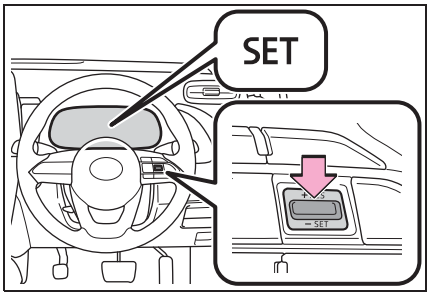
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.197）

制御を解除する・復帰させる（→P.198）



知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した
自動で P ポジションに切りかわることがあります（→P.147）

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.169, 358）

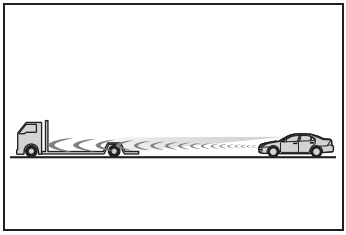
■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が

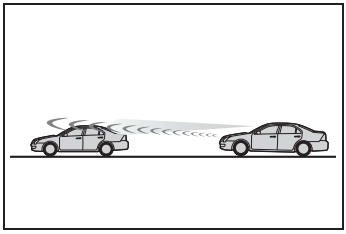
不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.198）も作動しないおそれがあります。

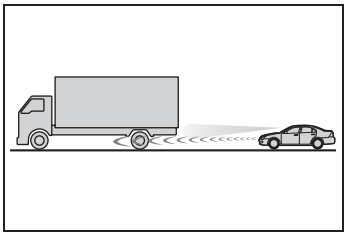
- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●同じ車線に停車中の車がいるとき
- ●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき
- ●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- ●先行車の車高が極端に高いとき

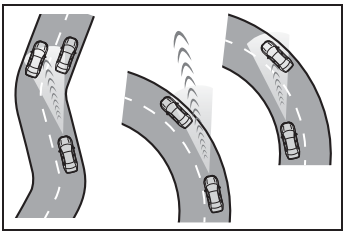


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

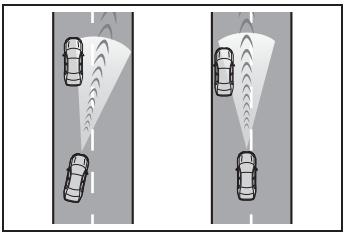
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



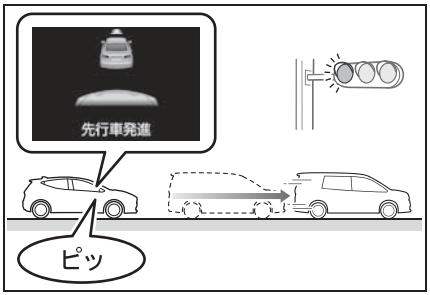
- ●先行車が急ブレーキをかけた場合
- ●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- ●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場

合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押して“車両設定”を選択し、OK を長押しする

3 〈または〉を押して“先行車発進告知”を選択し、OK を押す

4 〈または〉を押して“先行車発進告知”を選択し、OK を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押して“車両設定”を選択し、OK を長押しする

3 〈または〉を押して“先行車発進告知”を選択し、OK を押す

4 〈または〉を押して“告知距離”を選択し、OK を押す

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断や停車時にドア開き時のドアとの衝突可能性を判断して衝突回避を支援するシステムです。

⚠警告

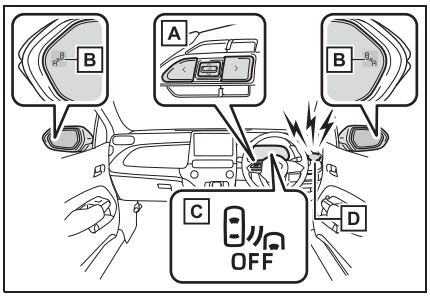
■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

●停車時警報機能は、接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

走行中：ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

停車中：開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM OFF 表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯します。

D BSM ブザー

停車中、ドアミラーインジケーター点灯時に点灯している側のドアを開けるとブザーが鳴ります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

警告

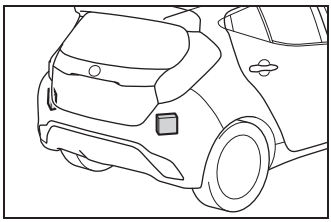
■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

⚠警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.205）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.208）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなったりするおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON／OFFを切りかえるには

メーター操作スイッチを使ってON／OFFを切りかえます。

1　∧または∨を押して⚙を選択する

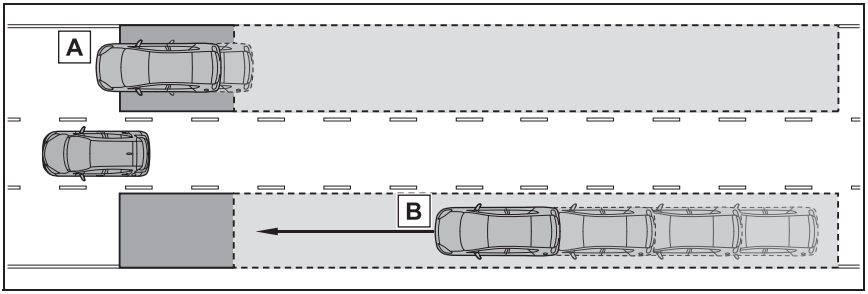
2　〈または〉を押して⛐を選択し、OKを押す

ブラインドスポットモニターがOFFになると、BSM OFF表示灯（→P.63）が点灯します。パワースイッチがONになるたび、ブラインドスポットモニターはONになります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

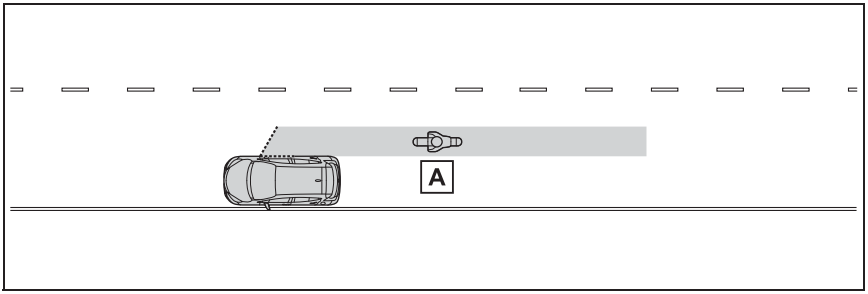


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 停車中に検知できる車両・自転車

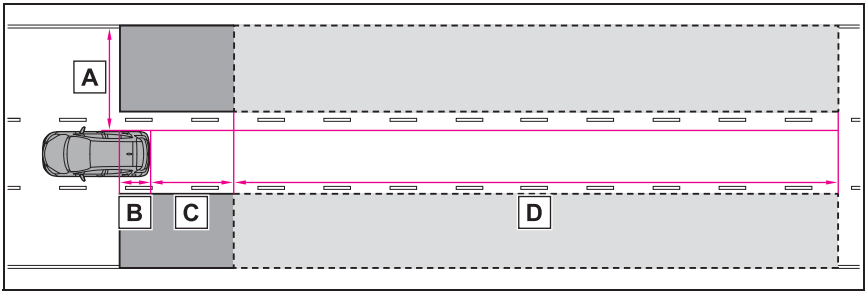
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーのインジケーターおよびブザーによってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

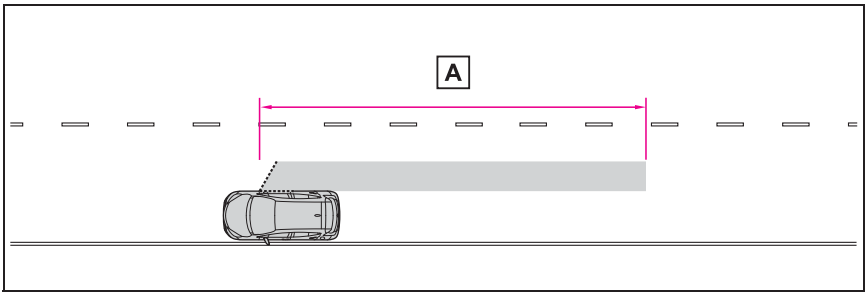
D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 停車中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



検知できる範囲：

A フロントドアから後方約 13m ～ 25m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が低いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより近くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 10 km/h 以上のとき（走行中）

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ブラインドスポットモニター（走行中）が車両を検知しない状況

ブラインドスポットモニター（走行中）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2 つ隣の車線を走行する他車※

●大きい速度差で自車が追いこす他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■ブラインドスポットモニター（停車中）が車両・自転車を検知しない状況

●ブラインドスポットモニター（停車中）は、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

・接近する車両・自転車の速度が約 8km/h 未満のとき
・ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車
・真うしろから接近する車両・自転車
・前方から接近する車両・自転車
・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
・動物など

●ブラインドスポットモニター（停車中）は、次のような状況では作動しません。

・パワースイッチが OFF のとき
・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。（走行中）

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車

から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●次のような状況では車両・自転車を有効に検知しないおそれがあります。（停車中）
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両・自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
・発進した直後の車両・自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両・自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両・自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両・自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。（走行中）
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。（停車中）
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で接近する車両・自転車
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両・自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
・接近する車両・自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両・自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車してい

るとき

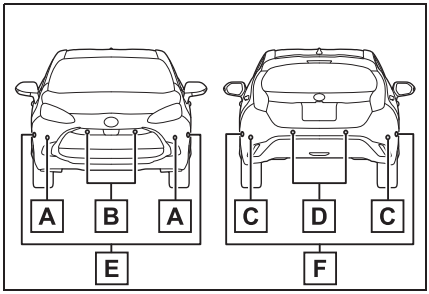
クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面に距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

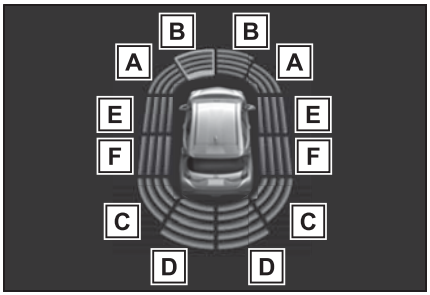
E フロントサイドセンサー（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）

F リヤサイドセンサー（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）

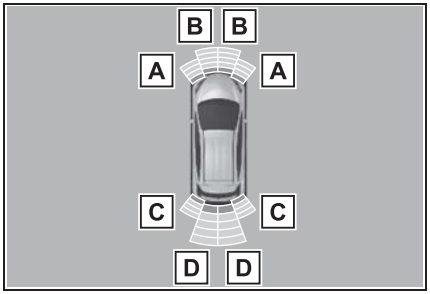
■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

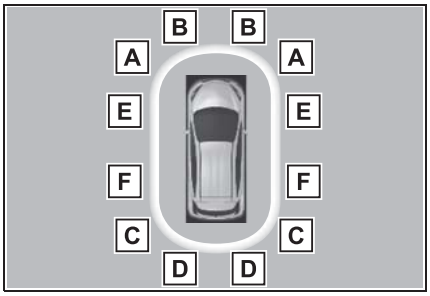
▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



▶ マルチメディア画面の表示（バックガイドモニターまたはパノラミックビューモニター装着車）



▶ マルチメディア画面の表示（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

E フロントサイドセンサー作動表示（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）

F リヤサイドセンサー作動表示（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.70）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 〈または〉を押してP⚠を選択し、OK を押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.63）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ からP を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があって

も検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

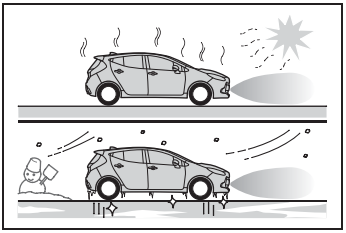
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲

にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

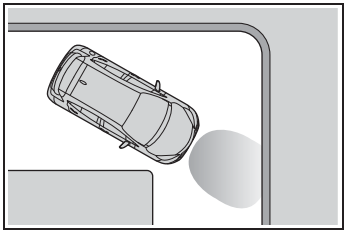
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

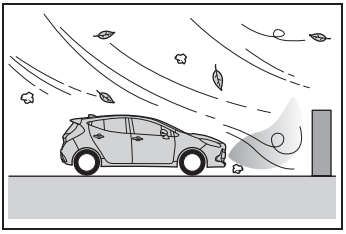
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

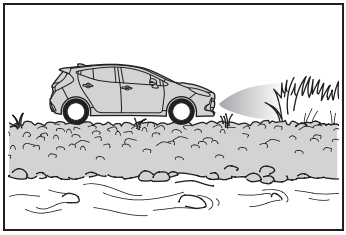
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

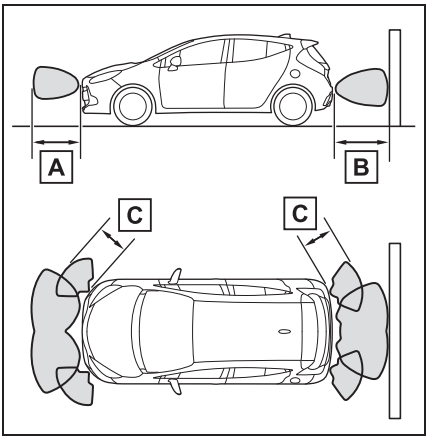


●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ Advanced Park（駐車支援システム）非装着車



A 約 100cm

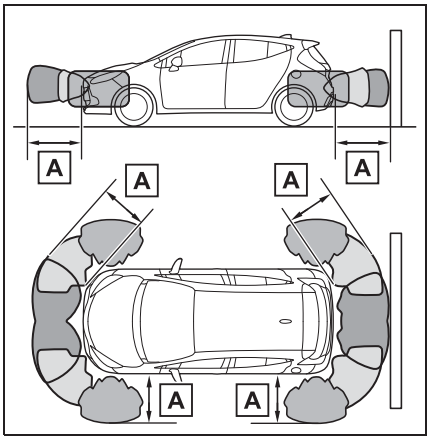
B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ Advanced Park（駐車支援システム）装着車



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ Advanced Park（駐車支援システム）非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンター： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンター： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	早い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に早い断続音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.218）

▶ Advanced Park（駐車支援システム）装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンター： 約 200cm ～ 100cm リヤセンター： 約 200cm ～ 150cm サイド： 約 200cm ～ 115cm コーナー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンター： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンター： 約 150cm ～ 60cm※ サイド： 約 115cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	早い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に早い断続音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.218）

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

● 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

● 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.70）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 ＜または＞を押してP⩓を選択し、OK を押し続ける

3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

● シフトポジションを切りかえたとき

● 車速が一定値以上になったとき

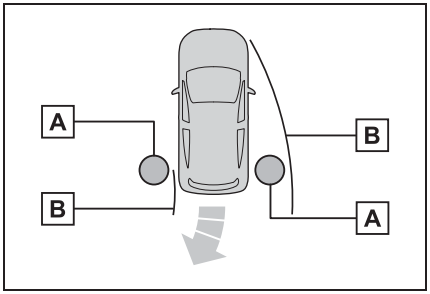
● センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

● 使用中の機能を OFF にしたとき

● パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）

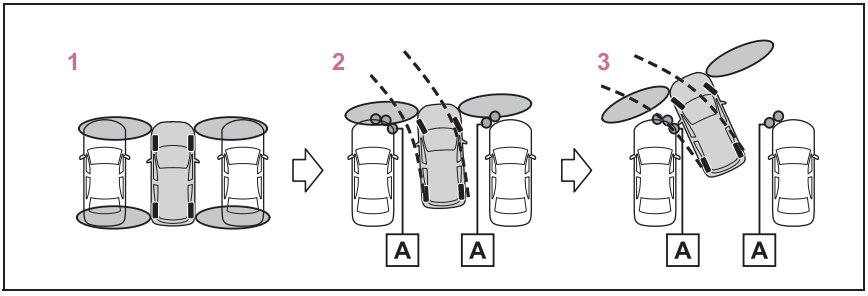
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーで、静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- VIEW が押され、マルチメディア画面が表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーで車・人・動物などがサイドセンサーの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

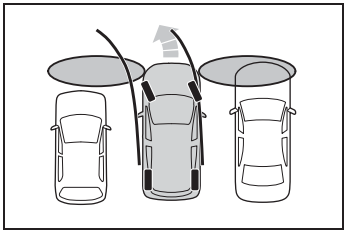
⚠警告

■サイドセンサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



●サイドセンサーで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠警告

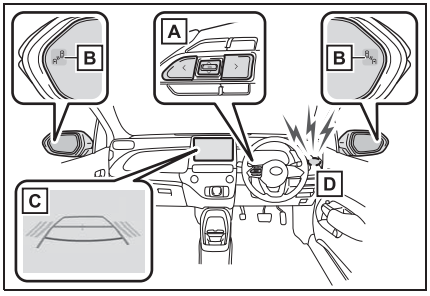
■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。(→P.204)

■システムを正しく作動させるために

→P.205

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.222）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.70）

1 ∧または∨を押して ⚙ を選択する

2 〈 または 〉 を押して “RCTA” を選択し、OK を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→P.63）が点灯します。
パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

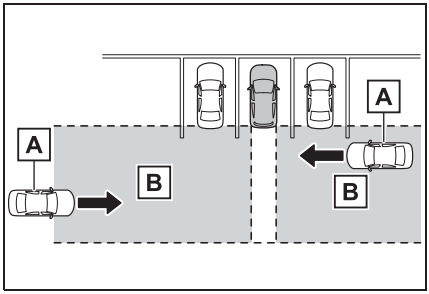
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.205

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



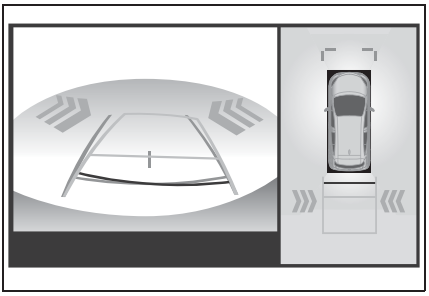
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

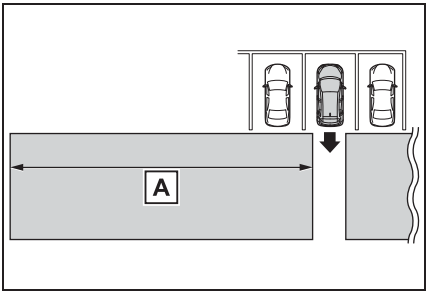
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.70）

1 ∧または∨を押して ⚙ を選択する

2 〈または〉を押して “RCTA” を選択し、OK を押し続ける

3 音量を選択し、OK を押す

1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

OK を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

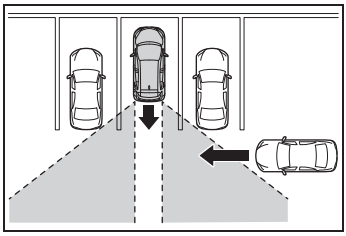
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物

●小型の二輪車・自転車・歩行者など

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

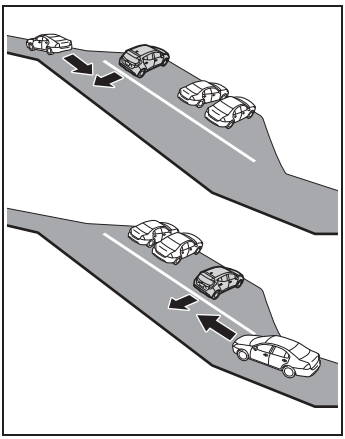
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

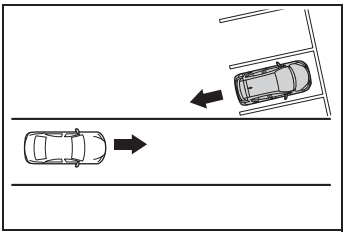
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

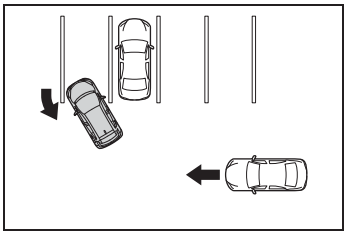
●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

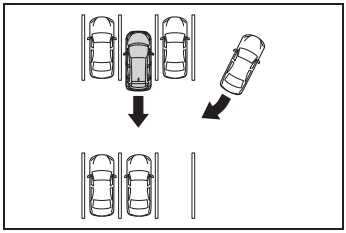
●車高が極端に変化しているとき（ノー

ズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



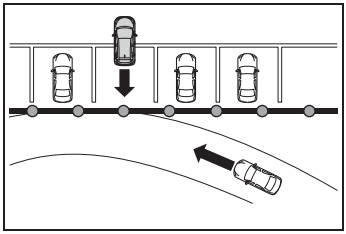
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



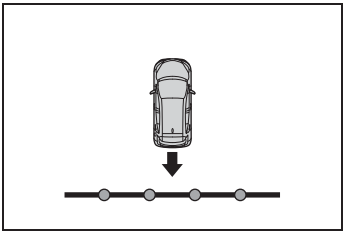
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

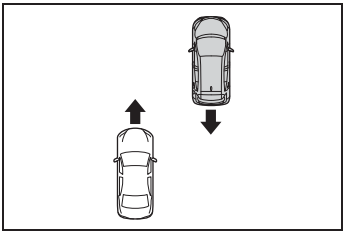


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

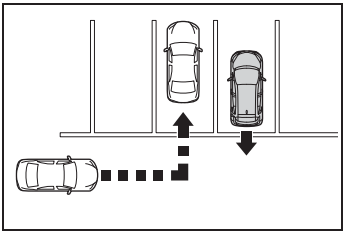


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 前後方の静止物

● 後方の車両

● 周囲の静止物 (Advanced Park［駐車支援システム］装着車)

⚠警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

⚠ 注意

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.70）

1 ∧または∨を押して⚙を選択する

2 ＜または＞を押して🚗を選択し、OK を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.63）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙から🚗を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

ヘッドアップディスプレイ表示：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面・マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏み続けてください”が表示されます。

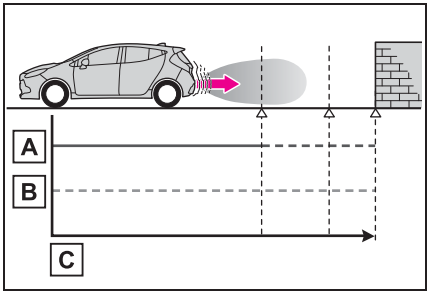
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

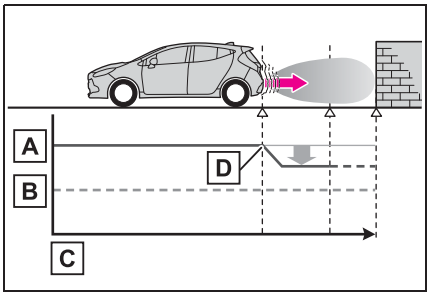


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



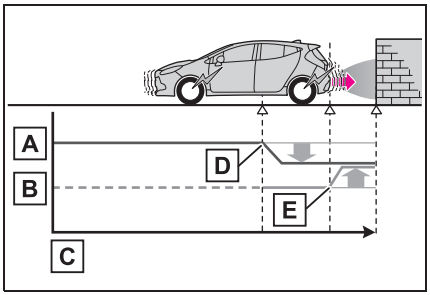
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのま

ま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON に（→P.226）するか、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを脱着したときは

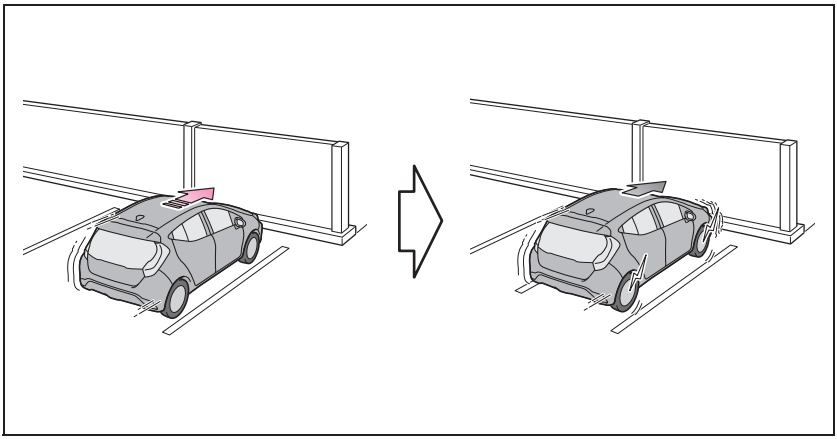
システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。

前後方の静止物

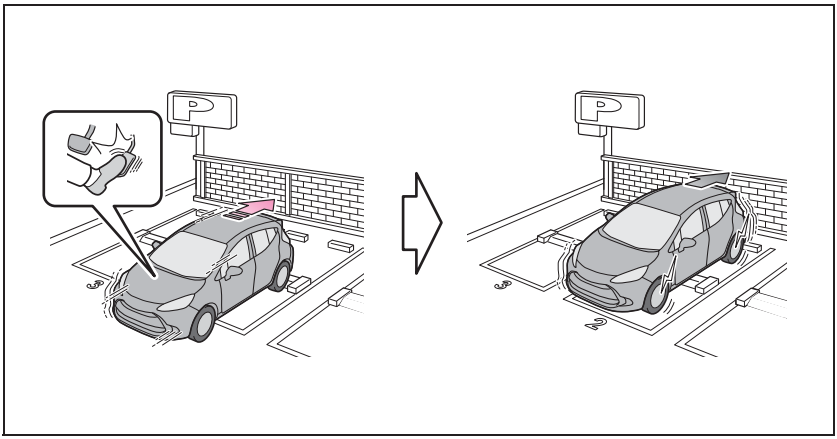
駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

次のようなときに進行方向・側方の静止物を検知してシステムが作動します。

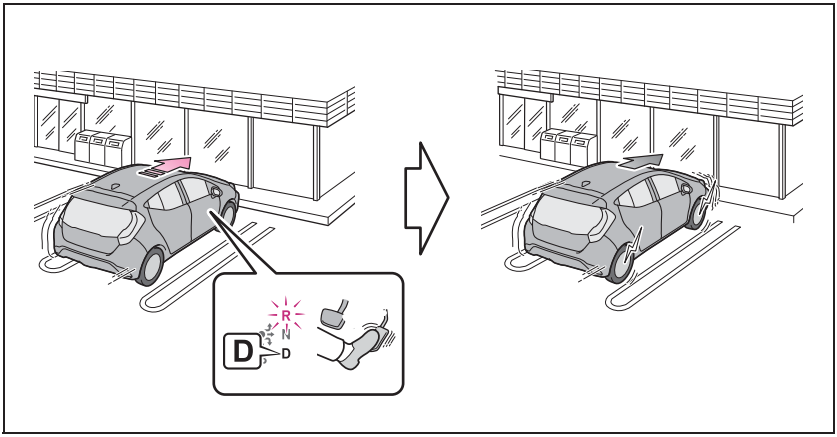
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



■ センサーの種類

→P.211

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.213

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

■万一、踏切内などで誤って、PKSB(パーキングサポートブレーキ)が作動したときは

→P.228

■洗車時の注意

→P.213

知識

■作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.63, 62）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）

を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約２秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約２～4m 先まで）

■検知範囲について

検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.216）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

→P.214

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.212）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.226）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■システムが作動しないおそれのある状況

→P.214

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

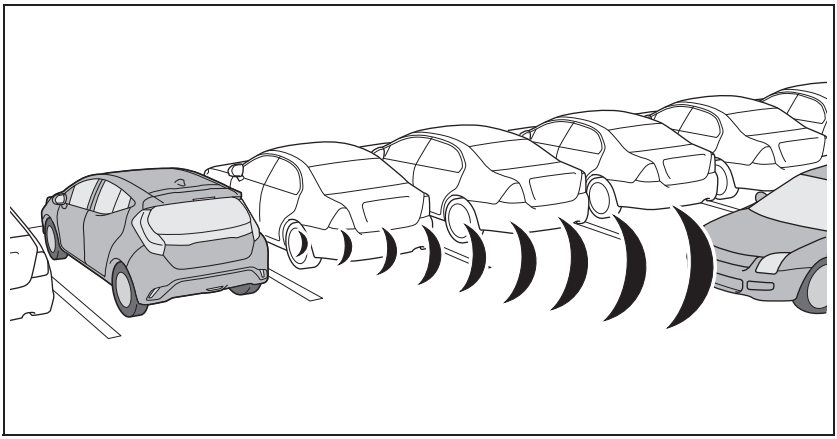
→P.215

後方の車両

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ センサーの種類

→P.205

⚠警告

■システムを正しく作動させるために

→P.205

知識

■作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.63, 62）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■検知範囲について

検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.222）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動を開始していない場合があります。

■システムが検知しない車両について

→P.223

■RCTA のブザーについて

RCTA 機能の ON/OFF に関係なく（→P.221）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.226）、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

■システムが作動しないおそれのある状況

→P.223

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

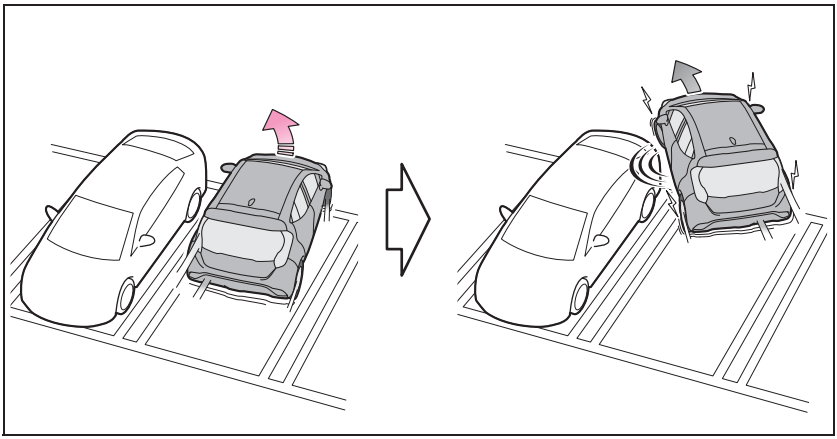
→P.224

周囲の静止物（Advanced Park［駐車支援システム］装着車）

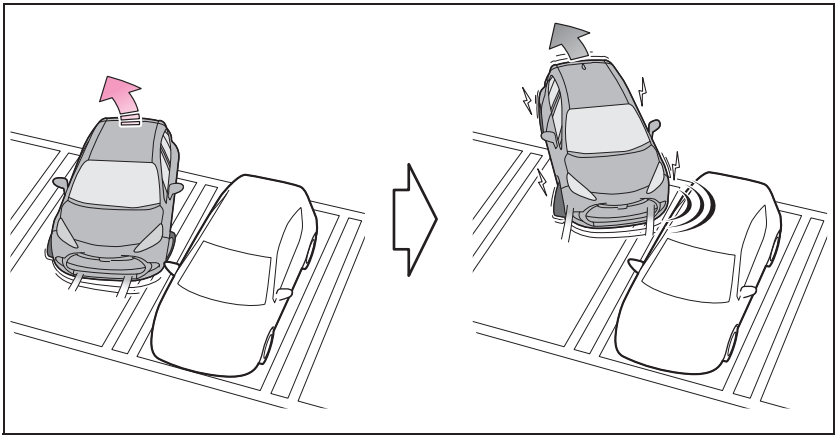
駐車時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるとき、センサーが周囲の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



■ センサーの種類

→P.211

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.213

■サスペンションの取り扱いについて

→P.231

■万一、踏切内などで誤って、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

→P.228

■洗車時の注意

→P.213

知識

■作動開始条件

前後方の静止物の作動条件（→P.231）に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

■作動終了条件

→P.231

■検知範囲について

検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.216）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

→P.214

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.212）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.226）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■システムが作動しないおそれのある状況

→P.214

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

前後方の静止物の作動条件（→P.215）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しない恐れがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せする場合

■サイドエリアの静止物の検知について

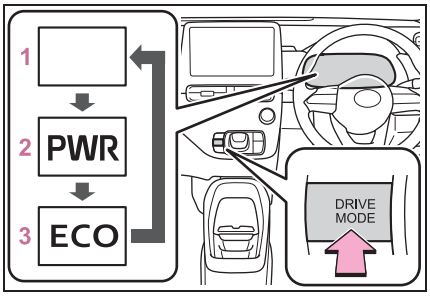
→P.219

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ リチウム電池装着車



ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモード、エコドライブモードの順で切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

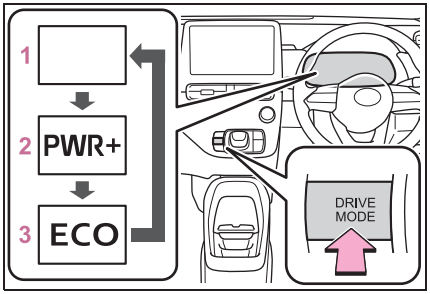
パワーモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

▶ ニッケル水素電池装着車



ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワー＋モード、エコドライブモードの順で切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワー＋モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。また、アクセルペダルから足を離すだけで強い減速が可能です。

パワー＋モード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする（→P.275, 282）
- 風量を調整する（→P.274, 281）

●エコドライブモードを解除する

■パワーモード★／パワー＋モード★の自動解除

パワーモード★／パワー＋モード★を選択して走行後、パワースイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Toyota Teammate Advanced Park ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

Advanced Park は、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を行うことにより、画面上で確認した目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※で車両前方や車両後方・車両上方からの映像を表示することにより、車両周辺の確認を補助します。

駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

※パノラミックビューモニターの詳細は別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

機能一覧

■ 並列バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.244）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.246）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.249)

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.251)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- Advanced Park は設定した駐車スペースへの駐車をアシストするシステムです。駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- Advanced Park は駐車や出庫のアシストを行うシステムです。車両周辺の安全確認を行い、必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなものは検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
  - ・針金・フェンス・ロープなどの細いもの
  - ・綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
  - ・鋭角的な形のもの
  - ・背の低いもの（縁石やブロックなど）
  - ・背が高く上部が張り出しているもの
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。
- 周辺の車両や障害物・車止め・人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを中止してください。
- マルチメディア画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。

⚠ 警告

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを中止してください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地・砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場

・傾斜・段差のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両前方に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに側溝があるとき

・出庫方向に穴や側溝があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき

・ドアが完全に閉まっていないとき

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

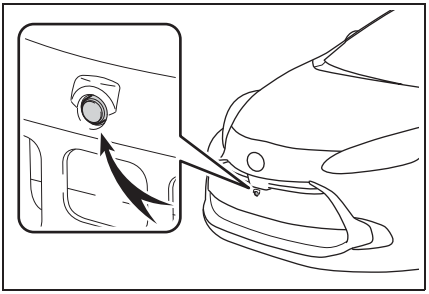
・区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

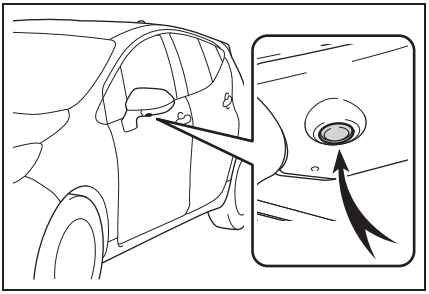
Advanced Park で使用するセンサー

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

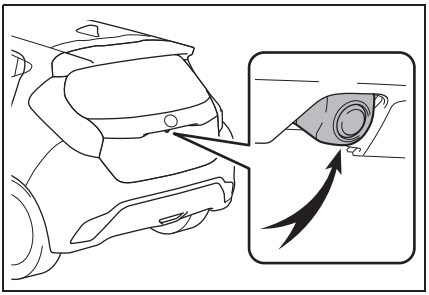
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.211

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱書／周辺監視／ Toyota Teammate[パノラミックビューモニター（Advanced Park 装着車）]」を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■センサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■白線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の駐車枠を検出することができない場合があります。

・白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の駐車枠線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき

・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・白線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■センサーの検知について

→P.214

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.214

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.214

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.215

⚠警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（詳しくは、「マルチメディア取扱書／周辺監視／Toyota Teammate[パノラミックビューモニター（Advanced Park 装着車）]」を参照してください。）

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、P.213 のクリアランスソナー使用時の注意を参照してください。

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

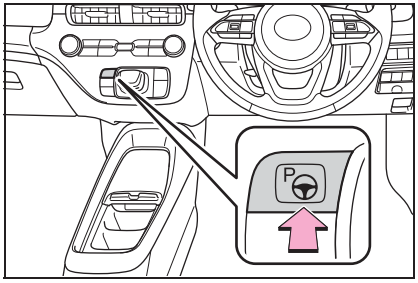
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

Advanced Park の ON/OFF を変更する

メインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

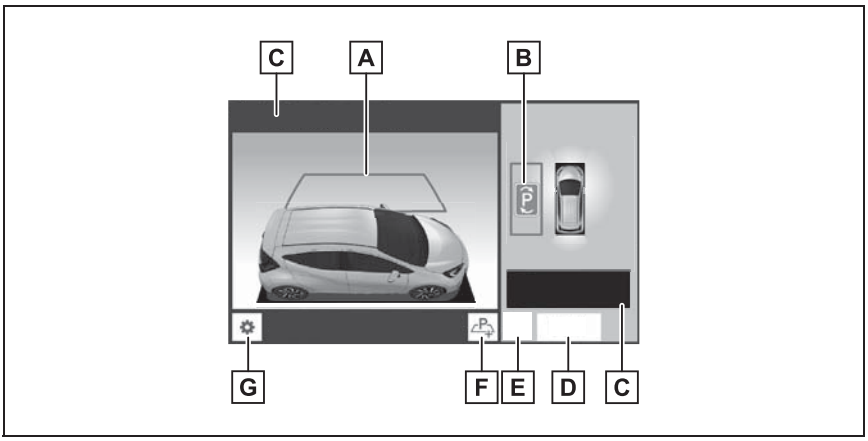
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していない
- ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。（→P.256）

ガイド画面について

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

：並列バック駐車機能への切りかえ

C アドバイス表示

D “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

E “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列バック駐車機能／縦列駐車機能を切りかえます。（→P.253）

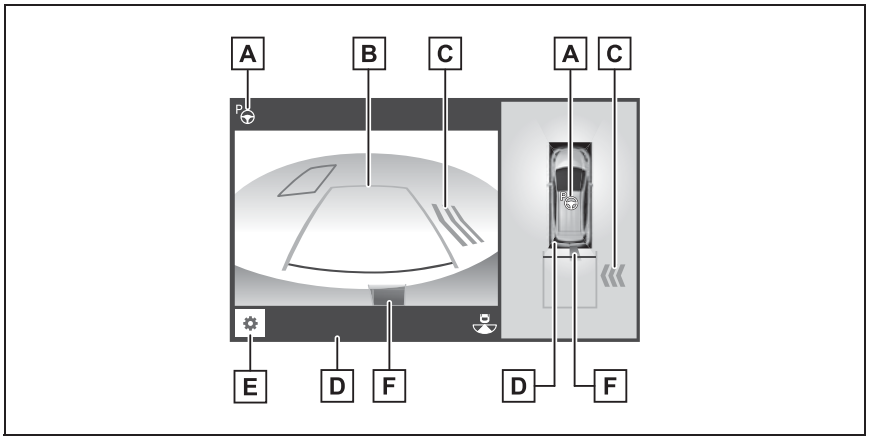
F 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

G カスタマイズ設定スイッチ

Advanced Park の設定画面に切りかわります。（→P.256）

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

Advanced Park が作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離※（黄色）と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C RCTA（リヤクロストラフィックアラート）／ RCTA アイコン

→P.220

D ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E カスタマイズ設定スイッチ

Advanced Park の設定画面に切りかわります。(→P.256)

F クリアランスソナー表示

→P.211

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

Advanced Park 作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→P.212）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■Advanced Park 作動中のブレーキ制御の作動について

Advanced Park 作動中は、衝突の可能性がある移動物または障害物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

- ブレーキ作動後はAdvanced Parkの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ブレーキの作動による中断が3回発生した場合、Advanced Park の作動を解除します。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■Advanced Park 作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

並列バック駐車機能

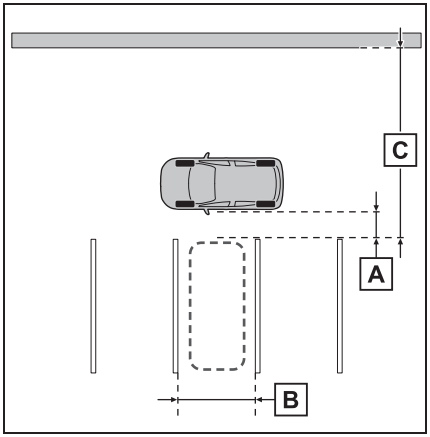
■ 機能概要

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 並列バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

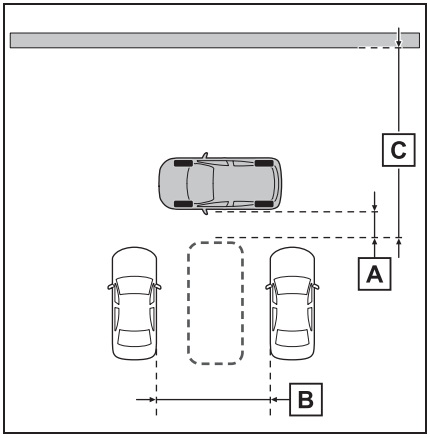
B 約 2.5m※

C 約 5m 以上※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

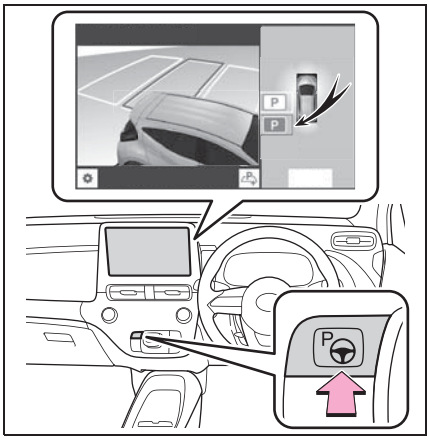
B 約 3m 以上※

C 約 5m 以上※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 メインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

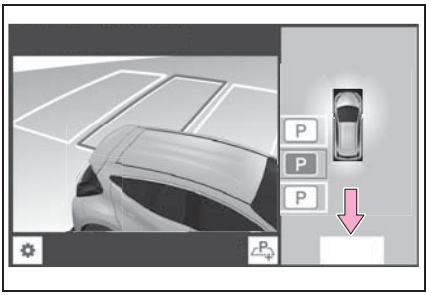
● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、(P)を選択すると縦列駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中の

メッセージを表示して、アシストが開始されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。
- アシストを中止するには、メインスイッチを押します。

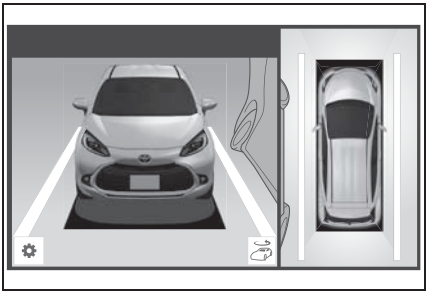
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.246

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面の を選択すると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

注意

■並列バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、並列バック駐車機能を中止してください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、並列バック駐車機能は使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

縦列駐車機能

■ 機能概要

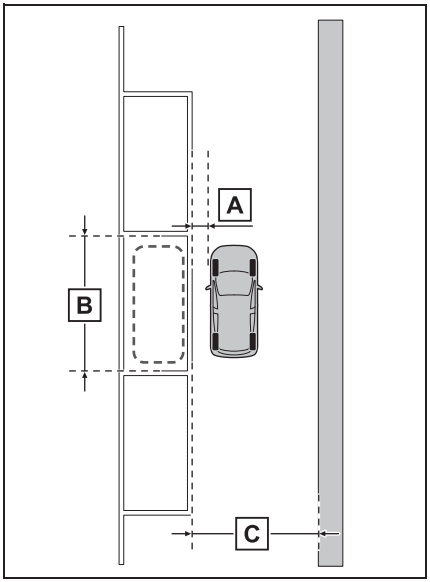
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返

し操作もアシストします。

■ **縦列駐車機能を使用して駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



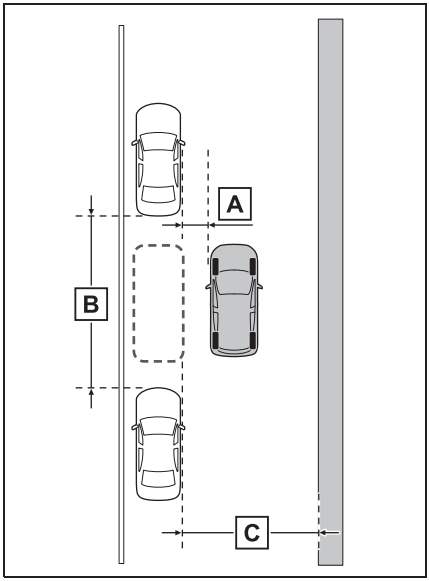
A 約 1m※

B 約 5 ～ 6m※

C 約 4.5m 以上※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

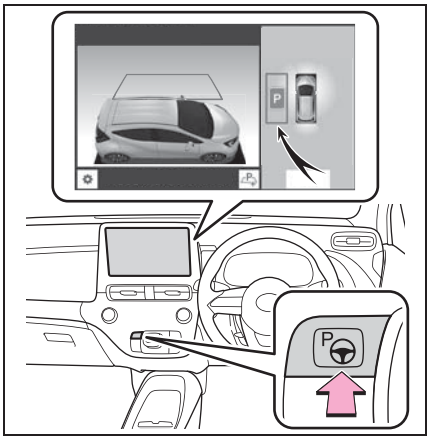
B 約 6m 以上※

C 約 4.5m 以上※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 メインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なス

ペースが表示されたことを確認する



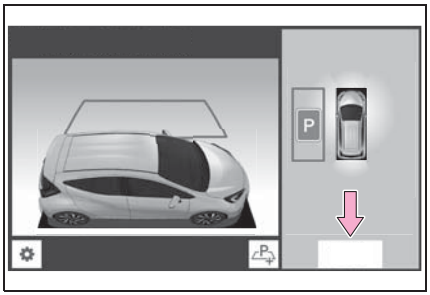
● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、[P] を選択すると並列バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、メインスイッチを押します。

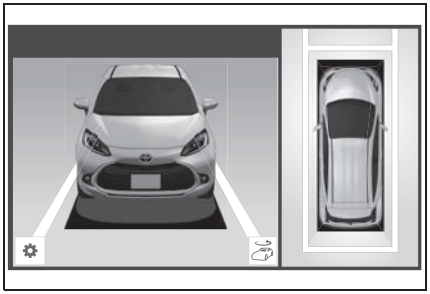
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.249

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面の [icon] を選択すると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



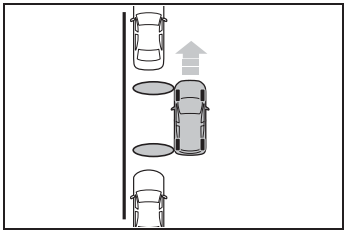
知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開”スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

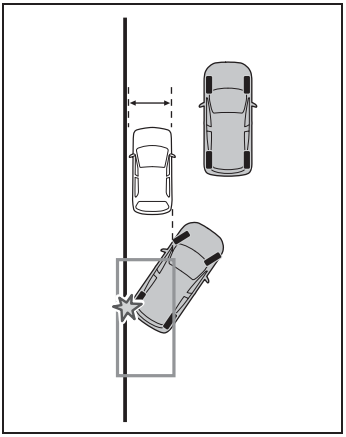
駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



注意

■縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。
- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

縦列出庫機能

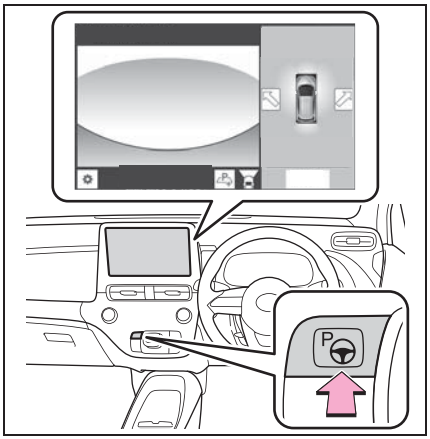
■機能概要

縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作をアシストします。

■縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態でメインスイッチを押し、マルチメディア

画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



2 方向指示レバー（→P.150）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

マルチメディア画面でも矢印を選択することで、出庫したい方向を選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

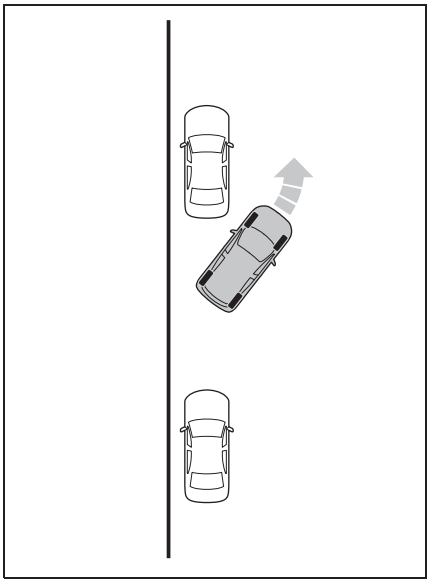
アシストを中止するにはメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.250

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両がほぼ出庫可能位置に到達したら停車して、ブレーキペダルまたはアクセルペダルを踏むと、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。そのままハンドルを持ち、前進してください。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

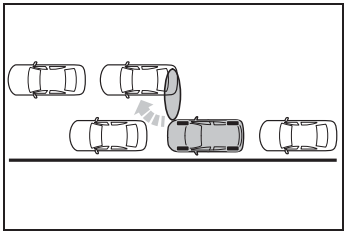
■縦列出庫機能について

- アシスト中に運転者が出庫可能と判断してハンドルを操作すると、その位置でアシストを中断します。
- 縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

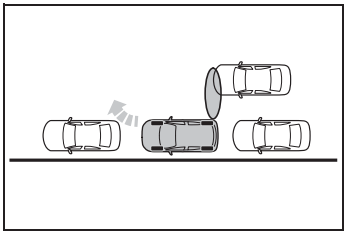
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

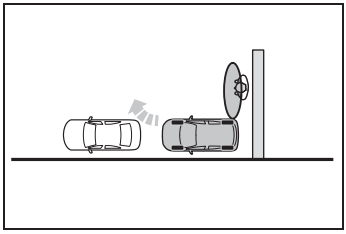
●出庫方向に信号待ちの車両がある場合



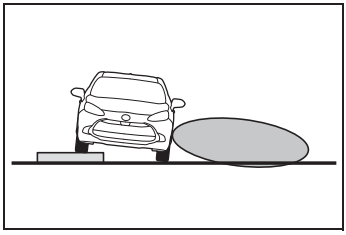
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

メモリ機能

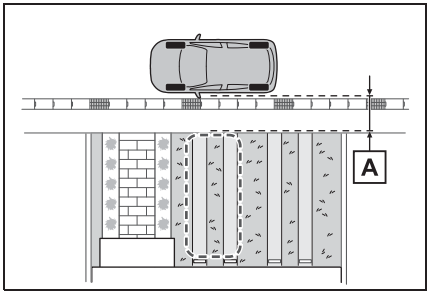
■ 機能概要

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

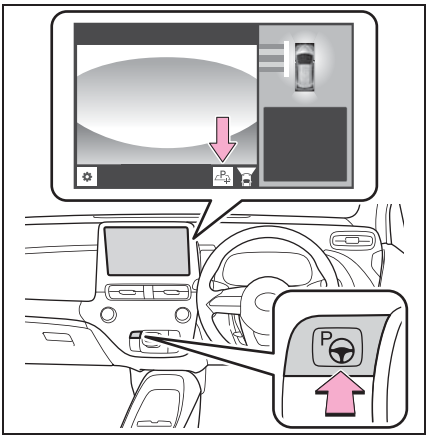
■ 駐車スペースの登録

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

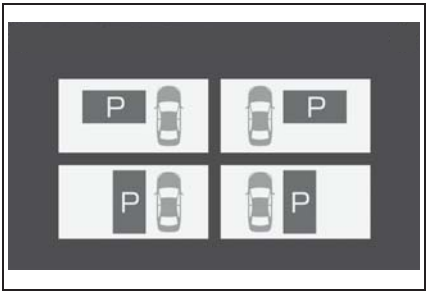


A 約 1m

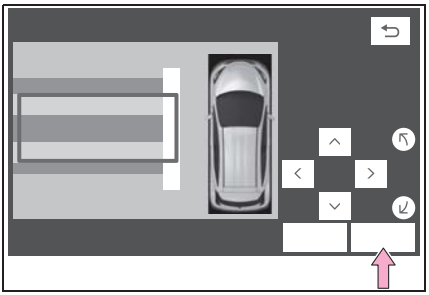
2 メインスイッチを押し、を選択する



3 駐車方法を選択する



4 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチを選択する

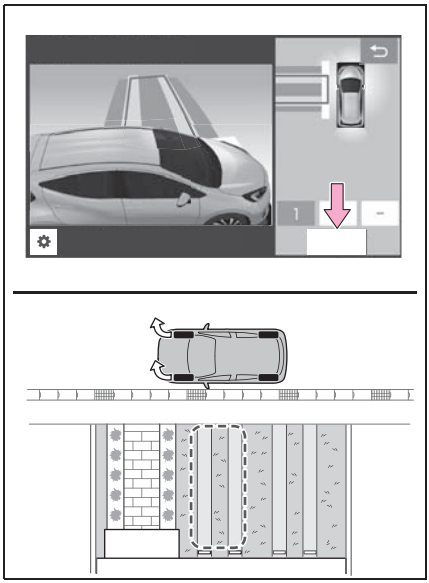


5 “開始”スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.253

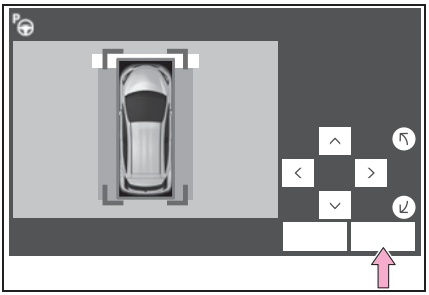


6 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

7 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチを選択する

マルチメディア画面に“登録を完了しま

した” と表示されます。

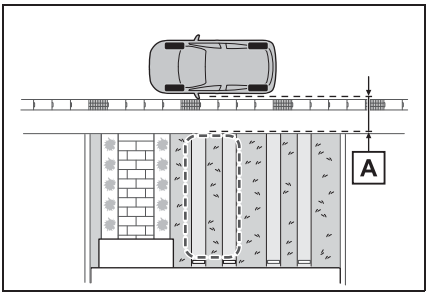


● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

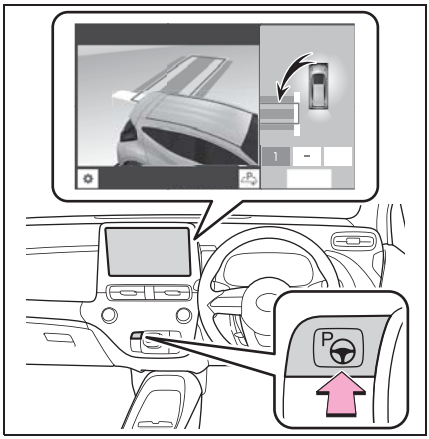
■ **メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

2 メインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



3 “MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチを選択してメモリ機能に切りかえる

4 駐車したいスペースを選択し、“開始” スイッチを選択する

このあとの手順は、並列バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。(→P.244)

知識

■**周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは**

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

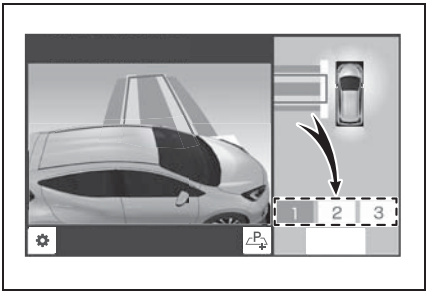
■**登録した駐車スペースを上書きするときは**

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で を選択すると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリ

を登録することができます。

■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”を選択する



⚠注意

■メモリ機能を使用するときは

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

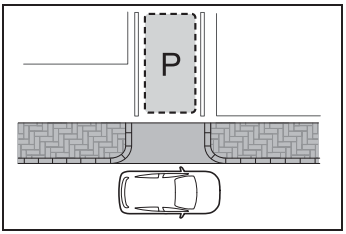
・カメラが汚れているとき

・雨雪が降っているとき

・夜間（十分な明るさを確保できないとき）

●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

・駐車スペースの前に歩道がある駐車場

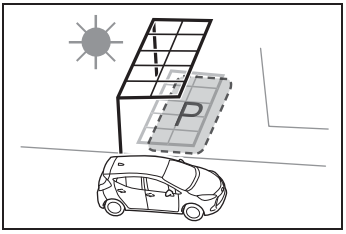


・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

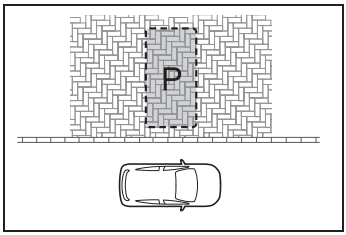
・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



・駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

⚠ 注意

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・駐車スペースに影が出ているとき

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）

・駐車スペースに光が差し込んでいるとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい区画の真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

●カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

Advanced Park の中止・中断

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中止します。

ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● メインスイッチを押した

● シフトポジションを P にした

● パーキングブレーキをかけた

● ドアを開けた

● 運転席シートベルトをはずした

● ドアミラーを格納した

● TRC・VSC を OFF にした

- TRC・VSC・ABS が作動した
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常

■ **アシストが中断されるとき**

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中断します。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトレバーを操作した
- ブレーキ制御が作動した
- PCS が作動した

設定を変更するには

マルチメディア画面の ⚙ を選択して、“Advanced Park” を選択します。

■ **音声案内**

音声案内の ON/OFF を設定できます。

■ **速度モード**

駐車アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ **障害物回避距離**

駐車アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ **優先駐車方法**

並列バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ **駐車進路調整**

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

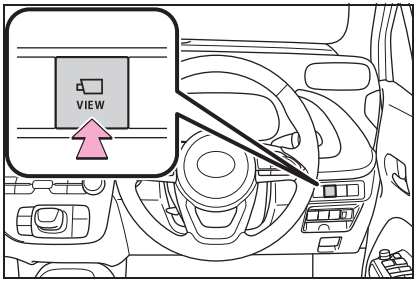
タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ **道幅調整**

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ **登録した駐車場所の消去**

1 Advanced Park が OFF の状態でカメラスイッチを押す



2 マルチメディア画面の ⚙ を選択して、“Advanced Park” を選択する

3 “登録した駐車場所の消去” を選択すると、メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。

メッセージ表示について

Advanced Park の作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメ

ディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました” が表示されたときは

PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.225）が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の “再開” スイッチを選択してください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で を選択したときに表示されます。

システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.251）

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four（電気式 4WD システム）（4WD 車）

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

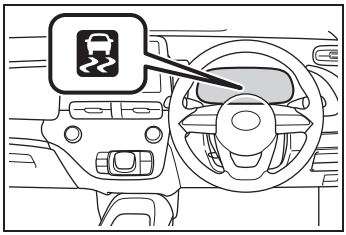
■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

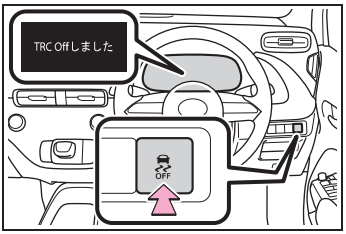
このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押します。

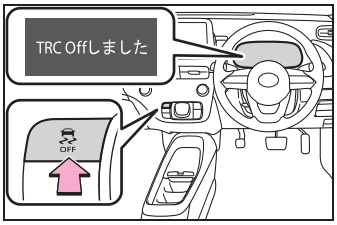
マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

▶ Advanced Park (駐車支援システム) 装着車



▶ Advanced Park (駐車支援システム) 非装着車



■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。(衝突警報のみ作動可能状態になります。)PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.181)

■ スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外(前進または後退での上り坂発進時)

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●パワースイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる

・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音(“カチ”、“シュー”、“ジー”という音)

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音(“ジー”という音)

●ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音(“カチ”、“シュー”、“ジー”という音)

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音(“ウィーン”という音)が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●(TRC のみを作動停止にしている場合)車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 0km/h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

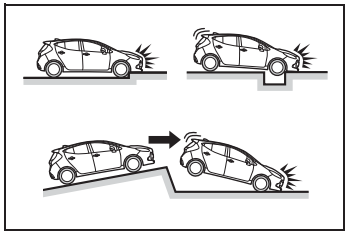
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※とき

※アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

⚠警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.399）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

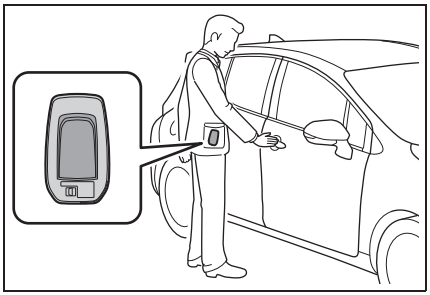
プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート用スマートキー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.89）

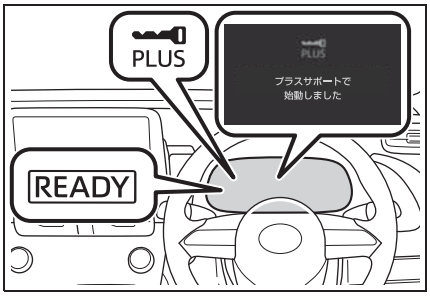
パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→P.139）

3 READY インジケーターが点灯し、“プラスサポートで始動しました”というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。



4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にする

⮌を押すまで、“プラスサポートで始動しました”のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

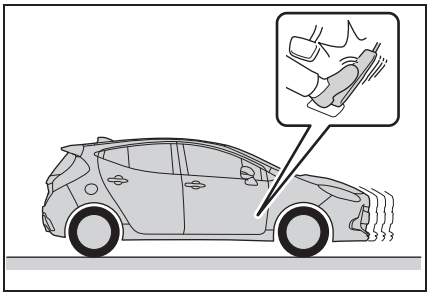
- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

⚠ 警告

●ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.63）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

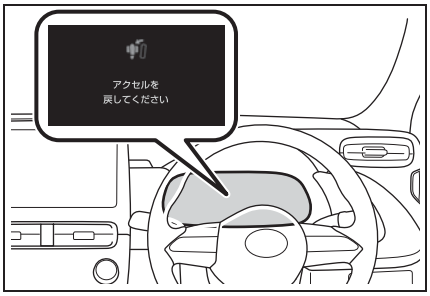
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションが P・N 以外のとき

●車速が約 30km/h 以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

●次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。
アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。
・ 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間
・ ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間
・ 急な上り坂に自車がいるとき

●Advanced Park 作動中は、急アクセル時加速抑制が作動しません。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化
・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・ 雪道などスリップが発生するような場

所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき

専用パワーステアリング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

発進時や低速走行時の操作性向上のため、操作に必要な力を標準車にくらべて約 50%軽減しています。

⚠警告

■ステアリング操作について

標準車にくらべて大幅にステアリングの操作力が軽くなっていますので、初めてこの車両を運転されるときは、特にご注意ください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
（→P.236）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
（→P.66）

シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早

めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.323）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをＰにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

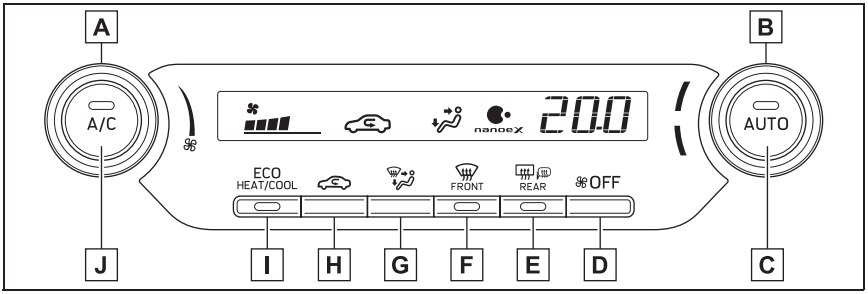
※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方
オートエアコン（10.5 インチマルチメディア非装着車）..... 274
オートエアコン（10.5 インチマルチメディア装着車）..... 280
ステアリングヒーター／シートヒーター..... 286
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧..... 288
5-3. 収納装備
収納装備一覧..... 290
ラゲージルーム内装備..... 295
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 298
アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム 302
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは..... 310

オートエアコン（10.5 インチマルチメディア非装着車）

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A 風量調整スイッチ

B 温度調整スイッチ

C AUTO スイッチ

D OFF スイッチ

E リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

F フロントデフロスタースイッチ

G 吹き出し口切りかえスイッチ

H 内外気切りかえスイッチ

I エコ空調スイッチ

J 冷房・除湿スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

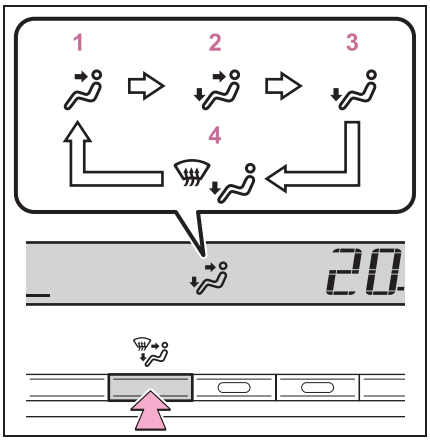
風量を増やすときは風量調整スイッチを右へまわし、減らすときは風量調整スイッチを左へまわす

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは が、外気導入を選択しているときは が表示されます。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ONのときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチがONのときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチがONのときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードがONのときは、作動表示灯が点灯します。

■「ナノイーX」※1について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします。※2

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件

以外では、効果を十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき

・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」の作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

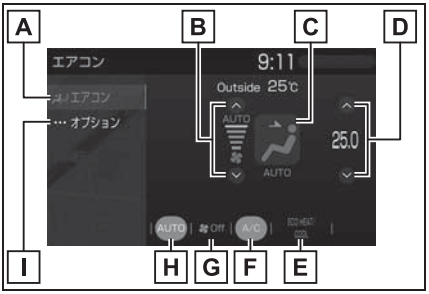
※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■ エアコン操作画面について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチメディアシステムの“MENU”スイッチを押し、“エアコン”を選択する



A エアコン操作画面を表示する

B 風量を切りかえる

C 吹き出し口を切りかえる

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

D 温度を調整する

E エコ空調モードに設定する（→P.277）

F 冷房・除湿する

G ファンを停止する

H 吹き出し口と風量が自動的に調整される（→P.278）

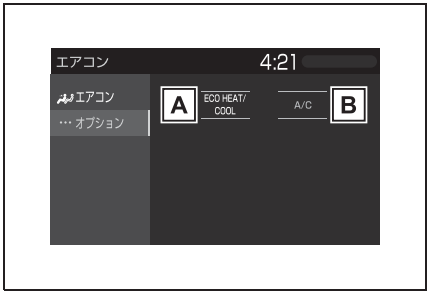
I オプション操作画面を表示する

■ オプション画面を表示するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコン操作画面の“オプション”を選択する

次の機能の ON ／ OFF を選択できます。機能が ON のときは、表示灯が点灯します。



A エコ空調スイッチ

B 冷房・除湿スイッチ

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。(→P.236)

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・ エコ空調モードを OFF にする (→P.275)
・ 風量を調整する
・ エコドライブモードを解除する (→P.236)

■外気温度が 0℃近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■音声操作システムについて★

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エアコンフィルターについて

→P.327

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.401)

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

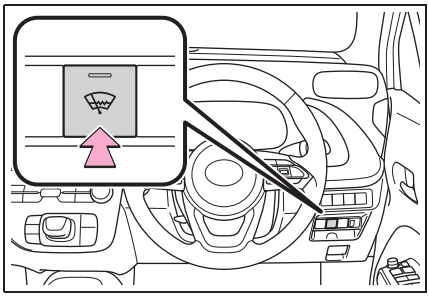
風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロントワイパーデアイサー★



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばら

くすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

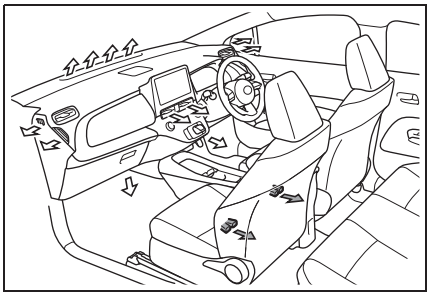
■ フロントワイパーデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

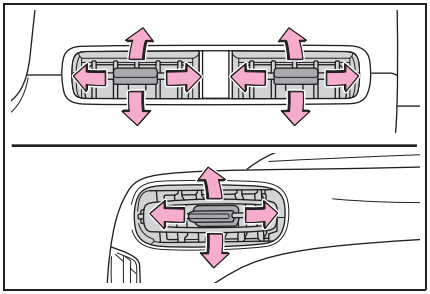
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



⬅：仕様により設定の有無あり

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



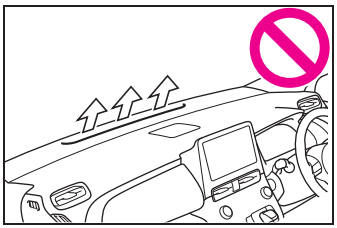
ノブを上下左右に動かしてください。

サイド吹き出し口：ノブを外側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



リモートスタート（アプリ）※

※ 別途、契約（有料）が必要となります。

駐車中にスマートフォンの T-Connect 対応アプリを使用して遠隔でエンジンを始動させ、同時にエアコンを始動させることができます。

リモートスタート（アプリ）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

オートエアコン（10.5 インチマルチメディア装着車）

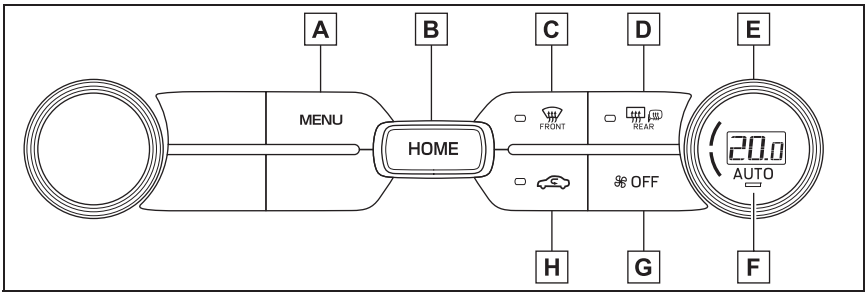
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作パネルと、マルチメディア画面のエアコン操作画面で操作します。

マルチメディアシステムについての詳しい説明は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

エアコン操作スイッチについて

■ エアコン操作パネル



A “MENU” スイッチ

B “HOME” スイッチ

C フロントデフロスタースイッチ

D リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

E 温度調整スイッチ

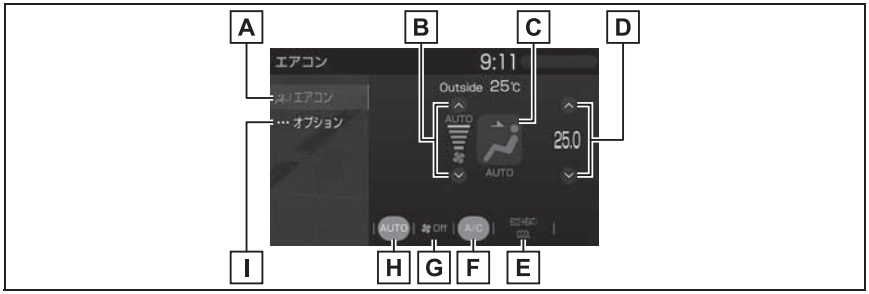
F AUTO スイッチ

G OFF スイッチ

H 内外気切りかえスイッチ

■ エアコン操作画面

エアコン操作パネルの “MENU” スイッチを押し、マルチメディア画面の “ エアコン ” を選択するとエアコン操作画面が表示されます。



A エアコン画面表示スイッチ

B 風量調整スイッチ

C 吹き出し口切りかえスイッチ

D 温度調整スイッチ

E エコ空調スイッチ

F 冷房・除湿スイッチ

G OFF スイッチ

H AUTO スイッチ

I オプション画面表示スイッチ

■ 温度を調整する

▶ エアコン操作パネルでの調整

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは温度調整スイッチを左へまわす

冷房・除湿スイッチの作動表示灯が点灯していない場合は、送風または暖房で使用できます。

▶ エアコン操作画面での調整

設定温度を上げるときは温度調整スイッチの∧を選択し、下げるときは温度調整スイッチの∨を選択する

スイッチを押し続けるまたは選択し続けると、温度が連続して変化します。

冷房・除湿スイッチの作動表示灯が点灯していない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはエアコン操作画面にある風量調整スイッチの∧を選択する

風量を減らすときはエアコン操作画面にある風量調整スイッチの∨を選択する

エアコン操作パネルの OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作画面の吹き出し口切りかえスイッチを選択する

スイッチを選択するたびに吹き出し口が切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

エアコン操作パネルの内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを選択するたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、スイッチの表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

エアコン操作画面の冷房・除湿スイッチを選択する

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

エアコン操作パネルのフロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

エアコン操作パネルのリヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

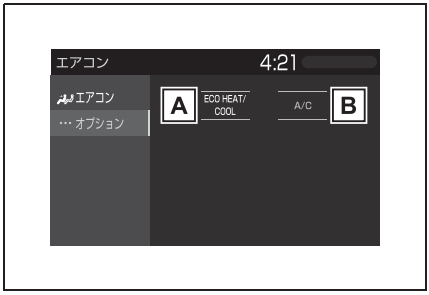
エアコン操作画面のエコ空調スイッチを選択する

エコ空調モードが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ オプション画面を表示するには

エアコン操作画面のオプション画面表示スイッチを選択する

次の機能の ON ／ OFF を選択できます。機能が ON のときは、表示灯が点灯します。



A エコ空調スイッチ

B 冷房・除湿スイッチ

■「ナノイー X」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席側の吹き出し口を通じて、

水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします。※2

● ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果を十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき

・ 運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」の作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

● 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。(→P.236)

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・ エコ空調モードを OFF にする (→P.275)

・ 風量を調整する

・ エコドライブモードを解除する (→P.236)

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■音声操作システムについて

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.327

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

⚠警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

1 エアコン操作画面の AUTO スイッチを押す

2 温度を設定する

3 エアコン操作画面の冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、エアコン操作パネルの OFF スイッチを押す、またはエアコン操作画面の OFF スイッチを押す。

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消

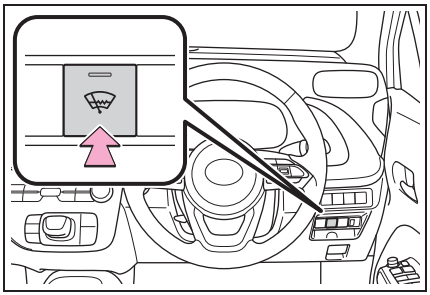
灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロントワイパーデアイサー★



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

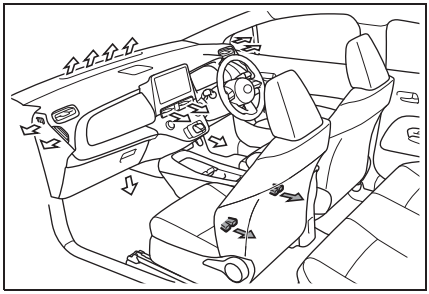
■フロントワイパーデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

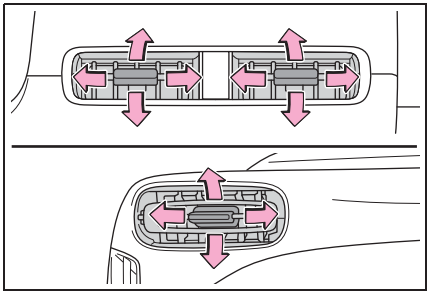
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



⬅：仕様により設定の有無あり

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



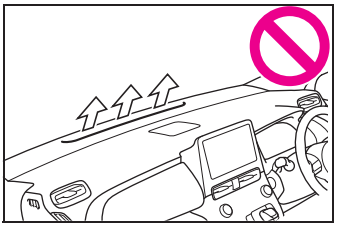
ノブを上下左右に動かしてください。

サイド吹き出し口：ノブを外側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



リモートスタート（アプリ）※

※別途、契約（有料）が必要となります。

駐車中にスマートフォンのT-Connect対応アプリを使用して遠隔でエンジンを始動させ、同時にエアコンを始動させることができます。

リモートスタート（アプリ）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

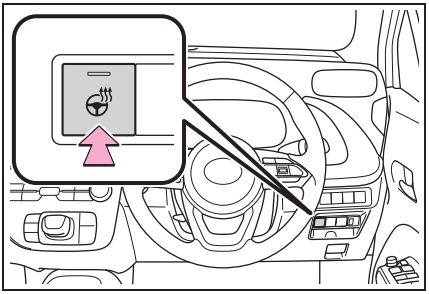
ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

操作スイッチについて

■ ステアリングヒーター

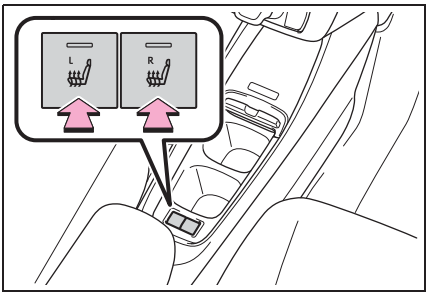
システムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。



■ シートヒーター

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、スイッチを軽く押してください。作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

警告

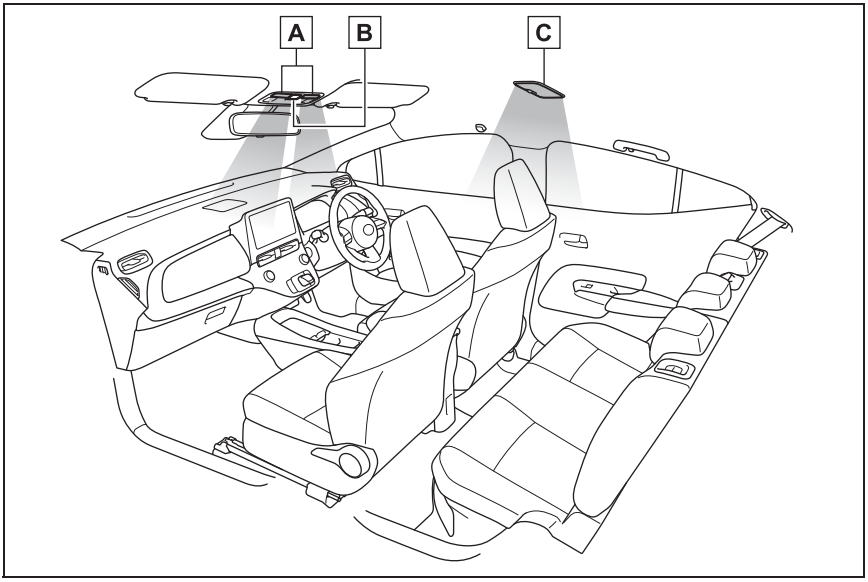
■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



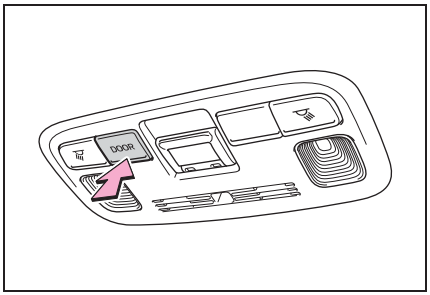
A フロントインテリア／パーソナルランプ（→P.288,289）

B コンソール照明

C リヤインテリアランプ（→P.288）

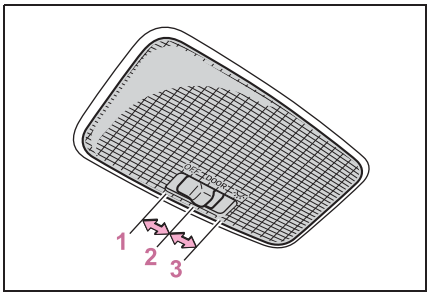
インテリアランプを操作するには

■ フロント



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

■ リヤ

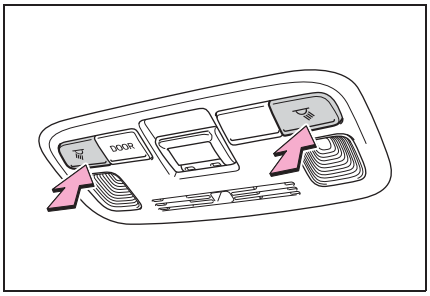


1 ランプを消灯する

2 ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

3 ランプを点灯する

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。
手動操作で消灯することもできますが、2 次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.401）

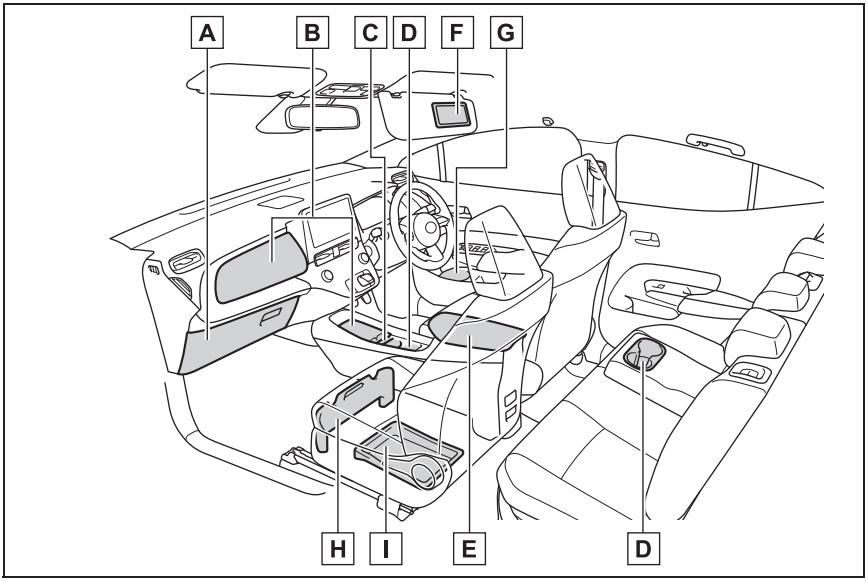
注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A グローブボックス（→P.291）

B 小物入れ（→P.291）

C オープントレイ（→P.293）

D カップホルダー★（→P.292）

E コンソールボックス★（→P.292）

F カードホルダー★（→P.294）

G ボトルホルダー（→P.292）

H 買い物アシスト★（→P.293）

I 助手席シートアンダートレイ★（→P.294）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

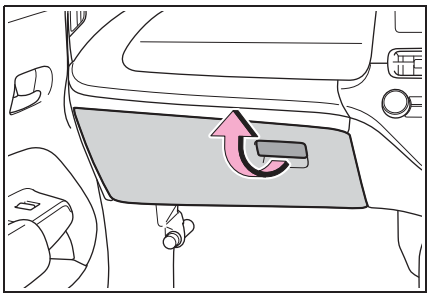
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

⚠ 警告

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



レバーを引いて開ける

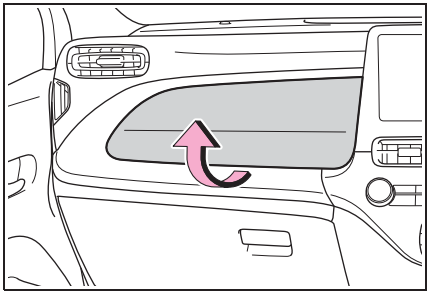
⚠ 警告

■走行中の警告

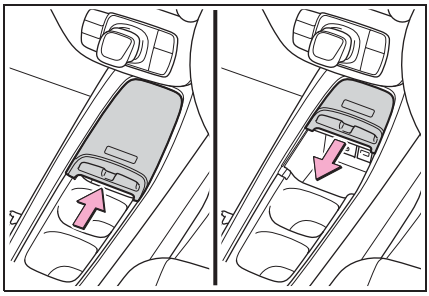
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ

■ 助手席アッパーボックス



■ コンソールアッパー



⚠ 警告

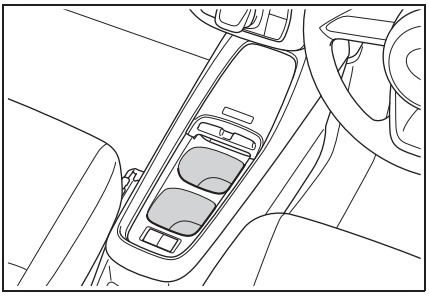
■走行中の警告

助手席アッパーボックスのふたを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

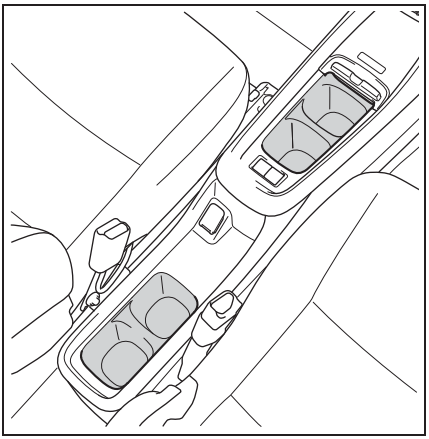
カップホルダー

■ フロント

▶ コンソールボックス装着車

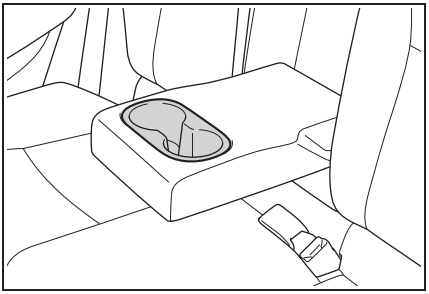


▶ コンソールボックス非装着車



■ リヤ★

アームレストを手前に倒す



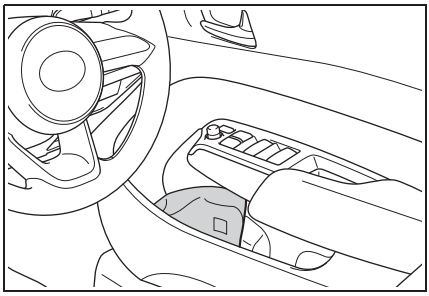
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

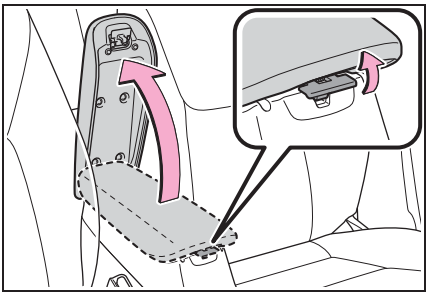
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コンソールボックス★

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。



レバーを引いてふたを開ける

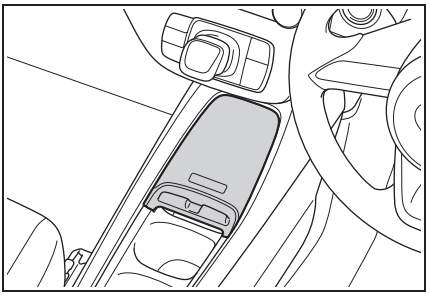
⚠ 警告

■走行中の警告

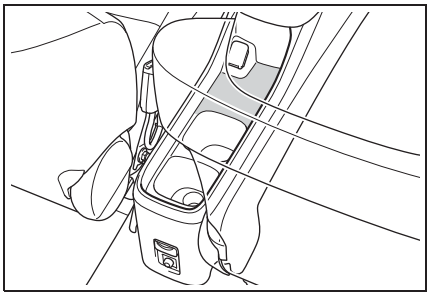
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ

■ フロント



■ リヤ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

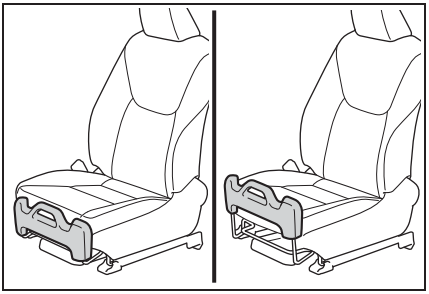
■走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

買い物アシスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

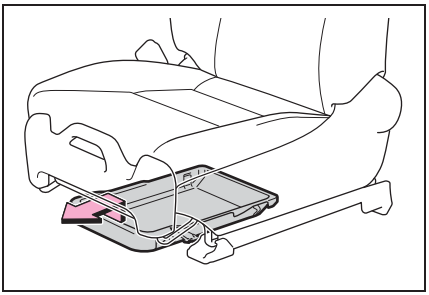


助手席シートクッションの上に置いた小物（ハンドバッグなど）が急ブレーキをかけたときにシートの下に落下するのを防止します。買い物アシストを上に持ち上げて使用します。

しっかりと固定されていることを確認してください。

助手席シートアンダートレイ★

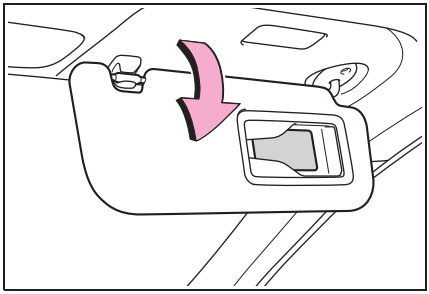
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



トレイを上に持ち上げ、前に引き出す。

カードホルダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



バイザーを下ろす。

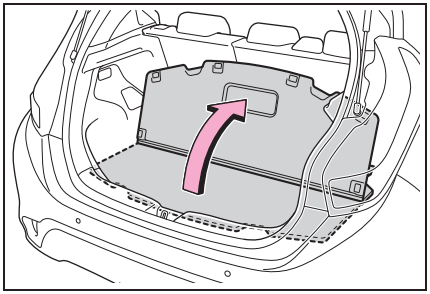
ラゲージルーム内装備

デッキボード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

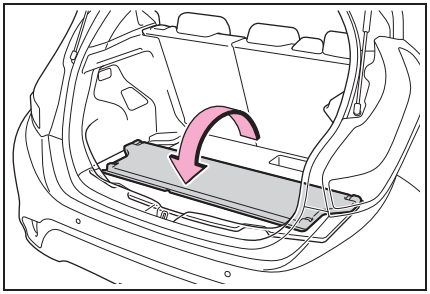
■ デッキボードの開け方

デッキボードを持ち上げる

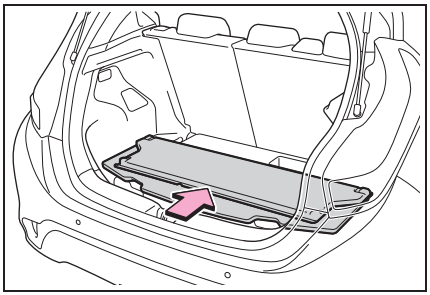


■ デッキボードを取りはずすには

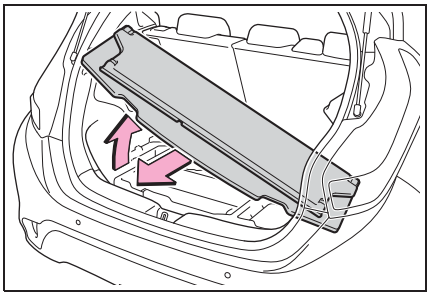
1 デッキボードを折りたたむ



2 デッキボードを車両前方にずらす

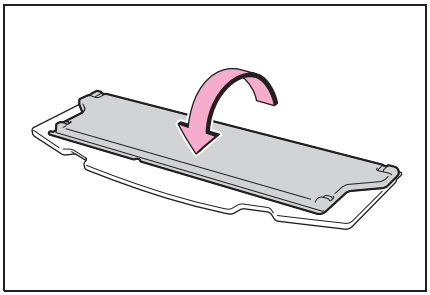


3 デッキボードを斜めにして取り外す

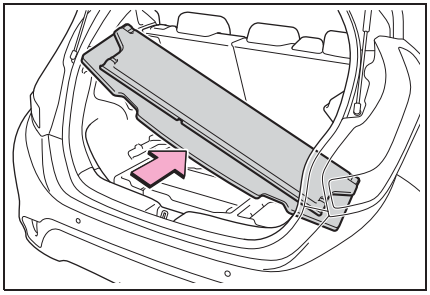


■ デッキボードを取り付けるには

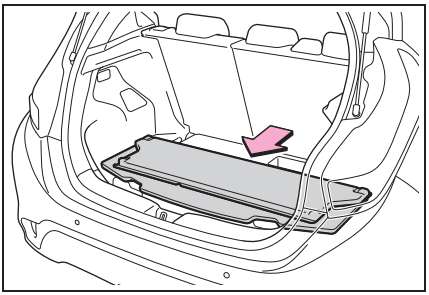
1 デッキボードを折りたたむ



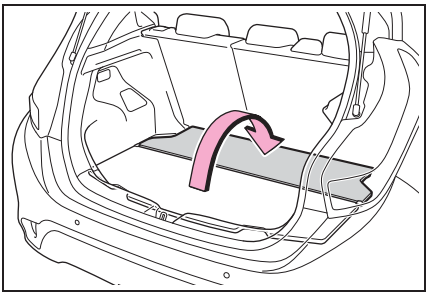
2 デッキボードを斜めにした状態で車内に入れる



3 デッキボードを車両後方にずらす

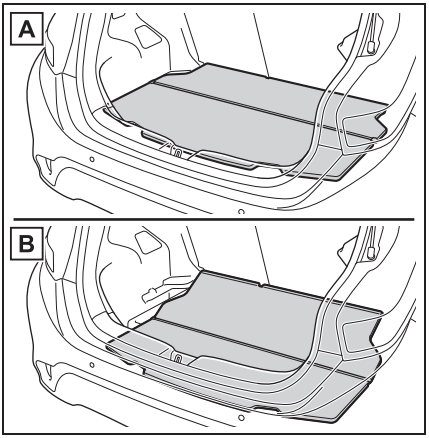


4 デッキボードをもとの状態にもどす



■ 荷室床面の高さを調節する

デッキボードのセット位置を変更することで、床面の高さを調節できます。



A 上段

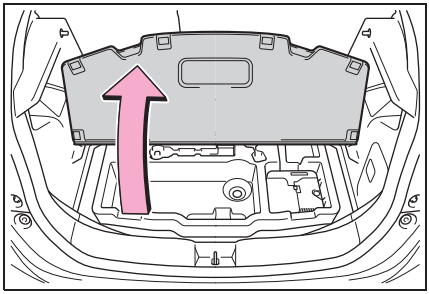
B 下段

ラゲージアンダートレイ★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

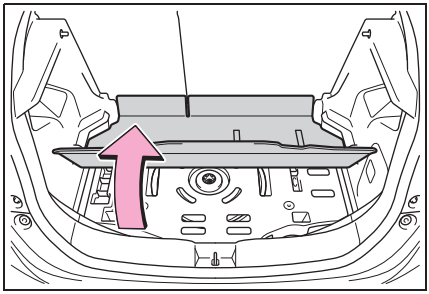
■ デッキボード装着車

デッキボードを持ち上げる

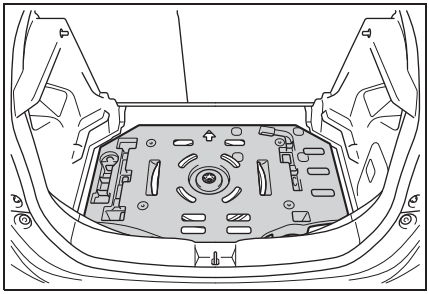


■ デッキマット装着車

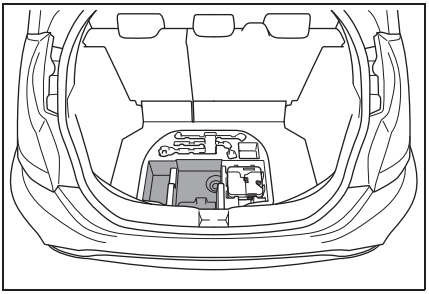
デッキマットを持ち上げる



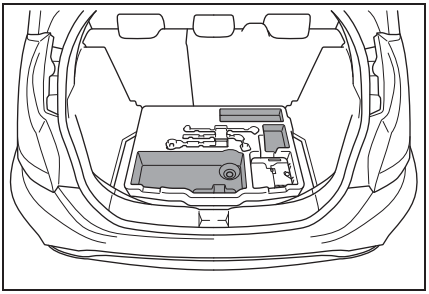
▶ タイプA



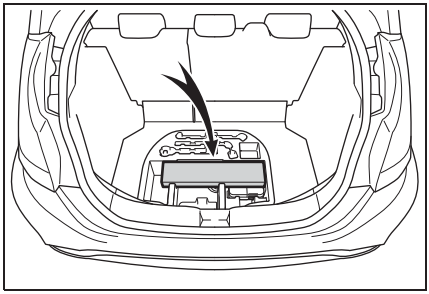
▶ タイプ B



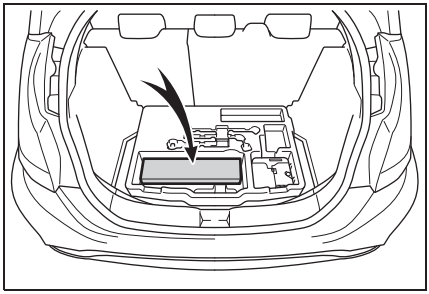
▶ タイプ C



▶ タイプ B



▶ タイプ C



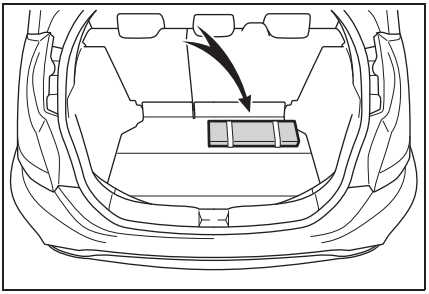
停止表示板収納スペース

ラゲージルームに停止表示板※を収納することができます。

停止表示板※のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

※ 停止表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

▶ タイプ A



ゴムバンドで固定する

その他の室内装備

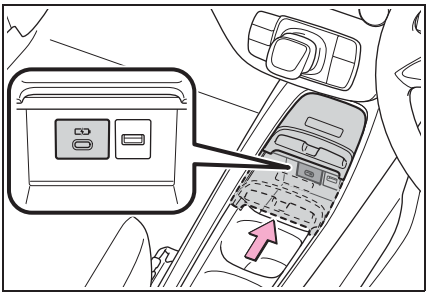
充電用 USB 端子★

DC5V/3.0A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。
この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電用USB端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

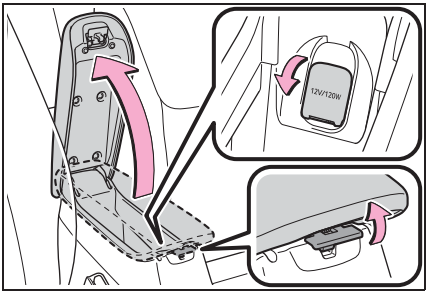
アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

■ コンソールボックス装着車

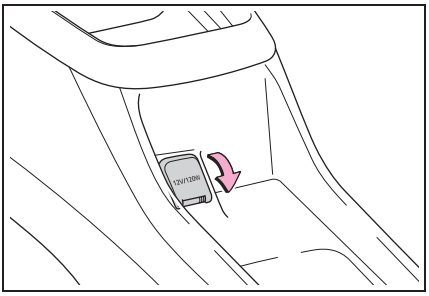
1 レバーを引いてコンソールボックスのふたを開ける

2 フタを開けて使用する



■ コンソールボックス非装着車

1 フタを開けて使用する



知識

■作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ショートや故障を防ぐために

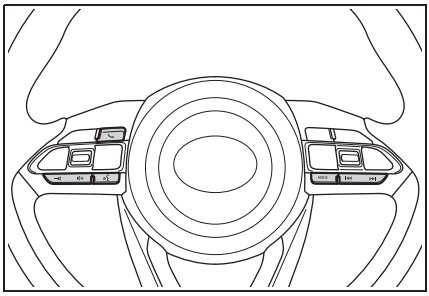
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



警告

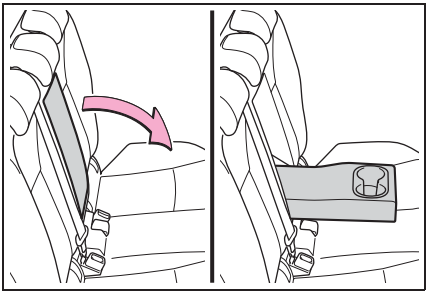
■運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

リヤアームレスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

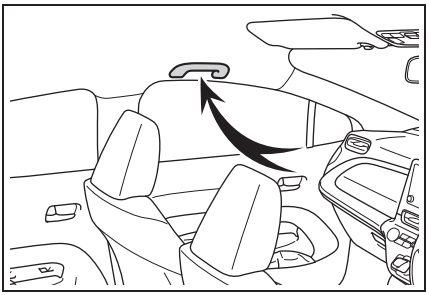
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

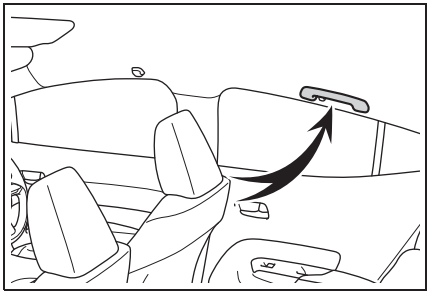
アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

▶ フロント★



▶ リヤ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

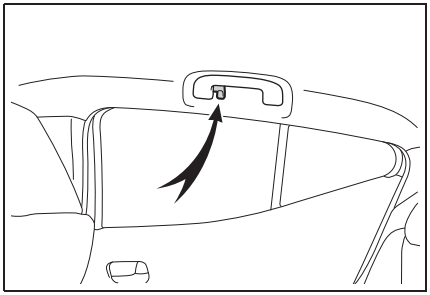
■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

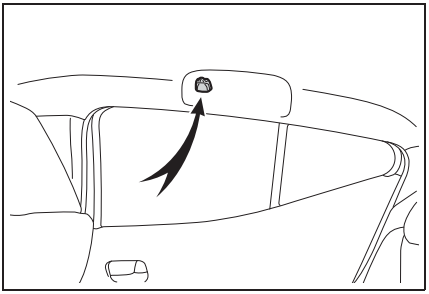
コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。（タイプA）

▶ タイプA



▶ タイプ B

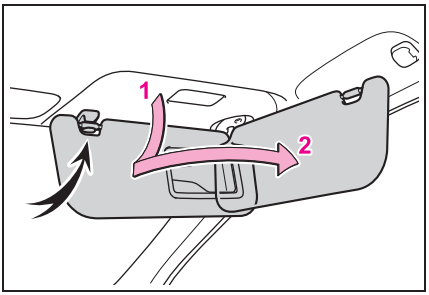


⚠ 警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

サンバイザーを使うには



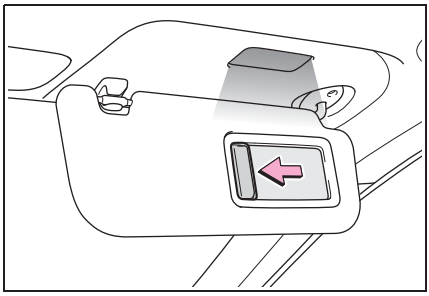
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー★を使うには

カバーをスライドして開ける

ランプ★が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.303）

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.304）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.304）

駐車中に使用するときの重要確認事項

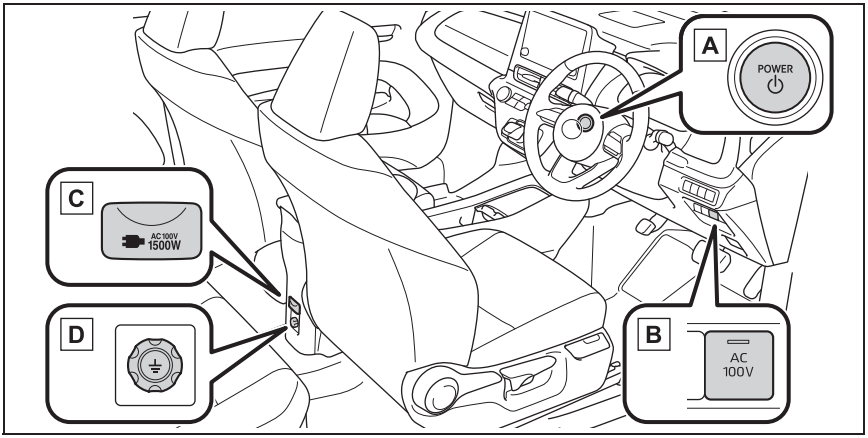
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A パワースイッチ（→P.132, P.139）

B AC100V スイッチ

C 室内コンセント（コンソールボックス後方）

D アース端子

アクセサリーコンセントを使用するには

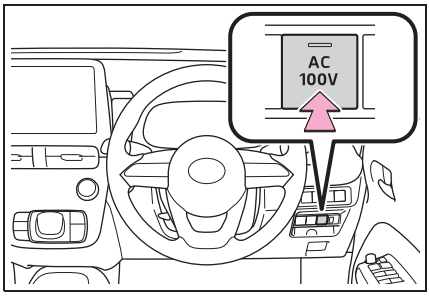
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.132, P.139）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.304）

■ コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

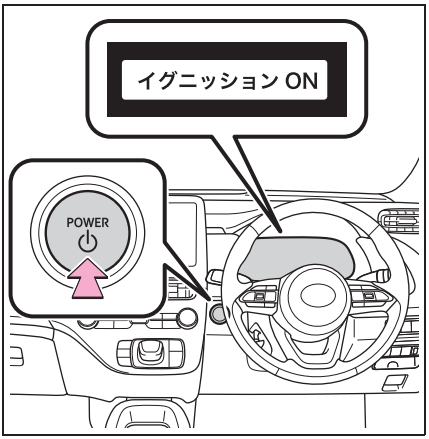
4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（→P.138, P.142）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

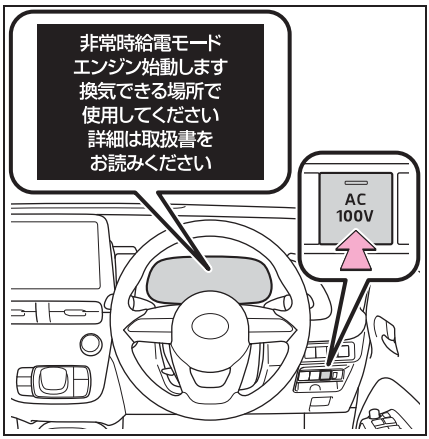


2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.304）

■ 非常時給電システムを停止するとき

以下の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載さ

れている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

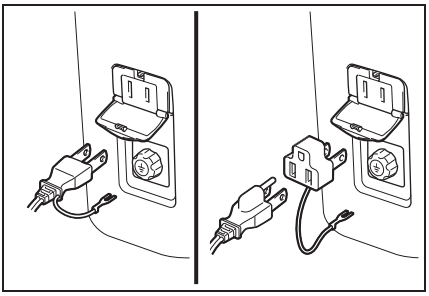
1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。
また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

知識

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。
  その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
  その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
  この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消

費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

- スマートエントリー&スタートシステム★でドアを施錠・解錠することはできません。
- 電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキー（→P.381）のみでドアの施錠・解錠ができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.153 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

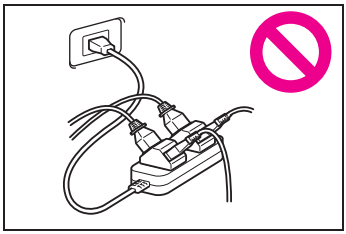
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。
コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

⚠警告

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

⚠警告

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

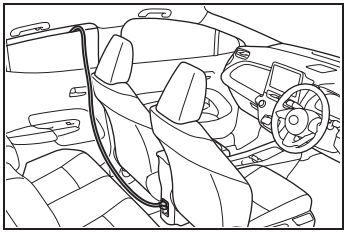
●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●給油や洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■走行中のアクセサリーコンセント使用について

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

⚠ 警告

・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■駐車中または停車中の使用について

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

●特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。（→P.132, P.139） マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”と表示されていることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 314
内装の手入れ 317

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 320
ガレージジャッキ 321
ウォッシャー液の補充 323
タイヤについて 323
タイヤ空気圧について 326
エアコンフィルターの交換 327
駆動用電池冷却用吸入口 329
電子キーの電池交換 332
ヒューズの点検・交換 334
電球（バルブ）の交換 336

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。
- シフトポジションをNに保持したままにする必要があるときは (→P.148) を参照してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステム★の作動を停止する（→P.97）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

⚠ 注意

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて★

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.56)
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.27)
  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
- シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

⚠ 注意

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
(→P.166)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

⚠ 注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

⚠ 注意

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

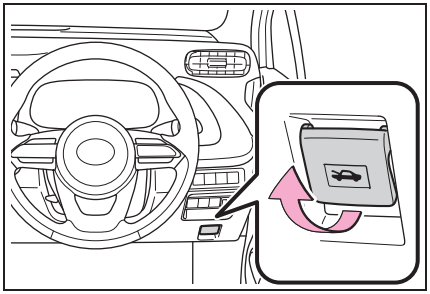
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

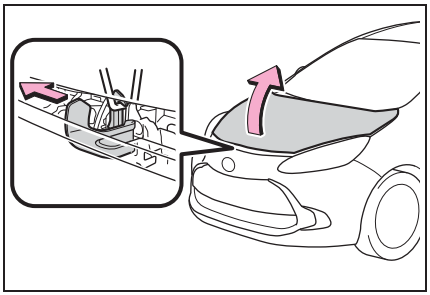
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

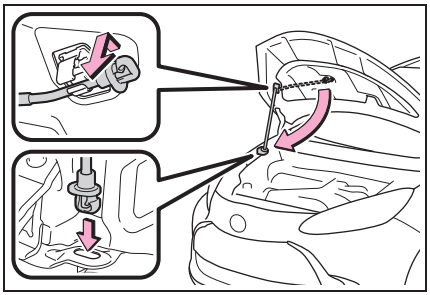
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



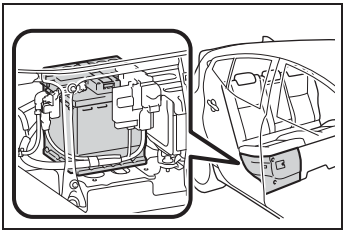
3 ボンネットステーをステー穴に差し込む



知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはリヤシート下側にあり、エンジンルームには搭載されていません。
補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
(→P.383)



⚠警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

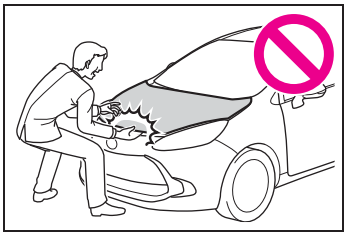
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 警告

■ボンネットを閉めるとき



手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠ 注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

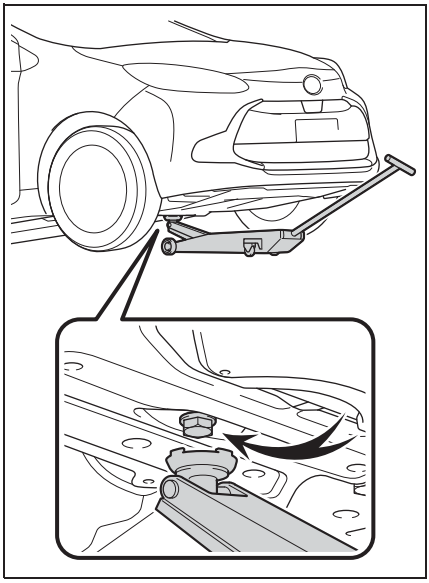
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

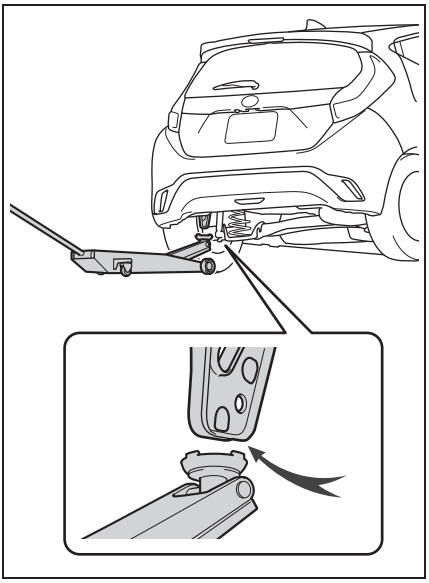
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

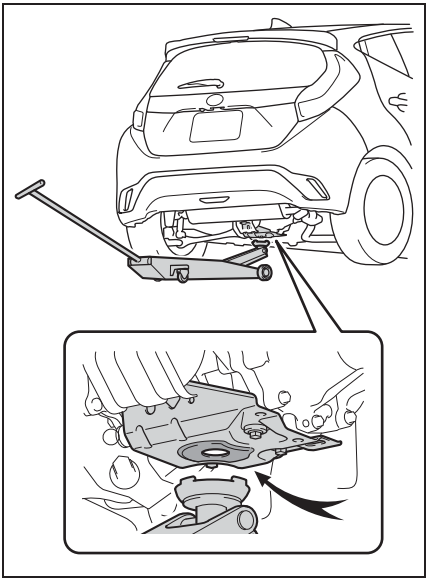


■ リヤ側

▶ FF 車



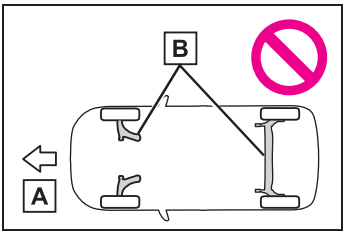
▶ 4WD 車



⚠ 注意

■ガレージジャッキを使用するとき

サスペンション部などで、ジャッキアップしないでください。車両、部品が損傷するおそれがあります。



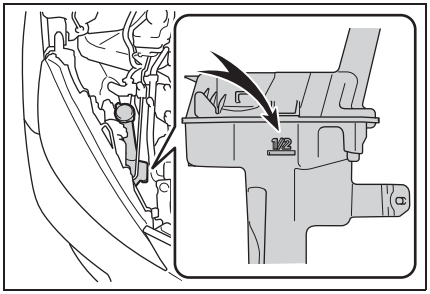
A フロント

B サスペンション部

ウォッシャー液の補充

補充をするには

液面が 1/2 の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。



⚠ 警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 175/70R14 84S

前輪：250kPa（2.5kg/cm^2）※

後輪：240kPa（2.4kg/cm^2）※

▶185/65R15 88S

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：220kPa（2.2kg/cm^2）※

▶195/55R16 87V

前輪：220kPa（2.2kg/cm^2）※

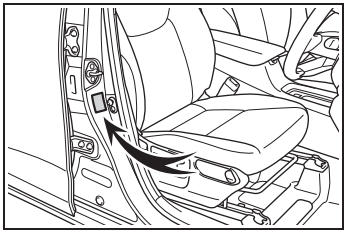
後輪：200kPa（2.0kg/cm^2）※

▶応急用タイヤ★

420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（195/55R16 87V 装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（195/55R16 87V 装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

■タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

⚠警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。P.376
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■低偏平タイヤについて（195/55R16 87V 装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

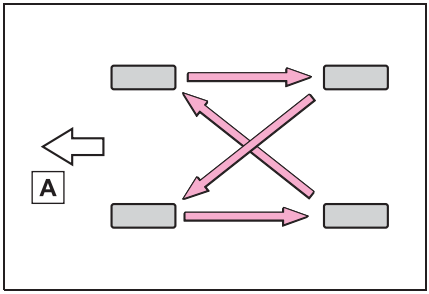
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→P.399）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

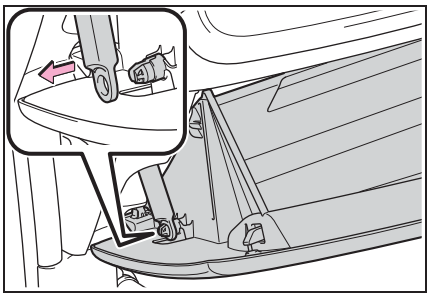
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

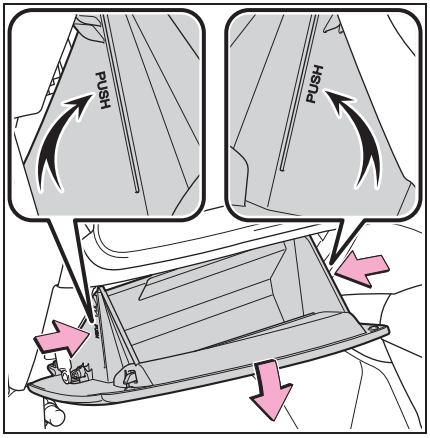
交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

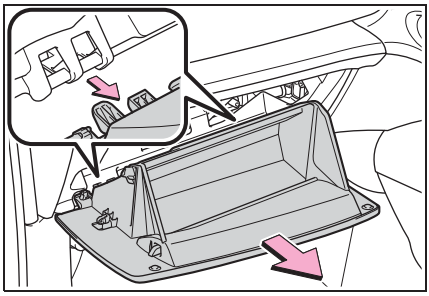
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



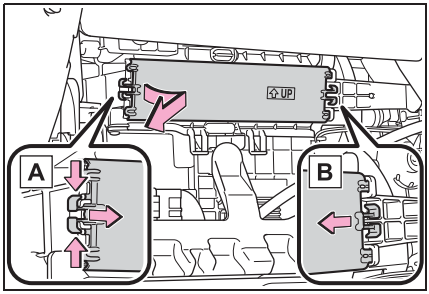
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす



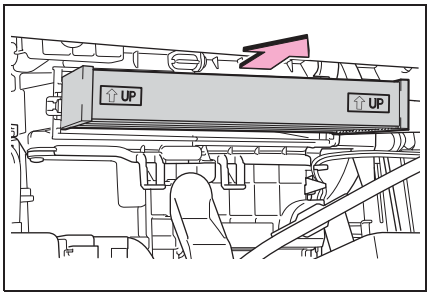
4 下部のツメをはずして取りはずす



5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



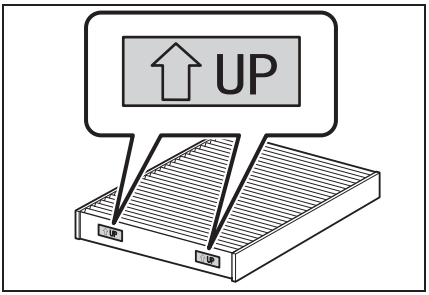
6 フィルターを取りはずす



7 新しいフィルターと交換する

“⇧UP” マークの矢印が上を向くよ

うに取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

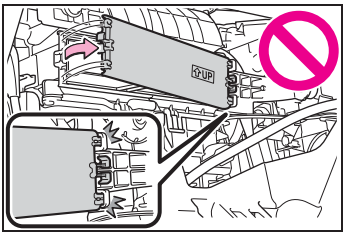
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



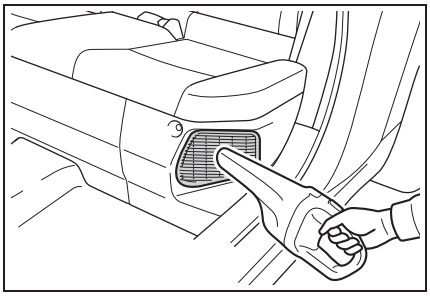
駆動用電池冷却用吸入口

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。（→P.331）



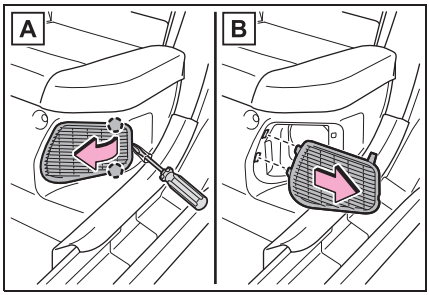
ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 吸入口カバーを取りはずす

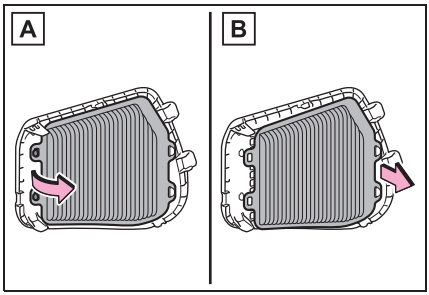
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



A 吸入口カバーを車両の前側に押して、図で示す 2ヶ所のツメを車両の左端からはずす

B 吸入口カバーを車両の横側に引いて取りはずす

3 フィルターを取りはずす



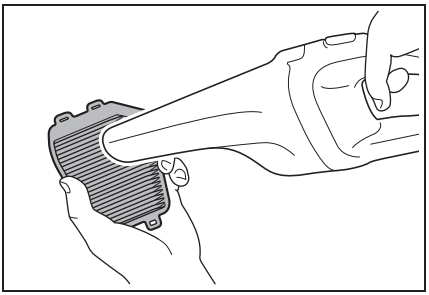
A 図で示す 2ヶ所のツメからフィルターをはずす

B 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす

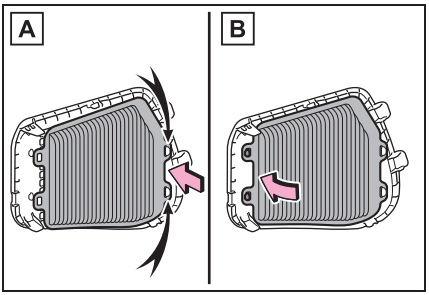
4 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清

掃してください。



5 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

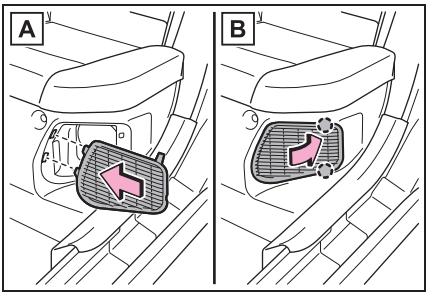


A 図で示す2ヶ所のツメにフィルターを引っかける

B 残り 2ヶ所のツメにフィルターを取り付ける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

6 吸入口カバーを取り付ける



A 吸入口カバー左端のガイドを差し込む

B 図で示す 2ヶ所のツメを取り付ける

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください

■吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。
- 誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは

- 吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。(→P.329)
- 清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。
  始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■吸入口の清掃をするときは

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

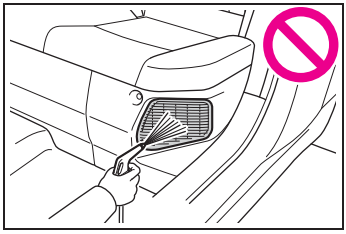
■吸入口カバーを取りはずすときは

吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→P.54）

⚠ 注意

■吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。
エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

●吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する

●取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

●清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

●この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■マルチインフォメーションディスプレイに “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。
警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム★・プッシュボタンスタートシステム★・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2450

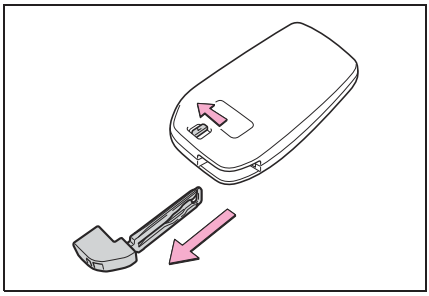
知識

■リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

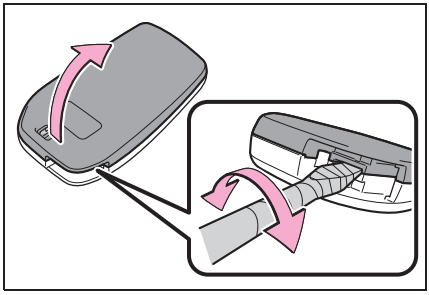
電池を交換するには

1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

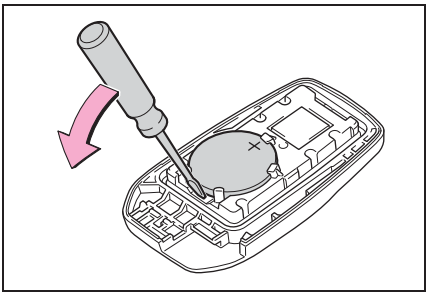


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付け

ます。



4 カバーを取り付け、メカニカルキーを挿し込む

5 ボタン（🔒または🔓）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

⚠警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

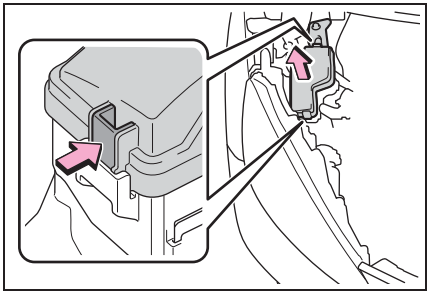
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

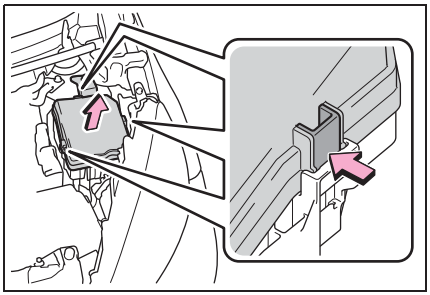
▶ エンジンルーム（運転席側）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（助手席側）

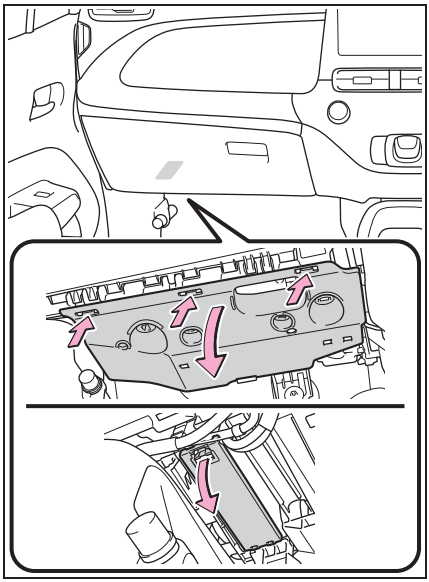
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元

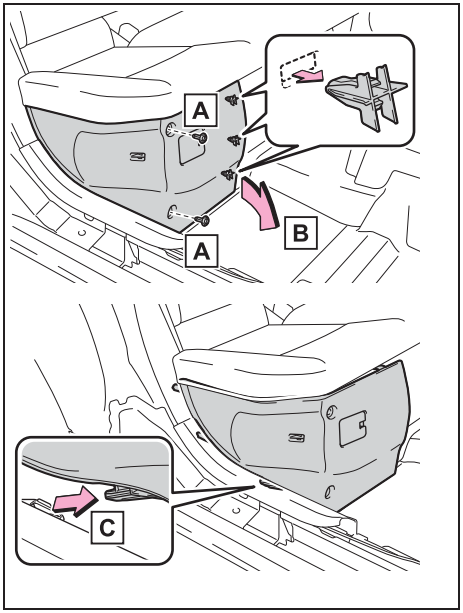
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



▶ リヤシート（運転席側）

バッテリーカバーをとりはずす



A ねじをとりはずす

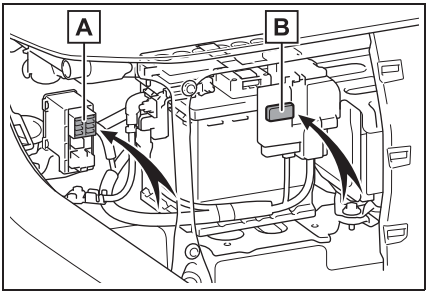
B クリップをとりはずす

C ガイドから引き抜く

ヒューズ A は、お客様ご自身で点検・交換をすることができます。

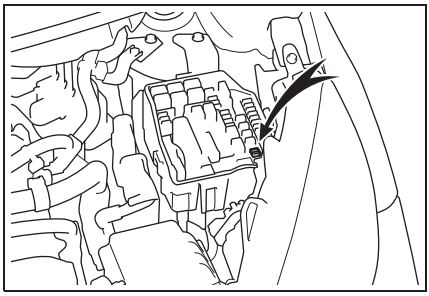
ヒューズ B を、点検・交換する際はバッテリーの取りはずしが必要になります。

誤った取り扱いをすると部品が損傷するおそれがあります。お客様ご自身での点検・交換に不安がある場合は、トヨタ販売店で点検・交換することをおすすめします。

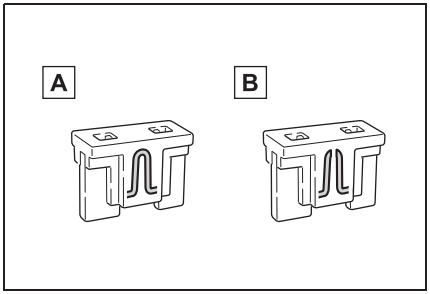


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

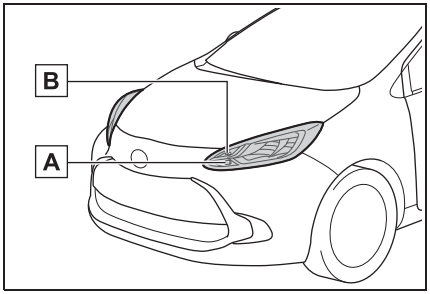
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.400）

バルブ位置

■ フロント

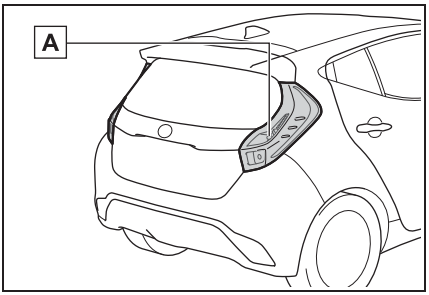


A フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

B 車幅灯（バルブタイプ）

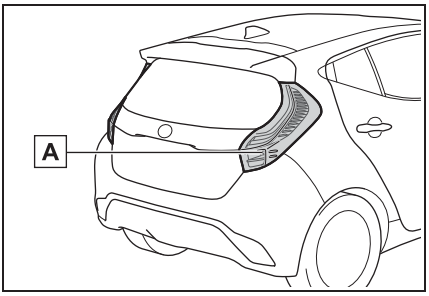
■ リヤ

▶ タイプ A



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ タイプ B



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ヘッドランプ
● 車幅灯（LED タイプ）★
● LED デイライト★
● サイド方向指示灯／非常点滅灯
● フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）★
● 尾灯
● 制動灯
● 後退灯
● ハイマウントストップランプ
● 番号灯
● フロントフォグランプ★
● リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

次のランプ以外は、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

●車幅灯（バルブタイプ）
●フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）
●リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
●ランプ内に水がたまっている

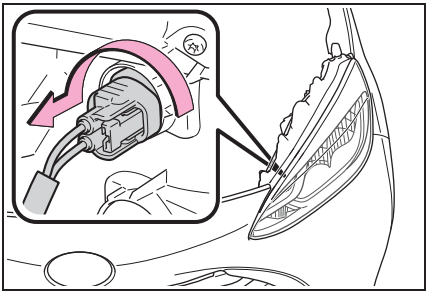
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.336

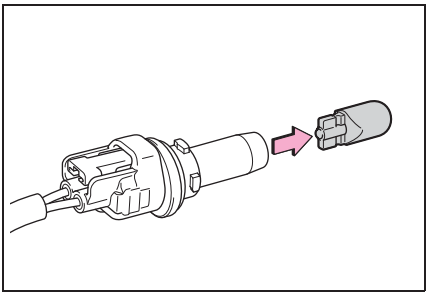
電球交換のしかた

■ 車幅灯

1 ソケットを取りはずす



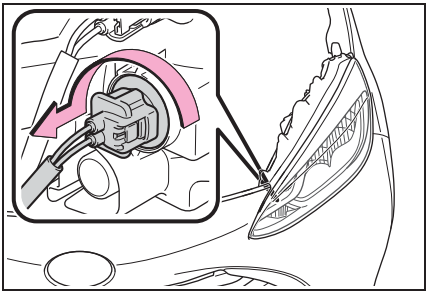
2 電球を取りはずす



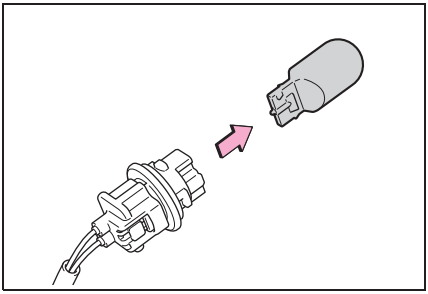
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 ソケットを取りはずす。



2 電球を取りはずす

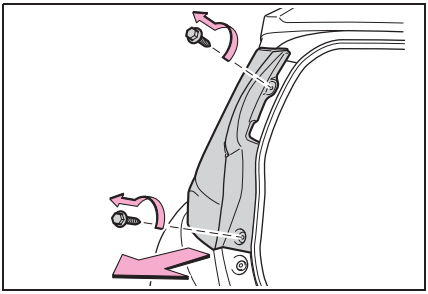


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

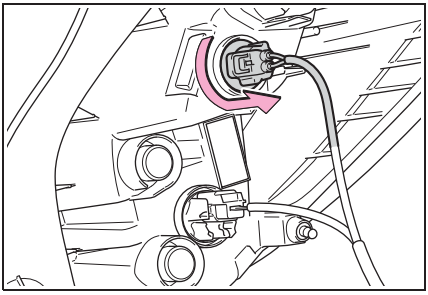
1 バックドアを開ける

2 ボルト（2 本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす

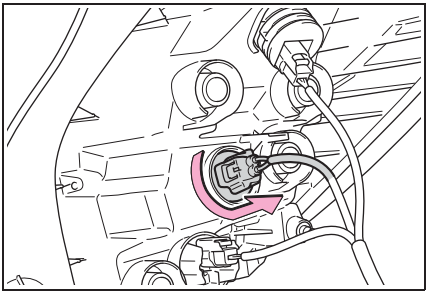


3 ソケットを取りはずす

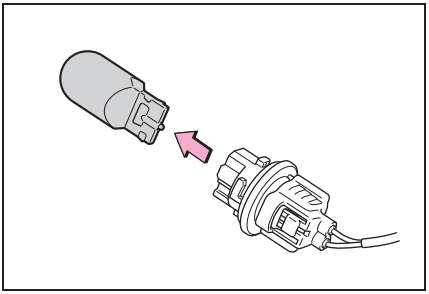
▶ タイプ A



▶ タイプB



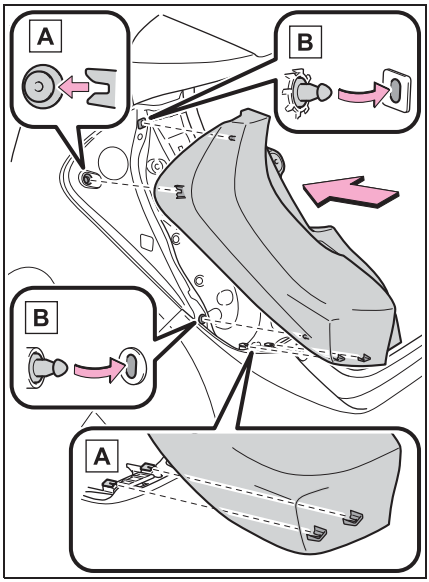
4 電球を取りはずす



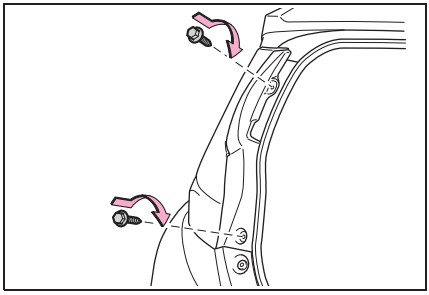
5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

6 ランプ本体を取り付ける

外側と下部のツメ[A]とクリップを合わせてからピン[B]を合わせて取り付けてください。



7 ボルト（2本）を取り付ける



警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

⚠警告

●電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 342
非常点滅灯（ハザードランプ） 343
発炎筒 343
車両を緊急停止するには 344
水没・冠水したときは 345

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 347
警告灯がついたときは 352
警告メッセージが表示されたときは 358
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 362
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 372
ハイブリッドシステムが始動できないときは 379
キーをなくしたときは 380
電子キーが正常に働かないときは 381
補機バッテリーがあがったときは 383
オーバーヒートしたときは 388
スタックしたときは 391
助手席ターンチルトシートが車外に出た状態で回転できないときは 392

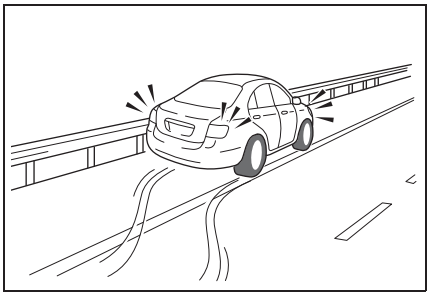
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.343）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

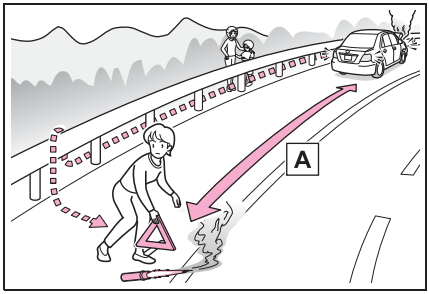
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.343）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでくださ

い。



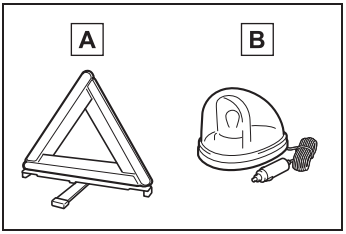
3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

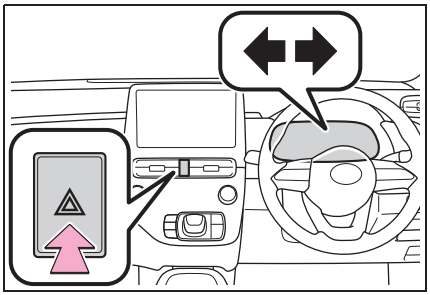
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●ハイブリッドシステム停止中（READYインジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

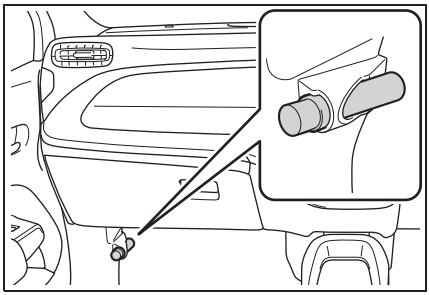
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

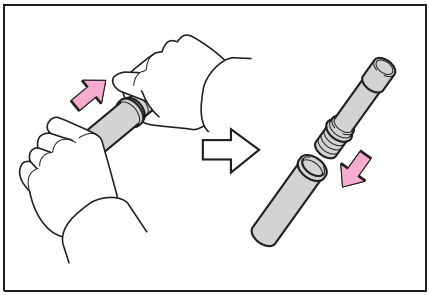
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



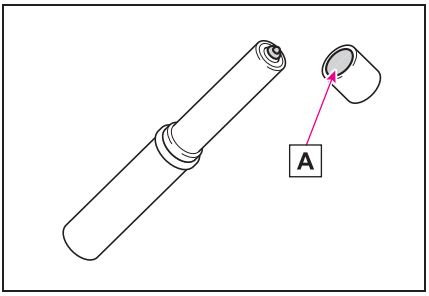
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションをNにする

▶ シフトポジションがNになった場合

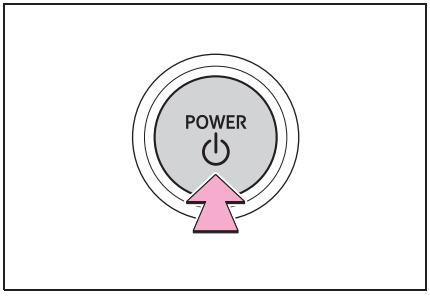
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションがNにならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または、冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを越えると

水位がフロアを越えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。

他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.137, 141, 358）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.58）
- スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★に異常があるとき（→P.381）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.383）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

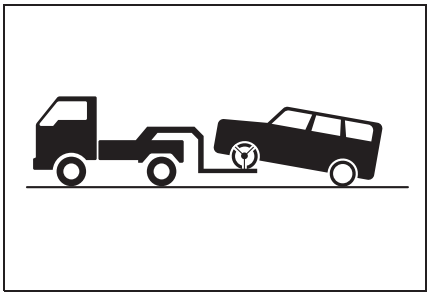
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

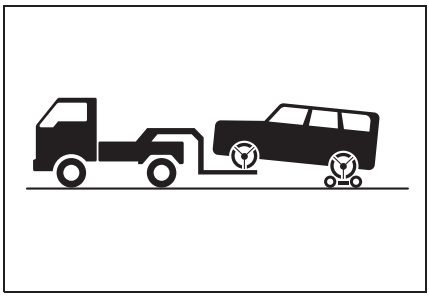
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



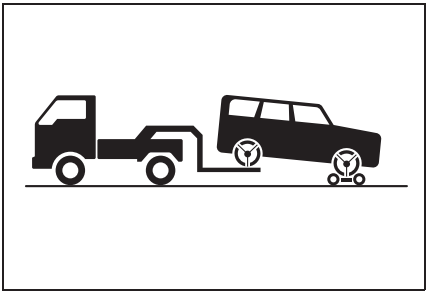
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

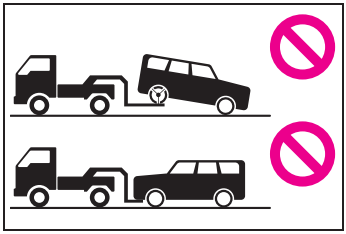
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

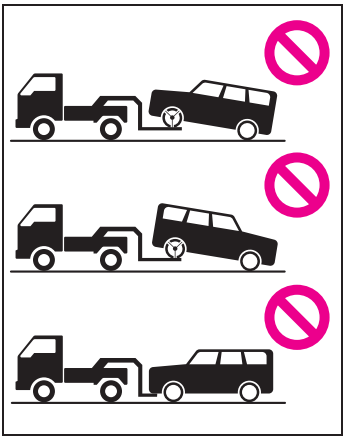
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ 4WD 車

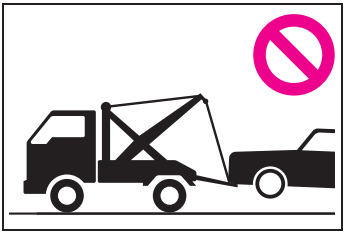
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

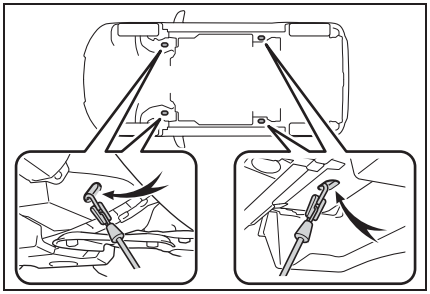
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

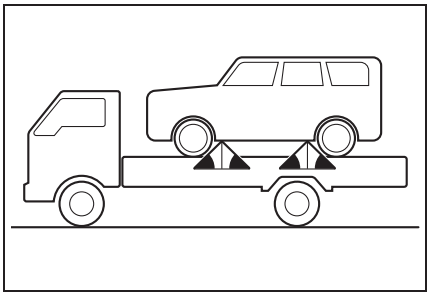


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

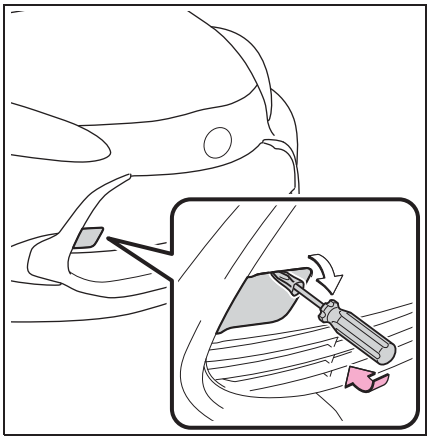
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

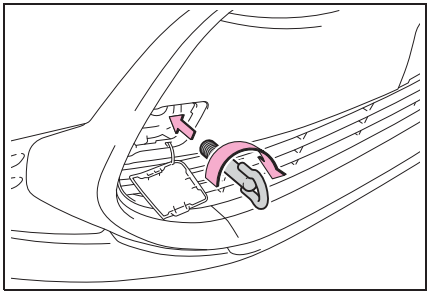
1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★※、けん引フックを取り出す（→P.363,373）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

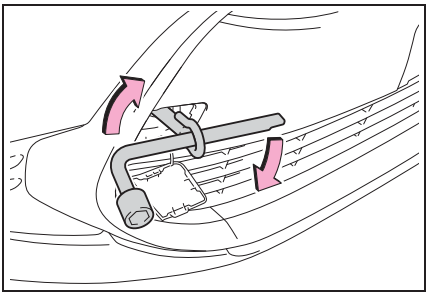


4 ホイールナットレンチ★※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

★グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店で購入することができま

す。

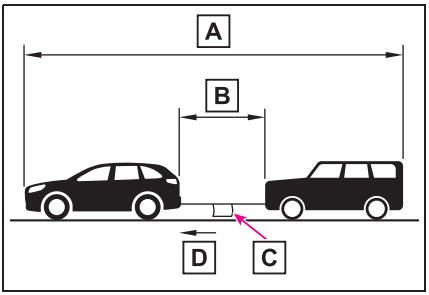


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチ★※ について

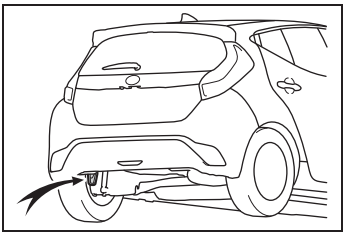
★グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店で購入することができます。

ラゲージルームに搭載されています。
（→P.363, 373）

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.388）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの高温異常 → **安全な場所に停車し、対処方法（→P.388）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ●アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 ●衝突時の急加速抑制が作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 5.4L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.189）**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.213）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.205）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.221）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.229, 358）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.169, 358）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.181**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ パーキングブレーキ走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

- リヤドアを開閉すると約 60 秒間点灯します。
- いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 60 秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

⚠ 警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.352）に従ってください。

メッセージと警告作動

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。
状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは

シフトポジションが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■ “ エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください ” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります ” が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “ ハイブリッドシステム 高温出力制限中です ” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.388

■ “ 駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください ” が表示されたときは

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■ “ 駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください ” が表示されたときは

一定時間シフトポジションが N になって

いるため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■“N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキを踏んでからシフトポジションをDまたはRにしてください。

■“停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■“バッテリー保護のため自動で電源をOff しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約5分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■“ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●AHB（オートマチックハイビーム）

■4WD システムに関するメッセージが表示されたとき (4WD 車)

それぞれ、次のように対処してください。

● “4WD 高負荷 走行を控えてください 2 WD 走行に切り替わります ”

4WD システムが過熱しています。HV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム高温 2 WD 走行に 切り替わりました ”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切り替わりました。HV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検してください ”

4WD システムに異常発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまで HV システムを停止しないでください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.169, 352）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車

速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.169, 352）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■“アクセルを戻してください”が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

●ドライブスタートコントロール（→P.354）

●プラスサポート(販売店装着オプション)（→P.264）

■“クルーズコントロール現在使用できません”が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■“シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車”または“シフトシステム故障走行を継続できません”が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったりシフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●“エンジン冷却水高温”が表示されたときは、対処方法（→P.388）に従ってください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・“シフトシステム故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
・“P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム不作動 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
・“バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・“故障のためブレーキ力が低下します”
・“充電システム故障”
・“エンジン油圧不足”

●次のメッセージが表示されたときは、ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。（→P.54）
・“ハイブリッドシステム停止”
・“エンジン停止”

●“補機バッテリー（始動用）充電不足”が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
・数秒後※に表示が消えたときは：
ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.383）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

●“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は P.329 の要領で清掃してください。
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠注意

■“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください”がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.362）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

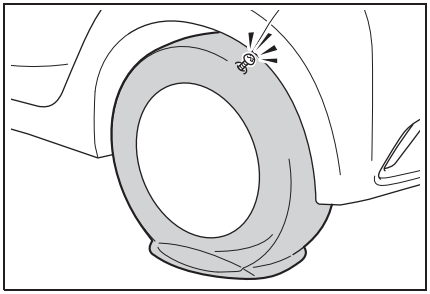
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.343）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

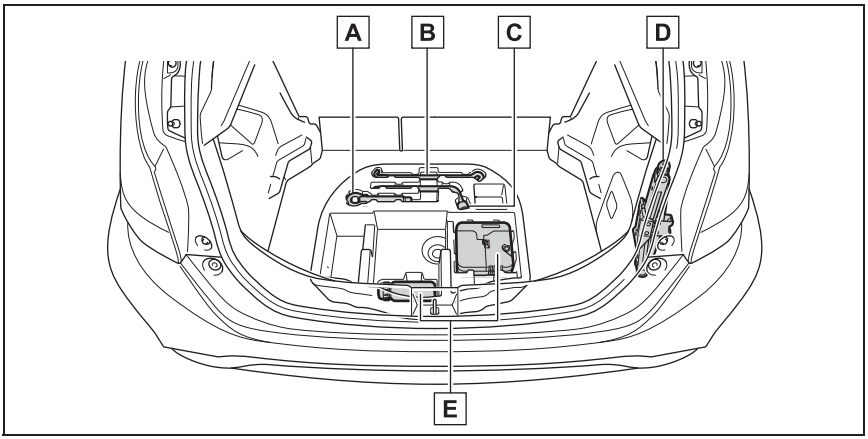
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ FF 車



A けん引フック

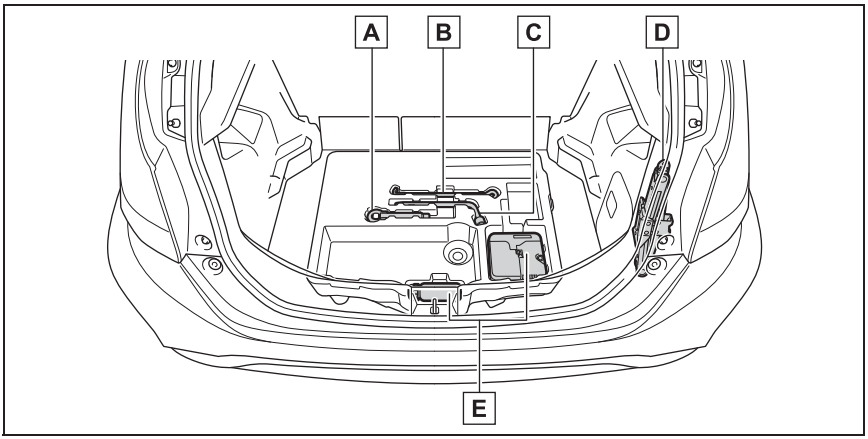
B ジャッキハンドル ※1

C ホイールナットレンチ ※1

D ジャッキ ※1, 2

E タイヤパンク応急修理キット

▶ 4WD 車



A けん引フック

B ジャッキハンドル ※1

C ホイールナットレンチ ※1

D ジャッキ ※1, 2

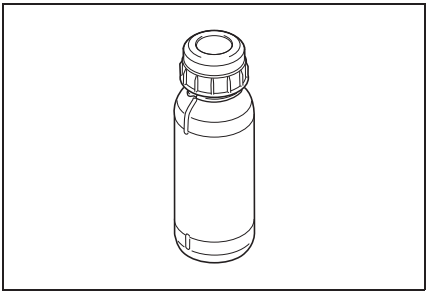
E タイヤパンク応急修理キット

※1 トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

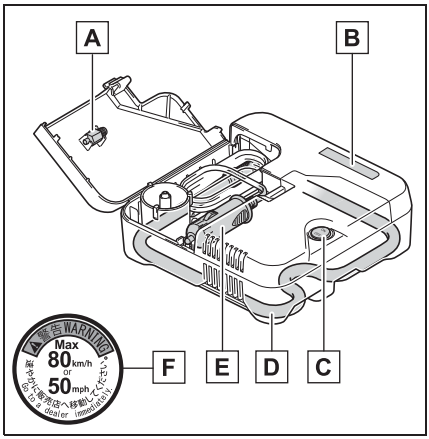
※2 ジャッキの使い方（→P.375）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



▶ コンプレッサー



A 空気逃がしキャップ

B 空気圧計
C 電源スイッチ
D ホース
E 電源プラグ
F 速度制限ラベル

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

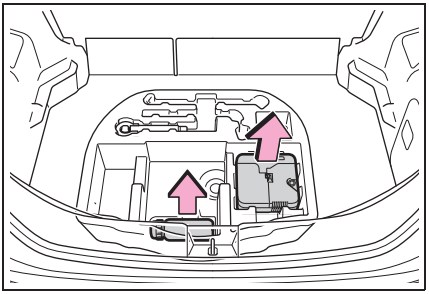
●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

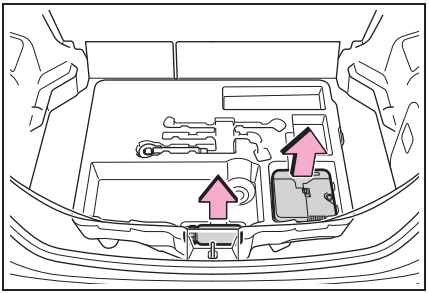
タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 デッキマットまたはデッキボードを持ち上げる（→P.295）

▶ FF 車



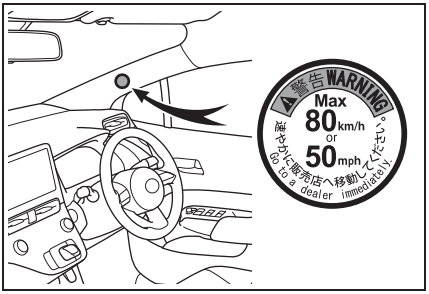
▶ 4WD 車



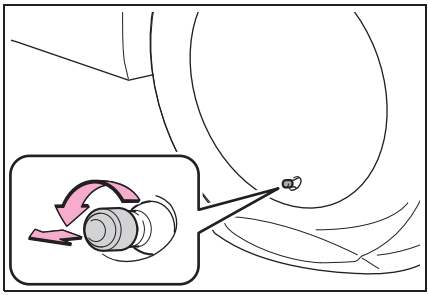
2 応急修理キットを取り出す（→P.363）

応急修理するときは

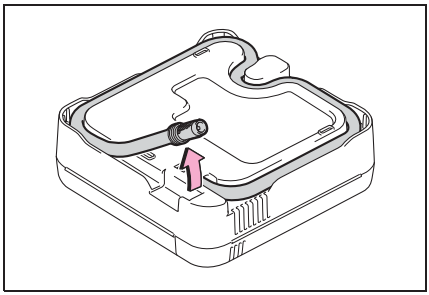
1 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける



2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

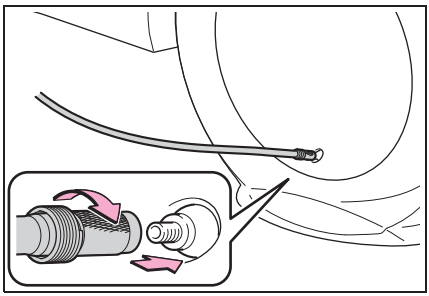


3 コンプレッサーからホースを取りはずす

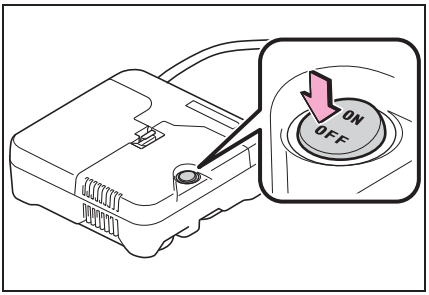


4 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

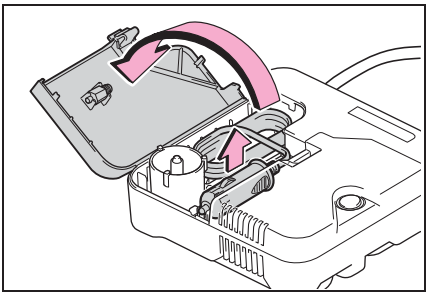
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



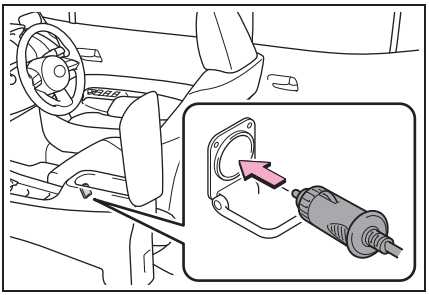
5 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



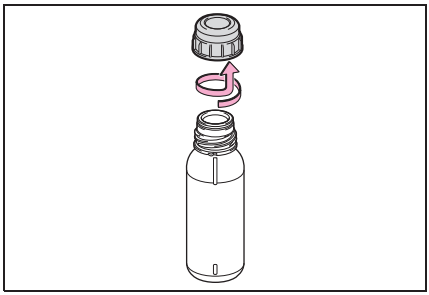
6 カバーを開けて、コンプレッサーから電源プラグを取りはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.298）

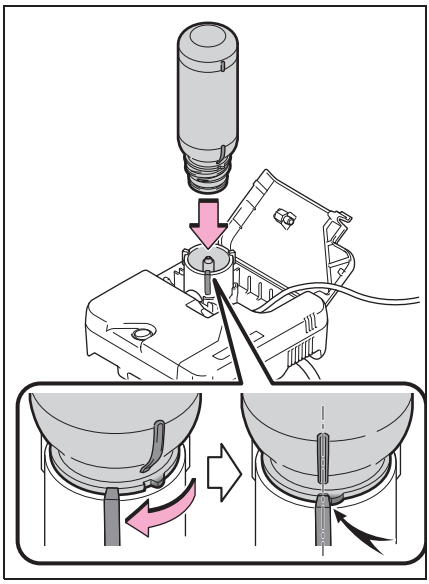


8 ボトルからキャップを取りはずす



9 ボトルをコンプレッサーに接続する

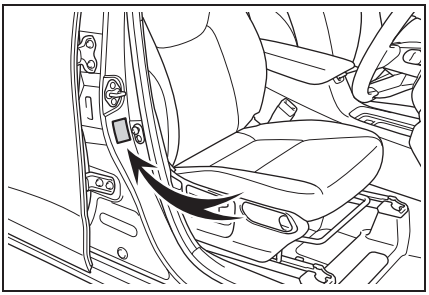
時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



10タイヤの指定空気圧を確認する

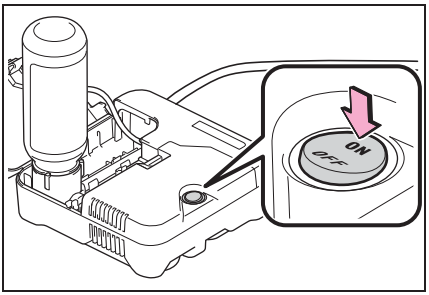
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。(→P.323)

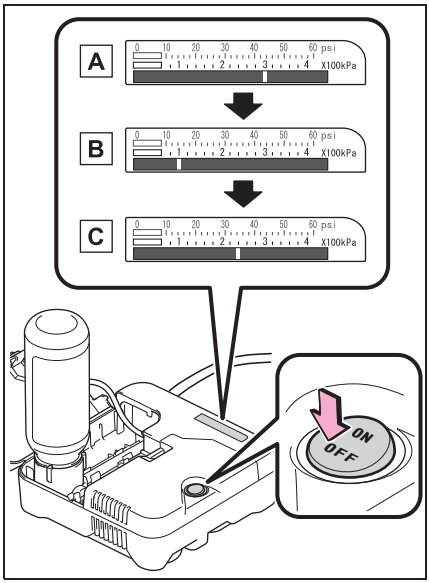


11ハイブリッドシステムを始動する（→P.132）

12コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



13空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチをONにしてから約1～5分程度で実際の空気圧になります。

C 指定空気圧になるまで充填する

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチをOFFにしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約5～20分です（外気温により異なります）。25分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧に

なるまで空気を抜いてください。
(→P.370, 399)

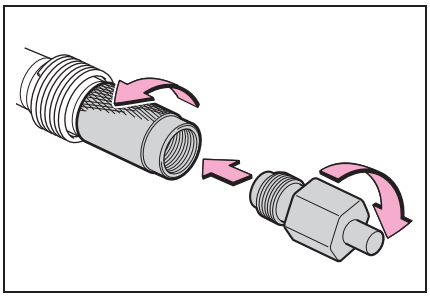
14コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

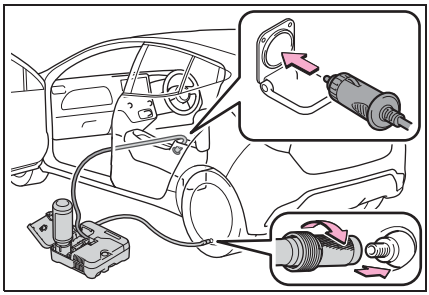


17いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

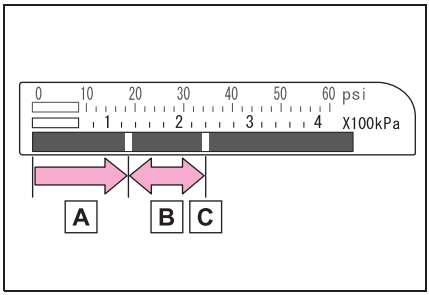
18タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5 km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

19走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



20コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

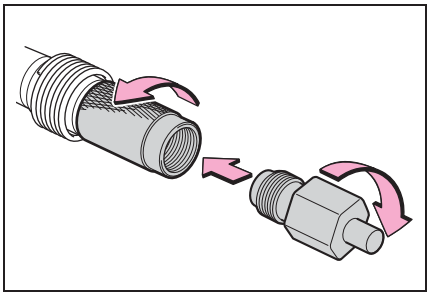
B 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **21** へ

C 空気圧が指定空気圧 (→P.399) の場合：手順 **22** へ

21コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5 km 走行後にあらためて手順 **19** から実施する

22ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

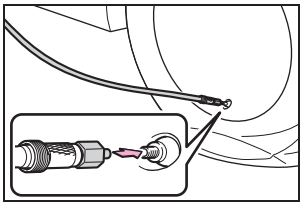
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにし、OFFにしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチをONにし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■ジャッキ★※の取り出し方

1 デッキボードとデッキマットを持ち上げる（→P.295）

2 カバーを取りはずす（→P.374）

3 ゴムバンドをフックからはずし、ジャッキを取りはずす（→P.374）

※ トヨタ販売店で購入することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

⚠ 警告

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.323 を参照してください）

⚠ 警告

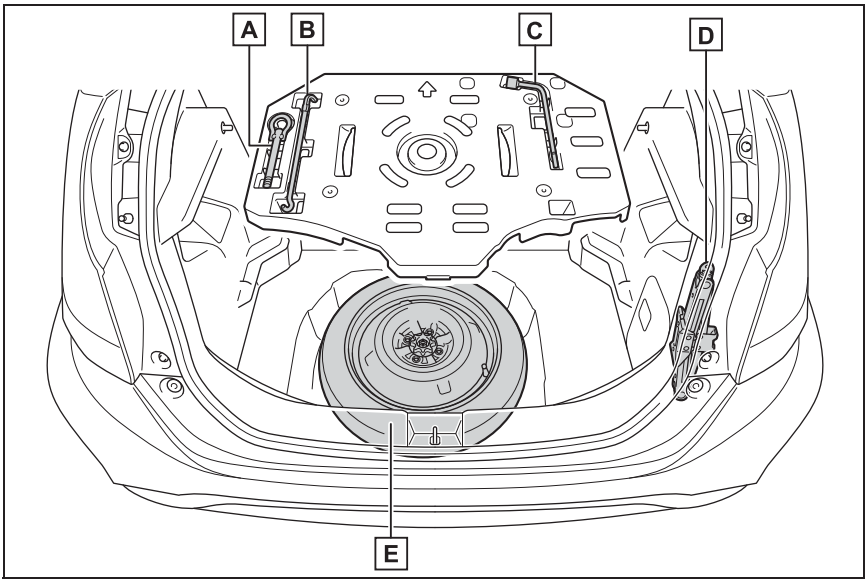
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

● 地面が固く平らで安全な場所に移動する
● パーキングブレーキをかける
● シフトポジションをPにする
● ハイブリッドシステムを停止する
● 非常点滅灯を点滅させる（→P.343）

工具とジャッキの位置



A けん引フック

B ジャッキハンドル

C ホイールナットレンチ

D ジャッキ

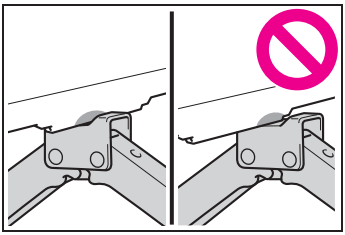
E 応急用タイヤ

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキはお客様の車専用のため他の車に使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→P.375）



- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない

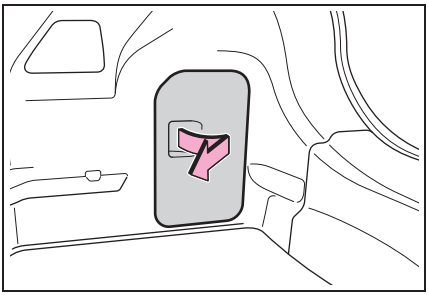
⚠ 警告

- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

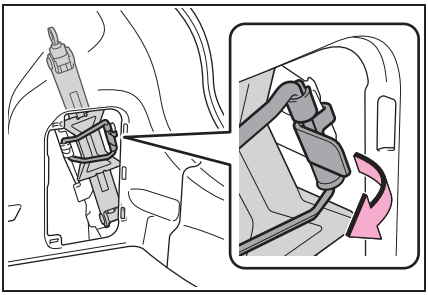
ジャッキの取り出し方

1 デッキマットを持ち上げる（→P.295）

2 カバーをはずす



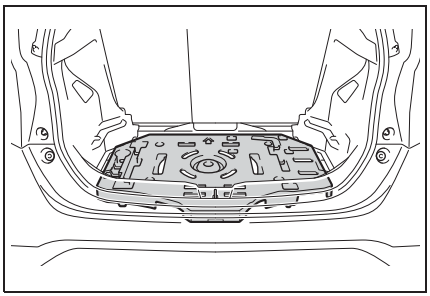
3 ゴムバンドをフックからはずし、ジャッキを取りはずす



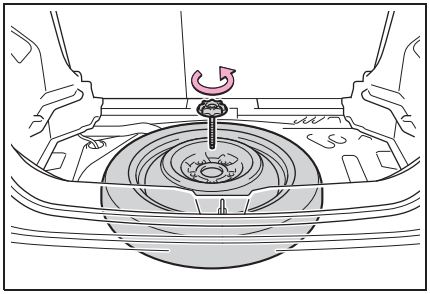
応急用タイヤの取り出し方

1 デッキマットを持ち上げる（→P.295）

2 スペアタイヤカバーを持ち上げる



3 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す



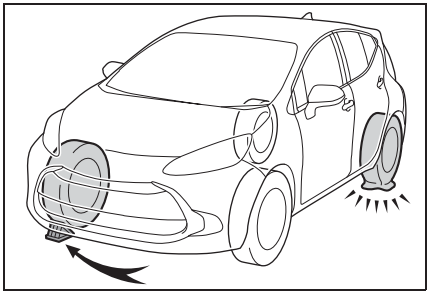
⚠ 警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

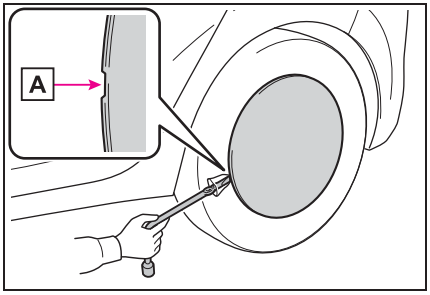


パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

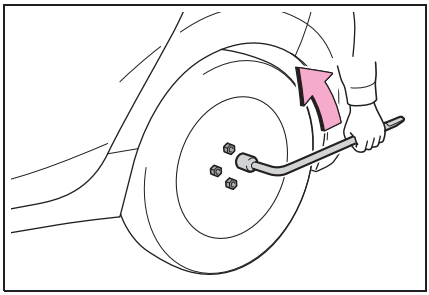
※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

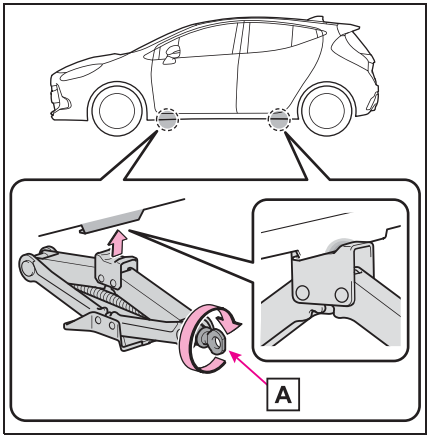
ホイールナットレンチを、ホイールキャップ外周上にある切り欠き部Aに挿入してください。
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。



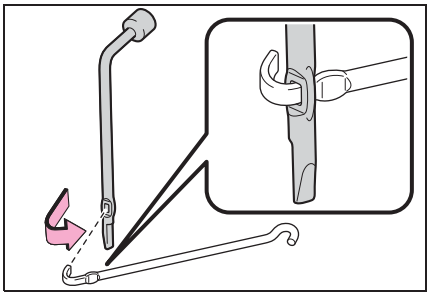
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



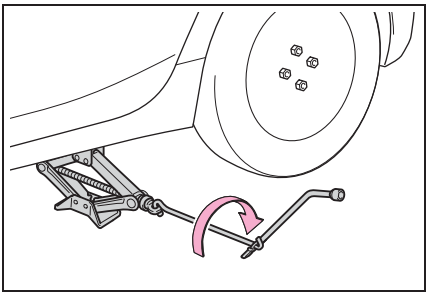
4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキのA部を手でまわす



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

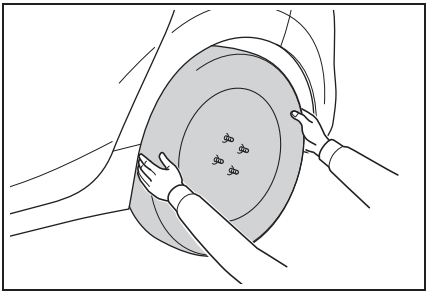


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・ホイールの交換後は、すぐに103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

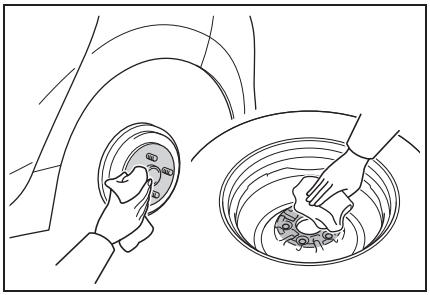
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

応急用タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

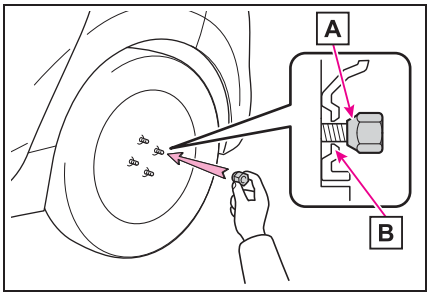
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。

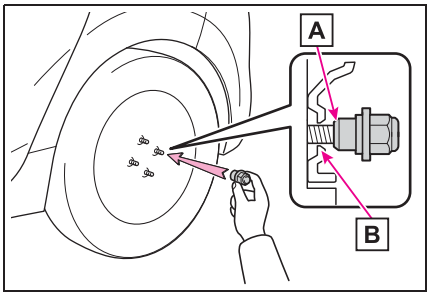


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

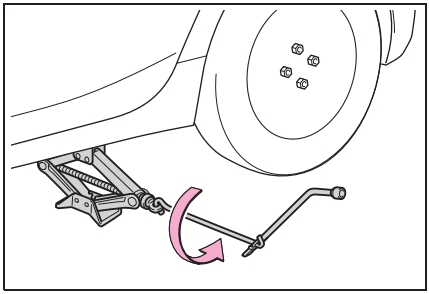
スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき：ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす



アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす

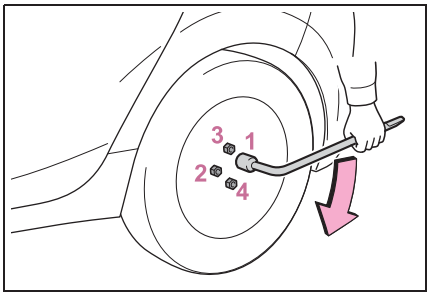


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P.399）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

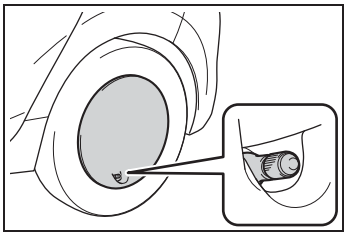
1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ホイールキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。



⚠警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ ABS
・ ブレーキアシスト
・ VSC
・ オートマチックハイビーム
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・ TRC
・ EPS
・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
・ LTA（レーントレーシングアシスト）
・ BSM★
・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.132, 139）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.381）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.58）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.358）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.379）
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低い（およそ－30 ℃以下）可能性があります。（→P.54, 133, 140）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.383）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.383）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.151）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 パワースイッチを ACC にする

3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.97）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、ワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★の設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.401）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.97, 134）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

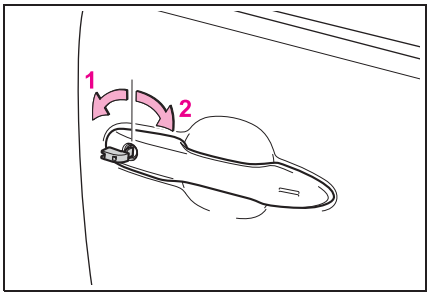
■スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアの施錠・解錠

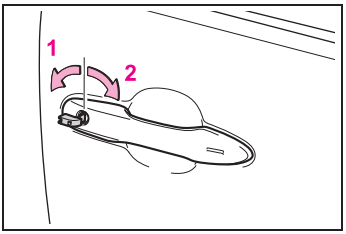
メカニカルキー（→P.88）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
2 ドアガラスが閉まる（まわし続け

る）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

⚠ 警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

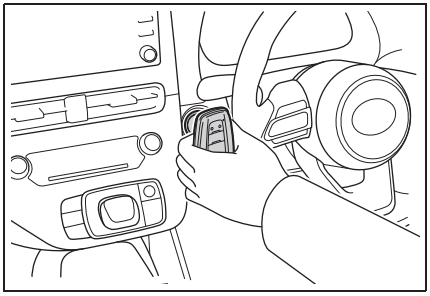
ハイブリッドシステム始動の方法

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのスイッチ面の背面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステム★またはプッシュボタンスタートシステム★の設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ハイブリッドシステム停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.332）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.59）

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.138）

補機バッテリーがあがったときは

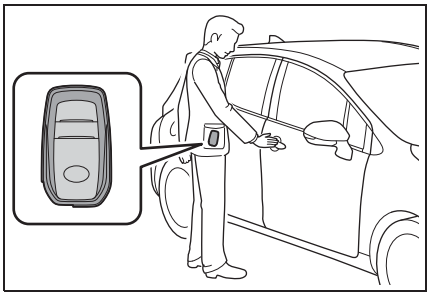
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

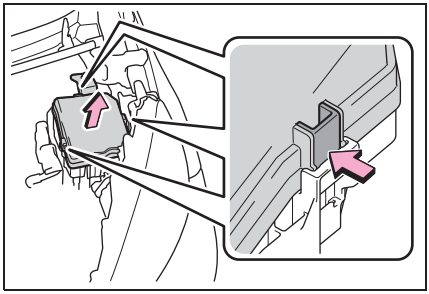
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

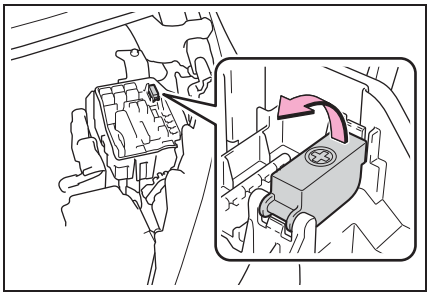
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.60)



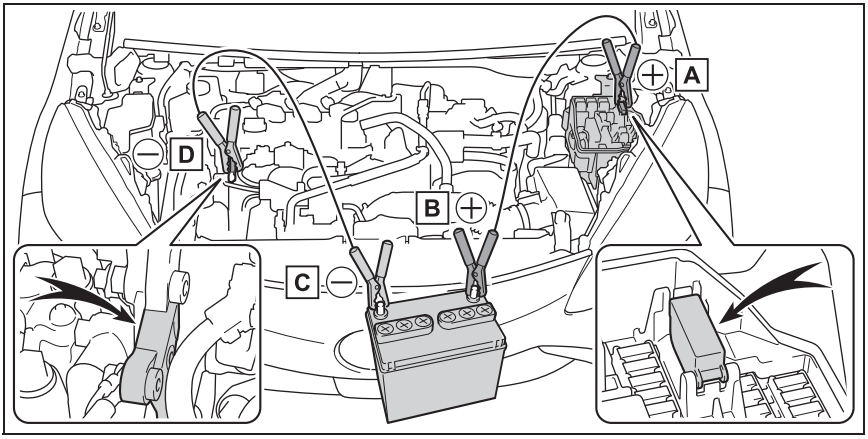
2 ボンネットを開けて(→P.320)、ヒューズボックスのカバーをはずす



3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの＋端子Aにつなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子Bにつなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子Cにつなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部Dにつなぐ



A 補機バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 スマートエントリー＆スタートシステム装着車：パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.411）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.320

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

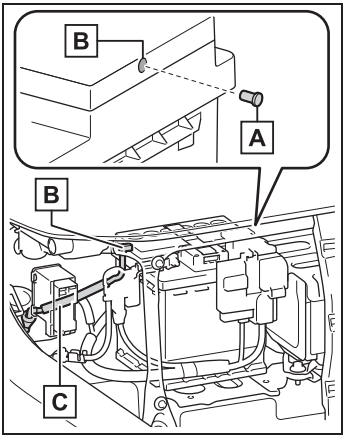
●交換前と同一のケースサイズ（LNO）、20 時間率容量（20HR）が同等（35Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（240A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・ 大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・ 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。



A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

⚠警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

⚠ 警告

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまを補機バッテリーに近付けない

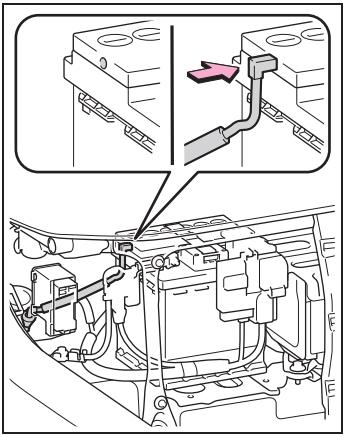
■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

●補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

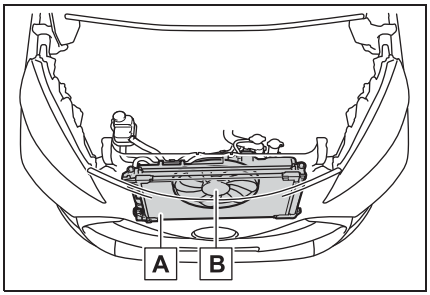
対処方法

▶ マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

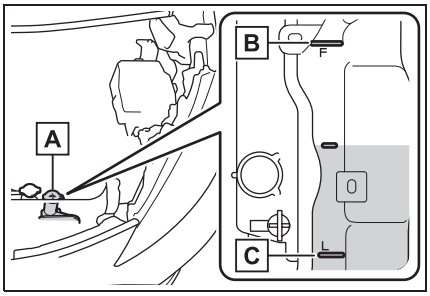


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

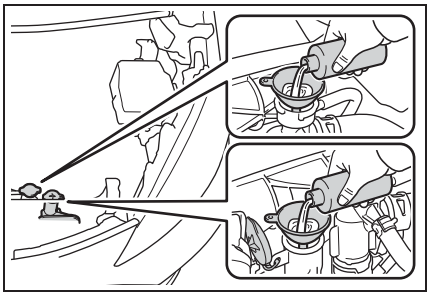
B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

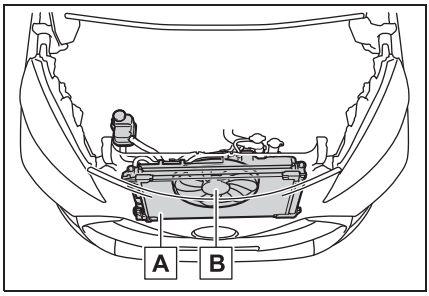
7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

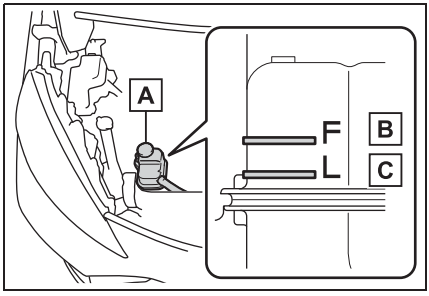


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “F”（上限）と “L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

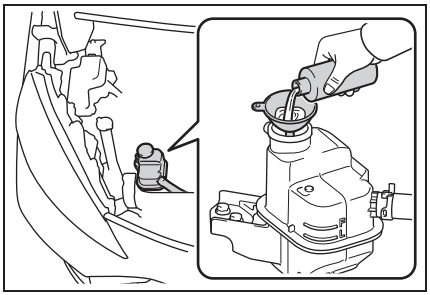
B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する
表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

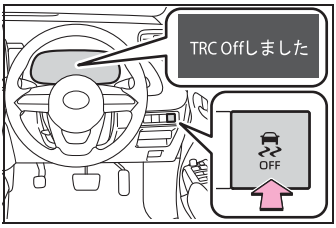
1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3 前輪の下に木や石などをあてがう
4 ハイブリッドシステムを再始動する
5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

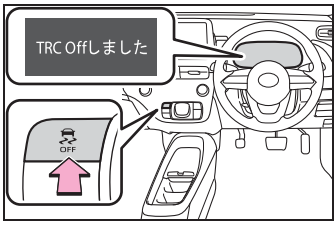
■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

▶ Advanced Park（駐車支援システム）装着車



▶ Advanced Park（駐車支援システム）非装着車



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

助手席ターンチルトシート★が車外に出た状態で回転できないときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一、助手席ターンチルトシートが回転できなくなったときは、助手席ドアを閉めることができません。

その場合は、トヨタ販売店または専門業者に、「助手席ターンチルトシートを回転できるようにするには」（→P.392）の操作をご依頼ください。

使用工具について

助手席ターンチルトシートを車内にもどすときは、ホイールナットレンチ※（→P.372）や金属の固い棒などを使用してください。

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

助手席ターンチルトシートを回転させる前に

次のことを確認してください。

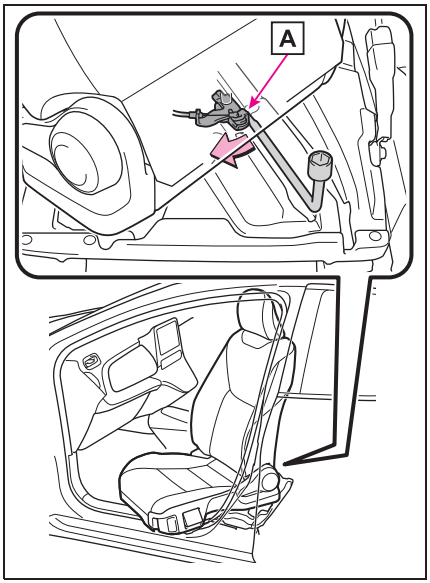
- ドアが全開になっている
- ターンチルトシート・リヤシートに乗員がいない
- グローブボックスのフタが閉まっている
- サンバイザーが格納されている
- 助手席ターンチルトシートの下および周辺に荷物などが置かれていない

助手席ターンチルトシートを回転できるようにするには

1 シートを支えながらホイールナットレンチ※ や金属の固い棒などを使用して助手席ターンチルトシート下の回転用ロック A を解除する

シートが回転し始めたらホイールナットレンチ※ や金属の固い棒などを引き抜きます。

※ トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。



2 シートを支えながら中間ロック位置までシートを回転させる

3 再度、シートを支えながらホイールナットレンチ※ や金属の固い棒などを使用して助手席

ターンチルトシート下の回転用ロックを解除する

シートが回転し始めたらホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを引き抜きます。

※トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

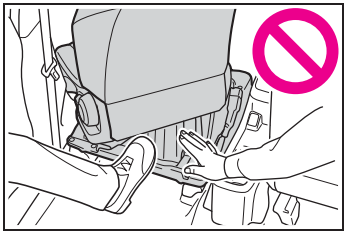
4 シートを支えながらシートを回転させる

⚠警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 修理が完了するまでは助手席ターンチルトシートに座らないでください。
- 助手席ターンチルトシート格納スペースに手や足を入れないでください。シート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 396
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧..... 401
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目..... 411

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	36

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

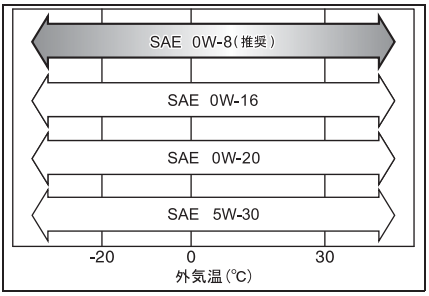
エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル GLV-1 0W-8 — JASO GLV-1、SAE 0W-8 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.3	3.6

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として0W-8で説明します）：

- 0W-8の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-8の8は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

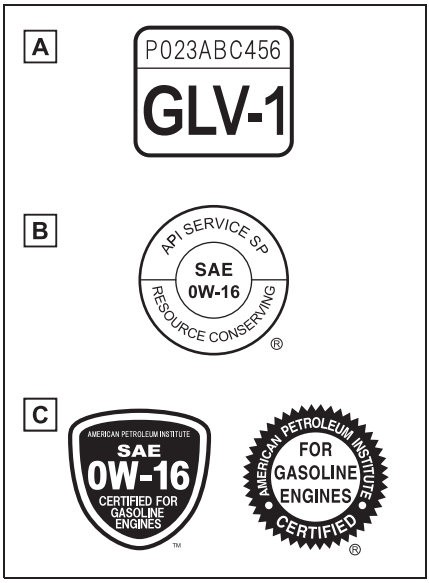
■ 指定エンジンオイル

JASO GLV-1規格に合致したオイルをご使用ください。JASO GLV-1 0W-8は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性を発揮できます。JASO GLV-1、SAE 0W-8が入手困難な場合は、以下のオイルもご使用いただけます。

0W-16：API規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC規格 GF-6B

0W-20、5W-30：API規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC規格 GF-6A

なお、JASO規格合格油の缶にはJASO GLV-1マークがついています。



A JASO GLV-1マーク

B APIマーク

C ILSAC CERTIFICATIONマーク

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12° C 濃度 50%　－ 35° C	ガソリンエンジン	4.8
	パワーコントロールユニット	1.6

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	2.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター [4WD 車のみ]）

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	1.2

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	101

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	7 ～ 10

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
1.8※1
2.3※2

※1寒冷地仕様車を除く

※2寒冷地仕様車

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	175/70R14 84S	14 × 5 1/2J	250（2.5）	240（2.4）
	185/65R15 88S	15 × 6J	230（2.3）	220（2.2）
	195/55R16 87V	16 × 6J	220（2.2）	200（2.0）
応急用タイヤ★	T125/70D16 96M	16 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	車幅灯（バルブタイプ）	5
	フロント方向指示兼非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
車内	バニティミラーランプ	8
	リヤインテリアランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
		フロント	リヤ	
MXPK10 MXPK11	M15A-FXE（1.5L ガソリン）	1NM	-	FF（前輪駆動）
MXPK15 MXPK16			1MM	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ **マルチメディアシステムで設定するには**

1 “MENU” スイッチを押す
2 “設定・編集” を選択する
3 “設定・編集” 画面の “車両” を選択する
4 “車両カスタマイズ” を選択する

■ **マルチインフォメーションディスプレイで設定するには**

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する
2 〈または〉を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
3 OK スイッチを短押しまたは長押しする

OK スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。
画面に表示されている内容に従って操作してください。

⚠ 警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアの画面操作で設定変更可能
B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
C トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→P.59）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.62, 65, 69）

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
EV インジケーター	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
エコアクセルガイド	表示	非表示	—	○	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
		給油後平均燃費			
オーディオシステム連携表示★	あり	なし	—	○	—
エネルギーモニター	表示	非表示	—	○	—
4WD（4WD 作動状態表示）★	表示	非表示	—	○	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	—	○	—
ドライブインフォ項目（1 行目）	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間			
ドライブインフォ項目（2 行目）	走行時間	平均車速	—	○	—
		走行距離			
走行結果表示	エコジャッジ	ドライブインフォメーション	—	○	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—

※ 機能についての詳しい説明は P.73 を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.75）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	あり	なし	—	○	—
タコメーター切りかえ	タコメーター	ハイブリッドシステムインジケーター	—	○	—
		表示なし			
方位計表示★	あり	なし	—	○	—
運転支援システム表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示★	あり	なし	—	○	—
ナビゲーション表示★	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック共通（→P.89, 96）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○
ブザー音	デコレーションサウンド	ノーマルサウンド	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★（→P.89, 96）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○
降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○
パワースイッチ文字照明	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ プッシュボタンスタートシステム★（→P.132）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
プッシュボタンスタートシステム	あり	なし	○	—	○
パワースイッチ文字照明	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ワイヤレスドアロック（→P.86, 89）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○

■ ドアミラー（→P.117）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動★	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウインドウ（→P.119）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.152）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ～ 2	○	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチと連動	運転席ドアと連動	—	—	○

■ ランプ（→P.152）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	○	—	○

■ ヘッドランプ一時点灯機能（→P.154）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドランプが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		90 秒			
		120 秒			

■ ワイパー&ウォッシャー（リヤ）（→P.162）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能（→P.162）	しない	する	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	する	しない	—	—	○
リバース連動機能（→P.162）	1 回のみ作動	しない	—	—	○
		連続作動			

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.171）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ※	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—

※ パワースイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」にもどります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.181）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.190）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	なし／告知表示のみ／告知表示とブザー	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2 km/h ／ 5 km/h ／ 10 km/h	—	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
追い越し禁止告知	なし／告知表示のみ／告知表示とブザー	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	なし／告知表示のみ／告知表示とブザー	—	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.202）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先行車発進告知機能	あり	なし	—	○	—
告知距離	中間	近い	—	○	—
		遠い			

■ ドライブスタートコントロール（→P.124）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし※	—	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」にもどります。

■ リヤシートリマインダー

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後席置き忘れ防止の表示	あり	なし	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.204）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ 共通（→P.218, 222）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★（→P.211）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.220）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★（→P.225）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ Toyota Teammate Advanced Park★（→P.237）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
音声案内	あり	なし	○	—	—
作動中の速度	標準	遅め	○	—	—
		速め			
障害物との距離	標準	遠い	○	—	—
優先駐車方法	並列	縦列	○	—	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
駐車進路調整	0（中央）	+1 ～ +3（外側）	○	—	—
		-1 ～ -3（内側）			
道幅調整	標準	やや狭い	○	—	—
		狭い			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→P.274, 280）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○

■ イルミネーション（→P.288）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○

■ 先読みエコドライブ★（→P.51）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先読みエコドライブ	する	しない	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
PKSB（パーキングサポートブレーキ）★	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.225

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 414
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 416
アルファベット順さくいん..... 418
五十音順さくいん 419

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.380）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.380）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.332）
- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.138）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.97）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.92）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.132）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.147）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.96）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.135）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.382）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.383）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.135）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.121）

パワースイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.138）

警告音が鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.416）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.352、358をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.362）

● 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.372）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.391）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.59
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.358
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.59
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.332
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.96
	電子キーを車内に置き忘れている	P.358

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.92
	パーキングブレーキが解除されていない	P.151
	シートベルトを着用していない※	P.354
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.127
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.198
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.171
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.181

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.190
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P.202
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナー★が作動した	P.211
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.220

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....274, 280
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....258
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
.....258
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....204
ECB
（エレクトロニカリーコントロール
ドブレーキシステム）.....258
EDR
（イベントデータレコーダー）.....6
EPS
（エレクトリックパワーステアリン
グ）.....258
FF
（フロントエンジンフロントドライ
ブ）.....400
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）.....75
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーショ
ン）.....397
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィック
ス）.....35
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....152
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....181
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..171
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....225
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....220
RSA
（ロードサインアシスト）.....190
SRS
（サプリメンタルレストレイントシ
ステム）.....27
S-VSC
（ステアリングアシステッドビーク
ルスタビリティコントロール）258
Toyota Safety Sense
LTA（レーントレーシングアシス
ト）.....181
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....171
RSA（ロードサインアシスト）190
オートマチックハイビーム.....156
先行車発進告知機能.....202
レーダークルーズコントロール
.....193
Toyota Teammate
Advanced Park.....237
TRC
（トラクションコントロール）258,
391
VSC
（ビークルスタビリティコントロー
ル）.....258

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....383
アームレスト.....299
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....220
格納のしかた.....118
操作.....117
ブラインドスポットモニター（BSM）204
ミラーヒーター.....275, 282
アクセサリーコンセント.....302, 310
アクセサリーソケット.....298
アクセサリーモード.....138, 142
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....258
アシストグリップ.....300
Advanced Park.....237
アラーム
オートアラーム.....59
音さくいん.....416
警告ブザー.....352
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....258
警告灯.....353
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）.....96
アンテナ（プッシュボタンスタートシステム）.....133

い

EV 走行時間表示.....73
EV ドライブモード.....143
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）
車両を緊急停止するには.....344
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能.....138, 142
車両を緊急停止するには.....344
ハイブリッドシステム始動のしかた.132, 139
モードの切りかえ.....138, 142
位置交換（タイヤローテーション）.325
イベントデータレコーダー（EDR）.....6
イモビライザーシステム.....58
イルミネーテッドエントリーシステム.....289
インジケーター（表示灯）.....63
インテリアランプ.....288
ワット数.....400
インナーミラー.....116

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....336
方向指示レバー.....150
ウインドウ
ウォッシャー.....160
パワーウインドウ.....119
リヤウインドウデフォッガー....275, 282
ウインドウロックスイッチ.....121
ウォッシャー
液の補給.....323
スイッチ（フロント）.....160
スイッチ（リヤ）.....162
タンク容量.....399
冬の前の準備・点検.....270
フロント.....160
リヤ.....162
動けなくなったときは（スタック）.391
運転
雨の日の運転.....125
運転を補助する装置.....258

寒冷時の運転.....270
正しい運転姿勢.....21
手順.....124
ハイブリッド車運転のアドバイス.....268
運転支援機能情報表示.....72
運転席シートベルト非着用警告灯...354

え

エアコン
オートエアコン.....274, 280
曇り取り（フロントガラス）.....275, 282
フィルターの清掃.....327
エアコン・デフォッガー.....274, 280
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯.....353
改造・廃棄.....32
警告ブザー.....353
作動条件.....28
正しい姿勢.....21
配置.....27
エコアクセルガイド.....71
エコジャッジ.....71
エネルギーモニター.....79
LED デイライト.....153
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.....258
警告灯.....354
エンジン
イモビライザーシステム.....58
エンジンスイッチ.....132, 139
オーバーヒート.....388
緊急時の停止方法.....344
ハイブリッドシステムが始動できない379
ハイブリッドシステムの始動方法.....132, 139
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）.....132, 139
ボンネット.....320
エンジンオイル
警告灯.....353
冬の前の準備・点検.....270
メンテナンスデータ.....396
容量.....396
エンジンスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能.....138, 142
車両を緊急停止するには.....344
ハイブリッドシステム始動のしかた.132, 139
モードの切りかえ.....138, 142
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....320
エンジンルーム.....320
エンジンルームから蒸気が出ている...388

お

オイル（エンジンオイル）.....396
応急用タイヤ.....372
交換方法.....372
オーディオシステム連携表示.....72
オートアラーム.....59
オートエアコン.....274, 280
オートマチックハイビーム.....156
オーバーヒート.....388
オープナー
給油扉.....165
バックドア.....94
ボンネット.....320
オープントレイ.....293
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ.....121
お子さまの安全のために.....34
キーの電池.....333
シートベルトの着用.....23, 24
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告.....286
チャイルドシート.....35

チャイルドシートの取り付け 35
チャイルドプロテクター 92
発炎筒の取り扱いに関する警告 344
バッテリーに関する警告 387
パワーウインドウに関する警告 120
オドメーター／トリップメーターディスプレイ 67
表示切りかえボタン 67
表示項目 67

か

カーテンシールドエアバッグ 27
カーペット
洗浄 317
フロアマットの取り付け方 20
外気温度表示 65, 79
回生ブレーキ 50
外装の電球（バルブ）
交換要領 336
ワット数 400
ガス欠になったとき 54
カスタマイズ機能 401
型式 400
カップホルダー 292
カメラ
前方カメラ（PCS） 166
白線認識用カメラ（LTA） 181
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 275, 282
ガレージジャッキ 321
冠水路走行 130
寒冷時の運転 270

き

キー
キーナンバープレート 86
キーの構成 86
キーレスエントリー 87, 96
キーをなくした 380
正常に働かない 381
施錠・解錠ができない 381
電子キー 86
電池が切れた 332
ハイブリッドシステムが始動できない 379
メカニカルキー 88
ワイヤレスリモコン 87
キーレスエントリー
スマートエントリー&スタートシステム 96
ワイヤレスドアロック 87
給油
給油のしかた 164
メンテナンスデータ 396
緊急時シートベルト固定機構 25
緊急始動機能（ハイブリッドシステム） 379
緊急時の対処
オーバーヒートした 388
キーの電池が切れた 332, 381
キーをなくした 380
警告灯がついた 352
警告メッセージが表示された 358
けん引 347
故障したときは 342
車両を緊急停止する 344
水没したときは 345
スタックした 391
電子キーが正常に働かない 381
ハイブリッドシステムが始動できない 379
発炎筒 343
パンクした 362, 372
補機バッテリーがあがった 383
緊急停止システム 56
緊急ブレーキシグナル 258

く

空気圧（タイヤ）
メンテナンスデータ……399
区間距離計（トリップメーター）……67
駆動用電池
警告メッセージ……56
充電について……50
搭載位置……53
冷却用吸入口……56
曇り取り
フロントガラス……275, 282
ミラーヒーター……275, 282
リヤウインドウデフォッガー……275, 282
クラクション（ホーン）……115
クリアランスソナー……211
警告メッセージ……213
操作……212
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ……152
電球（バルブ）の交換……336
クリップ
フロアマット……20
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）……193
グローブボックス……291

け

警音器（ホーン）……115
計器類（メーター）……65
警告灯……352
RCTA OFF 表示灯……355
ABS & ブレーキアシスト……353
SRS エアバッグ……353
LTA 表示灯……355
エンジン……353
クリアランスソナー OFF 表示灯……355
高水温……352
シートベルト非着用……354, 355
充電……353
スリップ表示灯……356
ドライブスタートコントロール……354
燃料残量……354
パーキングブレーキ表示灯……357
ハイブリッドシステム過熱……352
パワーステアリング……354
PKSB OFF 表示灯……356
PCS……356
ブレーキ……352
ブレーキオーバーライドシステム……354
油圧……353
警告ブザー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）……355
ABS & ブレーキアシスト……353
SRS エアバッグ……353
LTA（レーントレーシングアシスト）184, 355
エンジン……353
クリアランスソナー……355
高水温……352
シートベルト非着用……354, 355
衝突警報……171
接近警報（レーダークルーズコントロール）……198
手放し運転警告（LTA）……189
ドライブスタートコントロール……354
ハイブリッドシステム……353
ハイブリッドシステム過熱……352
パワーステアリング……354
半ドア……90
半ドア走行時……92
PKSB（パーキングサポートブレーキ）……356
ふらつき警報機能（LTA）……189

プリクラッシュセーフティシステム...356
プリクラッシュブレーキ...171
ブレーキ...352
ブレーキオーバーライドシステム...354
窓開...120
油圧...353
リバース...145
警告メッセージ...358
化粧ミラー（バニティミラー）...301

こ

交換
キーの電池...332
タイヤ...372
電球（バルブ）...336
ヒューズ...334
工具（ツール）...363, 373
航続可能距離...70, 82
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）...124
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換...336
高電圧部位...53
コーションラベル...53
コートフック...300
子供専用シート
取り付け方...36
小物入れ...291
コンソールボックス...292
コンライト（自動点灯・消灯装置）...152

さ

サービスプラグ...53
サイドエアバッグ...27
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換...336
方向指示レバー...150
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた...118
操作...117
ブラインドスポットモニター（BSM）...204
ミラーヒーター...275, 282
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）...220
先読みエコドライブ...51
サンバイザー...301

し

シート
正しい運転姿勢...21
チャイルドシート...35
調整...102, 103, 104
手入れ...317
ヘッドレスト...112
シートヒーター...286
シートベルト...23
お子さまの着用...23, 24
緊急時シートベルト固定機構...25
正しく着用するには...24
着け方・はずし方...25
手入れ...317
妊娠中の方の着用...23
非着用警告灯...354, 355
シートベルト非着用警告灯...354, 355
シートベルトプリテンショナー
機能...25
プリテンショナー警告灯...353
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）...54
室内灯（インテリアランプ）...288
始動のしかた...132, 139
シフトポジション...145
シフトレバー
P ポジションスイッチ...147
シフトポジションの切りかえ...147

操作 145
リバース警告ブザー 145
締め付けトルク（ホイール） 376
ジャッキ
ガレージジャッキ 321
車載ジャッキ 363, 373
ジャッキハンドル 363, 373
車幅灯
電球（バルブ）の交換 336
ランプスイッチ 152
車両型式 400
車両仕様（スペック） 396
車両情報表示 72
車両接近通知装置 51
車両を緊急停止するには 344
充電用 USB 端子 298
瞬間燃費 70, 82
仕様（車両仕様） 396
衝突時の急加速抑制 259
初期化
パワーウインドウ 119
初期設定 411
助手席シートベルト非着用警告灯 ... 354
助手席ターンチルトシート
助手席ターンチルトシートが車外に出た状態で回転できないときは 392

す

水温計 65
スイッチ
RCTA 221
Advanced Park 241
EV ドライブモード 143
イグニッション 132, 139
ウインドウロック 121
LTA（レーントレーシングアシスト） . 186
オートマチックハイビーム 156
クリアランスソナー 212
シート調整 102, 103
シートヒーター 287
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール） 193
ステアリングヒーター 287
TRC OFF 259
ドアミラー 117
ドアロック 91
ドライブモードセレクト 236
パワーウインドウ 119
パワースイッチ 132, 139
PKSB 226
PCS OFF 174
表示切りかえ 67
VSC OFF 259
フォグランプ 158
フロントウォッシャー 160
フロントワイパー 160
フロントワイパーデアイサー 274, 280
方向指示レバー 150
ホーン（警音器） 115
メーター操作 70
ランプ 152
リヤウインドウデフォッガー 274, 280
リヤウォッシャー 162
リヤフォグランプ 158
リヤワイパー 162
レーダークルーズコントロール 193
スタック 391
ステアリングスイッチ 299
ステアリングヒーター 286
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 115
ステアリングヒーター 286
メーター操作スイッチ 70
ステアリングロック 135, 140
解除できないとき 135, 140
警告メッセージ 135, 140

ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換 336
スノータイヤ（冬用タイヤ） 270
スピードメーター 65
スペアタイヤ（応急用タイヤ） 372
交換方法 372
スペック（車両仕様） 396
スマートエントリー&スタートシステム
アンテナの位置 96
カスタマイズ設定 401
緊急始動機能 379
作動範囲 96
正常に働かないとき 381
節電機能 97
電波がおよぼす影響について 100
ドアの解錠・施錠 89
ハイブリッドシステムの始動 139
バックドアの解錠・施錠 94
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 336
ランプスイッチ 152
スリップ表示灯 259

せ

清掃
外装 314
シートベルト 317
内装 317
ホイール・ホイールキャップ 314
レーダー 166
制動灯
電球（バルブ）の交換 336
セカンダリーコリジョンブレーキ 259
積算距離計（オドメーター） 67
セキュリティインジケーター 58, 59
接近警報（レーダークルーズコントロール） 198
先行車発進告知機能 202
センサー
LTA（レーントレーシングアシスト） 181
後側方レーダーセンサー 205
ライトセンサー 153
レーダー 166
洗車 314
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換 336
ヘッドランプ一時点灯機能 154
マニュアルレベリングシステム 155
ライトセンサー 153
ランプ消し忘れ防止機能 154
ランプスイッチ 152

そ

走行情報表示 70
走行モード（ドライブモード） 149, 236
速度計（スピードメーター） 65

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 336
方向指示レバー 150
ターンチルトシート
正しい運転姿勢 21
調整 104
タイヤ
応急用タイヤ 372
空気圧 326, 399
交換 372
締め付けトルク 376
チェーン 270
点検 323
パンク応急修理キット 362
パンクしたときは 362, 372

冬用タイヤ 270
ホイールサイズ 399
ローテーション（位置交換） 325
タイヤが空まわりする（スタックした） 391
タイヤチェーン 270

ち

チェーン（タイヤチェーン） 270
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 46
シートベルトでの固定 44
選択方法 35
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ） 151
警告灯 357
操作 151
冬季の注意 270
未解除走行時警告ブザー 151
メンテナンスデータ 399

つ

ツール（工具） 363, 373

て

ディスプレイ
ヘッドアップディスプレイ 75
マルチインフォメーションディスプレイ 69
手入れ
外装 314
シートベルト 317
内装 317
ホイール・ホイールキャップ 314
レーダー 166
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換 336
ランプスイッチ 152
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー） 275, 282
電気モーター 49, 53
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ） 336
ワット数 400
点検基準値（メンテナンスデータ） 396
電子キー 86
作動範囲 96, 133
正常に働かないとき 381
節電機能 97, 134
電池が切れた 381
電池交換 332
電子制御ブレーキシステム（ECB） 258
電池交換（キー） 332

と

ドア 89
スマートエントリー&スタートシステム 96
チャイルドプロテクター 92
ドアガラス 119
ドアロックスイッチ 91
バックドア 93
ロックレバー 92
ワイヤレスリモコン 89
ドアポケット 290
ドアミラー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート） 220
格納のしかた 118
操作 117
ブラインドスポットモニター（BSM） 204
ミラーヒーター 275, 282

盗難防止装置
イモビライザーシステム 58
オートアラーム 59
時計 65, 67
トップテザーアンカレッジ 47
Toyota Teammate Advanced Park 237
ドライブスタートコントロール 124, 125
急発進の抑制制御 124
後退速度の抑制制御 124
ドライブモードセレクトスイッチ 236
トラクションコントロール（TRC）..... 258
トランスミッション
操作 147
ハイブリッドトランスミッション 145
メンテナンスデータ 398
トリップメーター 67

な

内装
収納装備 290
手入れ 317

に

ニーエアバッグ 27
荷物
積むときの注意 131
バックドア 93
ラゲージルーム内装備 295

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）..... 391

ね

燃費
エネルギーモニター 79
給油後平均燃費 82
瞬間燃費 70, 82
平均燃費 70, 82
燃料
給油 164
種類 396
燃料計 65
燃料残量警告灯 354
容量 396
燃料計 65

は

パーキングサポートブレーキ
操作 226
パーキングブレーキ 151
警告灯 357
操作 151
冬季の注意 270
未解除走行時警告ブザー 151
メンテナンスデータ 399
パーソナルランプ 289
ワット数 400
排気ガス 33
ハイビーム（ヘッドランプ）
オートマチックハイビーム 156
電球（バルブ）の交換 336
ランプスイッチ 152
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード 143
運転のアドバイス 268
エネルギーモニター 79
オーバーヒート 388
回生ブレーキ 50
ガス欠になったとき 54

緊急始動機能.....379
緊急時の停止方法.....344
緊急停止システム.....56
駆動用電池冷却用吸入口.....56
警告メッセージ.....56
高電圧部位.....53
サービスプラグ.....53
先読みエコドライブ.....51
事故が発生したとき.....54
始動できないときは.....379
始動方法.....132, 139
車両接近通報装置.....51
充電.....50
注意.....53
特徴.....49
特有の音と振動.....51
パワー（イグニッション）スイッチ.132, 139
補機バッテリーがあがった.....383
メンテナンス・修理・廃車するとき.....51
ハイブリッドシステムインジケーター.....66, 71, 78
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....336
ハザードランプ（非常点滅灯）
電球（バルブ）の交換.....336
挟み込み防止機能
パワーウインドウ.....119
発炎筒.....343
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....336
バックドアオープナー.....94
バッテリー（駆動用電池）
充電について.....50
搭載位置.....53
冷却用吸入口.....56
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯.....353
補機バッテリーがあがった.....383
バニティ（化粧用）ミラー.....301
バニティミラーランプ
装備について.....301
ワット数.....400
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....336
ワット数.....400
パワー（イグニッション）スイッチ
自動電源 OFF 機能.....138, 142
ハイブリッドシステム始動のしかた.132, 139
モードの切りかえ.....138, 142
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ.....121
閉めることができないときは.....119
初期化.....119
操作.....119
ドアロック連動ドアガラス開閉機能.....120
挟み込み防止機能.....119
巻き込み防止.....119
パワーコントロールユニット.....53
パワーステアリング.....258
警告灯.....354
専用パワーステアリング.....267
パンクした
応急用タイヤ装着車.....372
タイヤパンク応急修理キット装着車.....362
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換.....336
ランプスイッチ.....152
ワット数.....400
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整.....115
ステアリングヒーター.....286
メーター操作スイッチ.....70

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....258
ヒーター
エアコン・デフォッガー.....274, 280
シートヒーター.....286
ステアリングヒーター.....286
ミラーヒーター.....275, 282
非常点滅灯
緊急ブレーキシグナル.....258
非常点滅灯（ハザードランプ）
電球（バルブ）の交換.....336
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換.....336
ランプスイッチ.....152
ヒューズ.....334
表示切りかえボタン.....67
表示灯.....63
日よけ（サンバイザー）.....301
ヒルスタートアシストコントロール258

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....383
フォグランプ.....158
電球（バルブ）の交換.....336
ランプスイッチ.....158
ブザー
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....198
手放し運転警告（LTA）.....189
パーキングブレーキ未解除走行時警告151
半ドア走行時警告.....92
ふらつき警報機能（LTA）.....189
窓開警告.....120
リバース警告.....145
フック
けん引フック.....349
コートフック.....300
フロアマット固定フック.....20
プッシュボタンスタートシステム
電波がおよぼす影響について.....136
プッシュボタンスタートシステム
アンテナの位置.....133
作動範囲.....133
ハイブリッドシステムの始動.....132
フューエルメーター.....65
フューエルリッド（給油口）
給油のしかた.....164
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....270
冬用タイヤ.....270
ブラインドスポットモニター（BSM）.....204
プラスサポート.....264
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能.....171
PCS OFF スイッチ.....174
プリクラッシュセーフティシステム（PCS）
PCS 警告灯.....356
ブレーキ
回生ブレーキ.....50
緊急ブレーキシグナル.....258
警告灯.....352
パーキングブレーキ.....151
メンテナンスデータ.....398
ブレーキアシスト.....258
ブレーキフルード.....398
フロアマット.....20
フロントシート
シートヒーター.....286
ターンチルトシート.....104
正しい運転姿勢.....21
調整.....102, 103
手入れ.....317
ヘッドレスト.....112

フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換 336
方向指示レバー 150
フロントワイパーデアイサー 278, 285

へ

平均車速 82
平均燃費 70, 82
ヘッドアップディスプレイ 75
運転支援システム表示 77
外気温度表示 79
設定 76
ハイブリッドシステムインジケーター 78
割り込み表示 78
ヘッドランプ
電球（バルブ）の交換 336
ヘッドランプ一時点灯機能 154
マニュアルレベリングシステム 155
ライトセンサー 153
ランプ消し忘れ防止機能 154
ランプスイッチ 152
ヘッドレスト 112

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 372
メンテナンスデータ 399
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 336
方向指示レバー 150
ホーン（警音器） 115
補機バッテリー
補機バッテリーがあがった 383
保証 7
ボトルホルダー 292
ボンネット 320
開け方 320

ま

マルチインフォメーションディスプレイ
明るさの調整 68
EV 走行時間表示 73
運転支援機能情報表示 72
エコアクセルガイド 71
エコジャッジ 71
オーディオシステム連携 72
警告メッセージ 358
車両情報表示 72
設定 73
走行情報表示 70
時計 67
ドライブインフォメーション 72
燃費グラフ 70
ハイブリッドシステムインジケーター 71
メーター操作スイッチ 70
メニューアイコン 69
4WD 作動状態表示 73

み

ミラー
アウターミラー 117
インナーミラー 116
ドアミラー 117
バニティミラー 301
ミラーヒーター 275, 282

め

メーター
計器類 65
警告灯 352
警告メッセージ 358
設定 73
時計 65
ハイブリッドシステムインジケーター 66

表示灯 63
マルチインフォメーションディスプレイ 69
メーター操作スイッチ 70
メーター照度調整 67
メカニカルキー 88
メニューアイコン 69
メンテナンスデータ 396

も

モーター（電気モーター） 53
モーターでの走行（EV ドライブモード） 143

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 401
雪道ですべって動けない（スタックした） 391
油脂類 396

よ

4WD 作動状態表示 73

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 336
ランプスイッチ 152
ラゲージルーム 93, 295
ラゲージルーム内の装備 295
ラゲージルームランプ 95
ワット数 400
ラジエーター
オーバーヒート 388
メンテナンスデータ 398
ランプ
室内灯 288
電球（バルブ）の交換 336
非常点滅灯（ハザードランプ） 343
フォグランプ 158
ヘッドランプ（前照灯） 152
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 150
ライトセンサー 153
ランプ消し忘れ防止機能 154
リヤフォグランプ 158
ランプ消し忘れ防止機能 154

り

リモートスタート 279, 286
リヤウィンドウデフォッガー 275, 282
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 220
警告メッセージ 221
リヤシート 111
ヘッドレスト 112
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ... 355
リヤディファレンシャル
メンテナンスデータ 398
リヤフォグランプ 158
電球（バルブ）の交換 336
ランプスイッチ 158
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 336
方向指示レバー 150

る

ルームミラー（インナーミラー） 116

れ

冷却水
冬の前の準備 270
メンテナンスデータ 398

冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート……388
メンテナンスデータ……398
レーダークルーズコントロール
警告メッセージ……200
接近警報……198
レーダー……166
レーントレーシングアシスト（LTA）
……181
警告メッセージ……189
操作……186
レバー
シフト……145
方向指示……150
ボンネット解除……320

ろ

ロードサインアシスト (RSA)……190
ロック
ウインドウロック……121
スマートエントリー&スタートシステム
……96
チャイルドプロテクター……92
ドア……89
ワイヤレスリモコン……87

わ

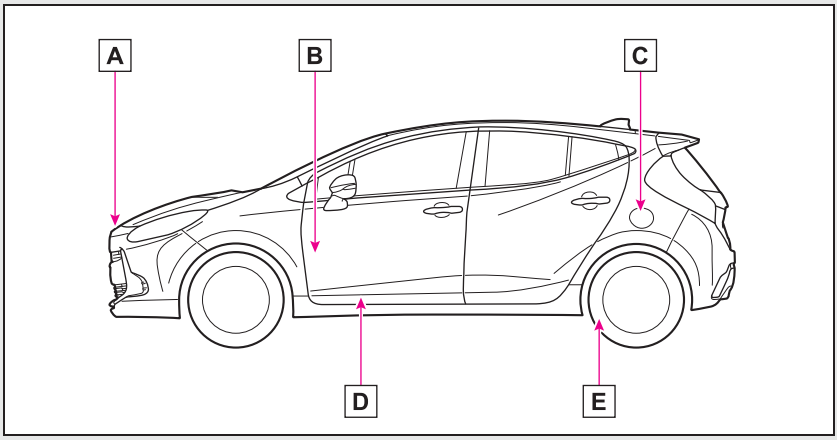
ワイパー&ウォッシャー
ウォッシャー液の補充……323
フロント……160
リヤ……162
ワイパーブレード（寒冷地用）……271
ワイヤレスリモコン
作動の合図……90
操作……87
電池の交換……332
半ドア警告ブザー……90
ワックス……314
ワット数……400

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」または「ナビゲーション取扱書」をお読みください。

- オーディオ
- ナビゲーションシステム
- 音声操作システム
- ハンズフリー
- T-Connect
- ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.320）

B ボンネット解除レバー（→P.320）

C 給油口（→P.165）

D 給油扉オープナースイッチ（→P.165）

E タイヤ空気圧（→P.399）

燃料の容量（参考値）	36L	
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。	P.396
タイヤが冷えているときの空気圧		P.399
エンジンオイル容量（参考値）		P.396
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル	P.396

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ニ J-1

TOYOTA

M 52L42
01999−52L42
IC-2021年 7 月12日
2021年 7 月19日 初版
アクア